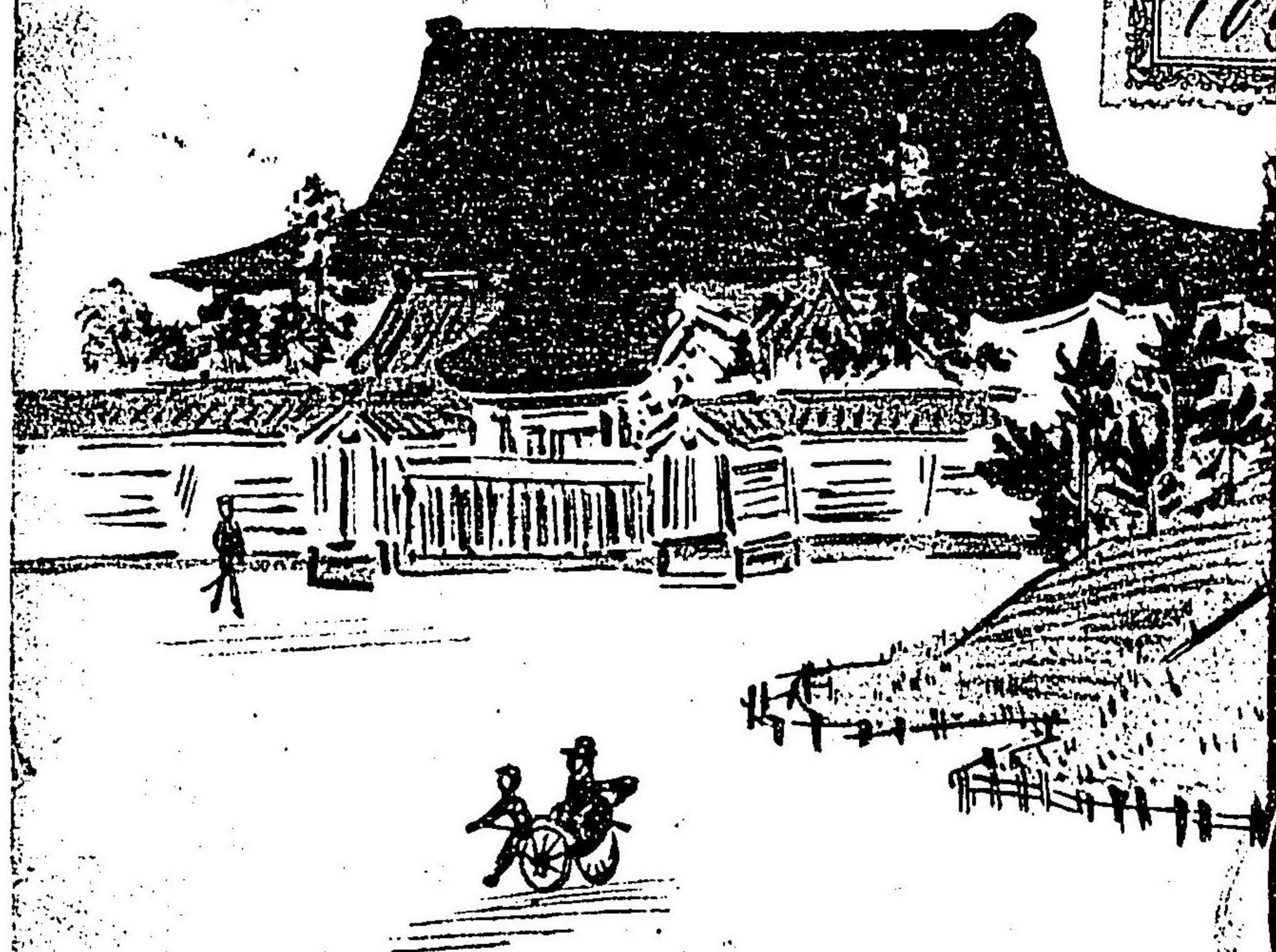


京都
獨名所
案内

9
10



的場麗水著

京都名所獨案内

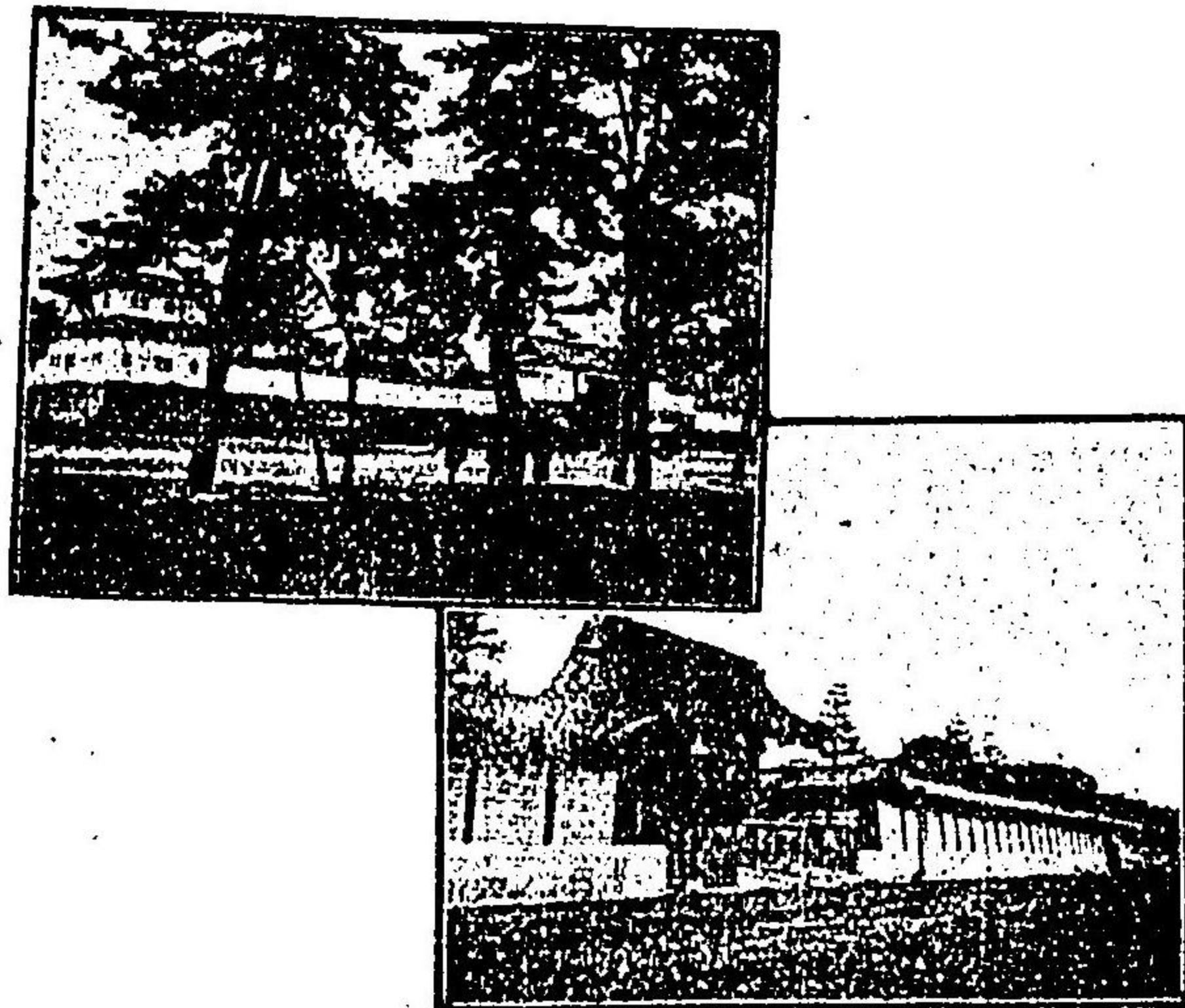
至誠堂藏版

◎凡 例

一日本は世界の國にして京都は日本の美術園なり内外人
が如何に京都の幽邃なる風景に心神を娛ましむるかば
こゝに敢て喋々するの要もなかるべし明治三十六年は
第五回内國勸業大博覽會を隣地なる大阪に開かるれば
内外人が如何に京都の山水の美を喫せんとするや實に
はかるべがらず乃ち訪ひ來る四方の人々に名所舊蹟を
案内せんが爲め茲に此書を編せしなり

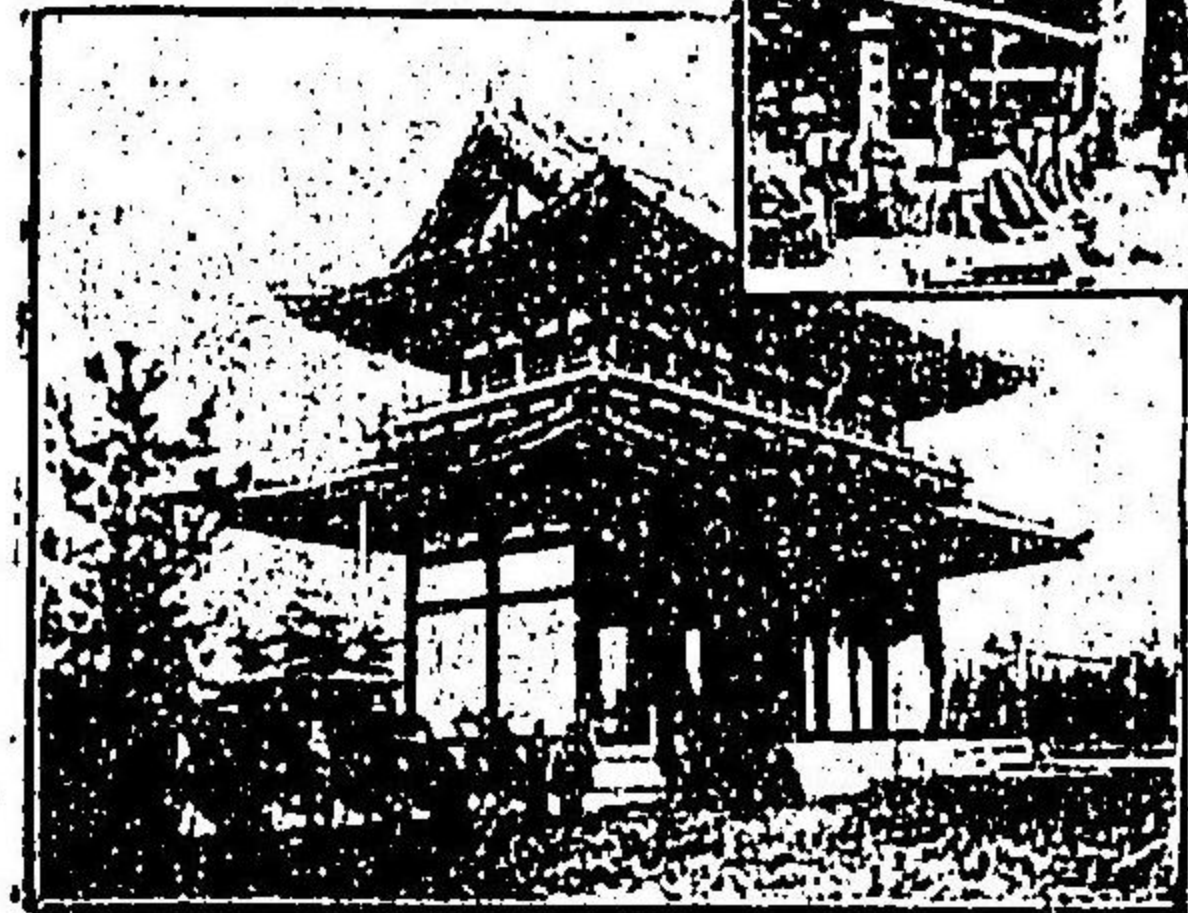
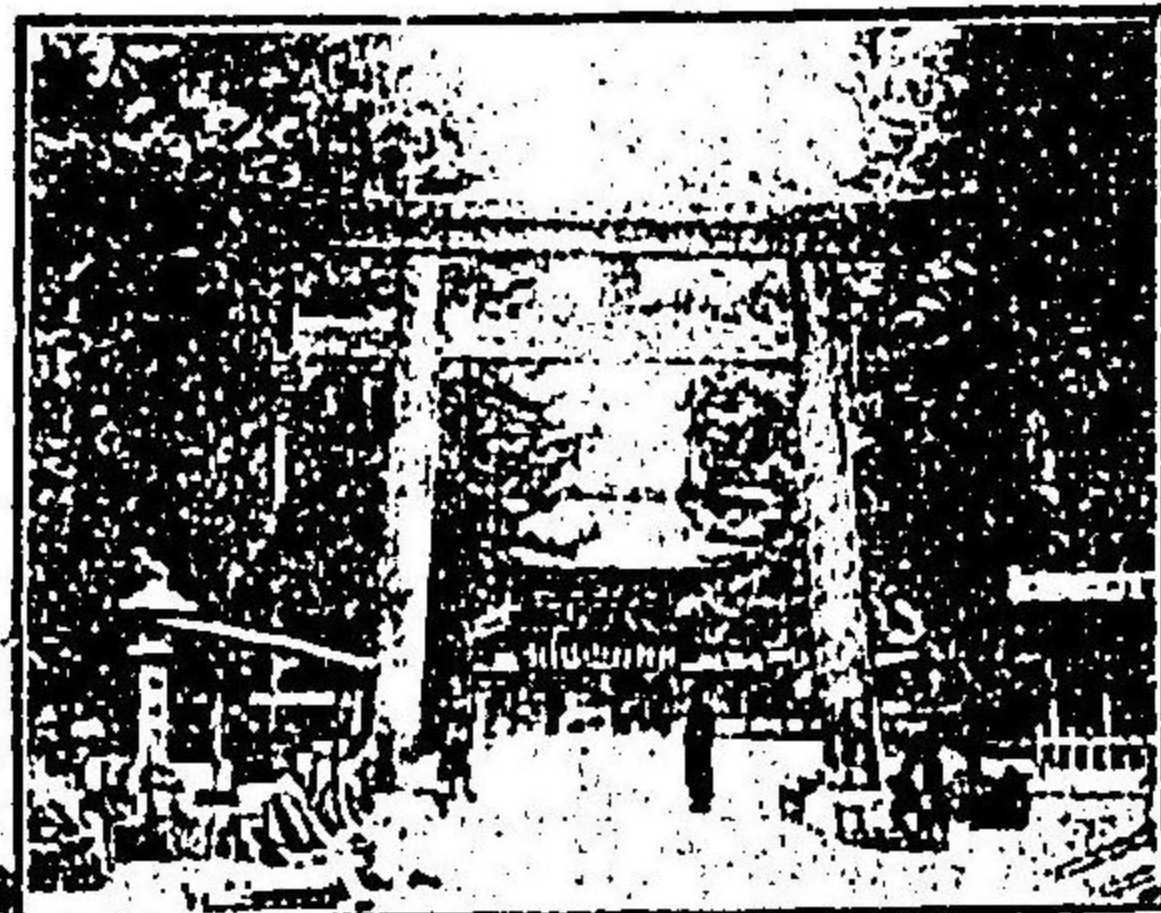
一本書は京都名所獨案内と題すれども唯だ京都市の内外

二 条 城



うきり

加 茂



應 天 門

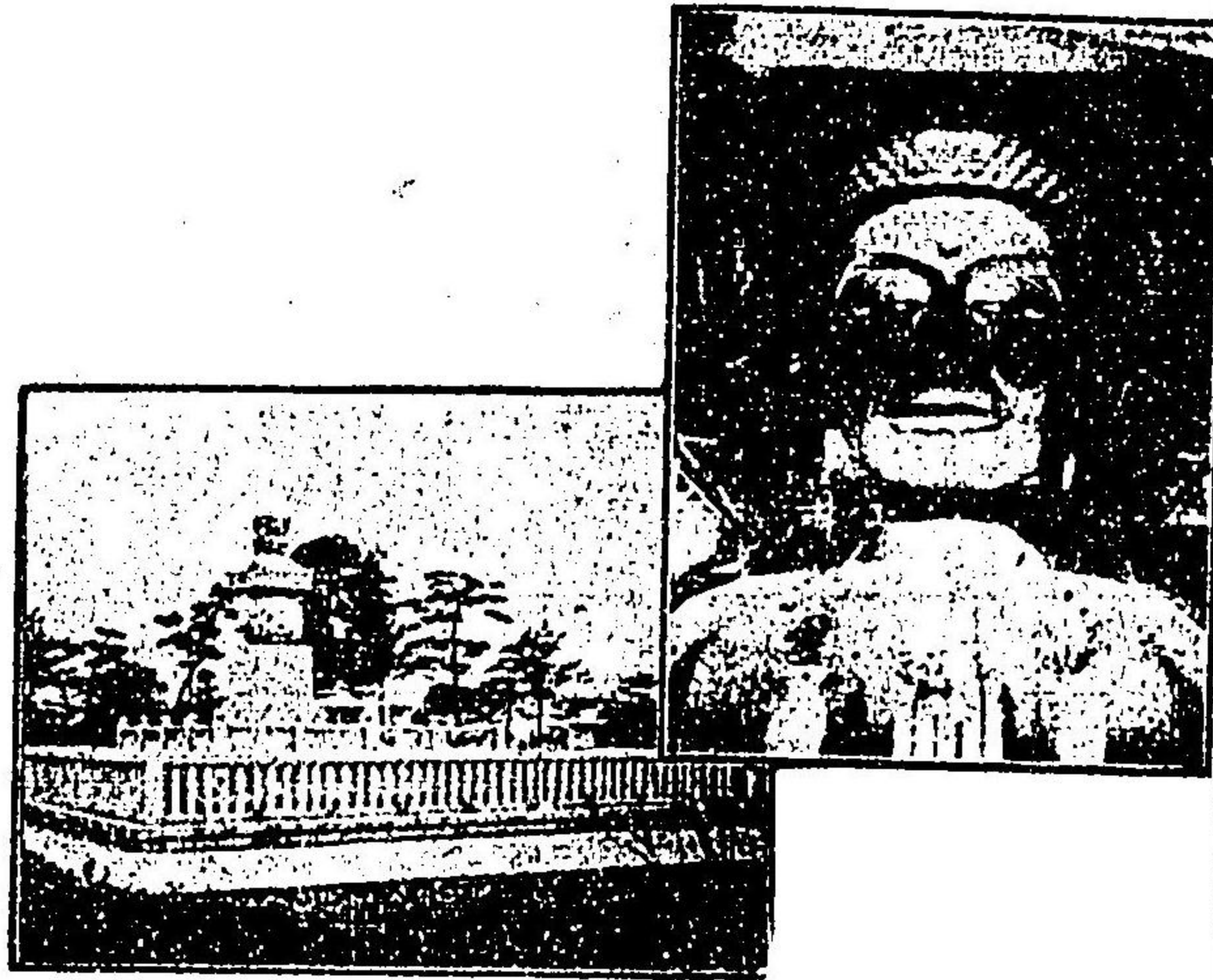
に止らず廣く山城國中の名所舊蹟を書き盡したり
 一神社佛閣には其縁起を詳記し猶有名の書畫佛像等には
 その作者及び筆者を附記し以て美術を嗜む人々の参考
 に便す

一筆を 御苑内に起し東山西山を巡り次に郡部各地に及
 ぶ専ら旅客をして遊覽の便を得せしめんことを期せり

明治卅六年春の彌生

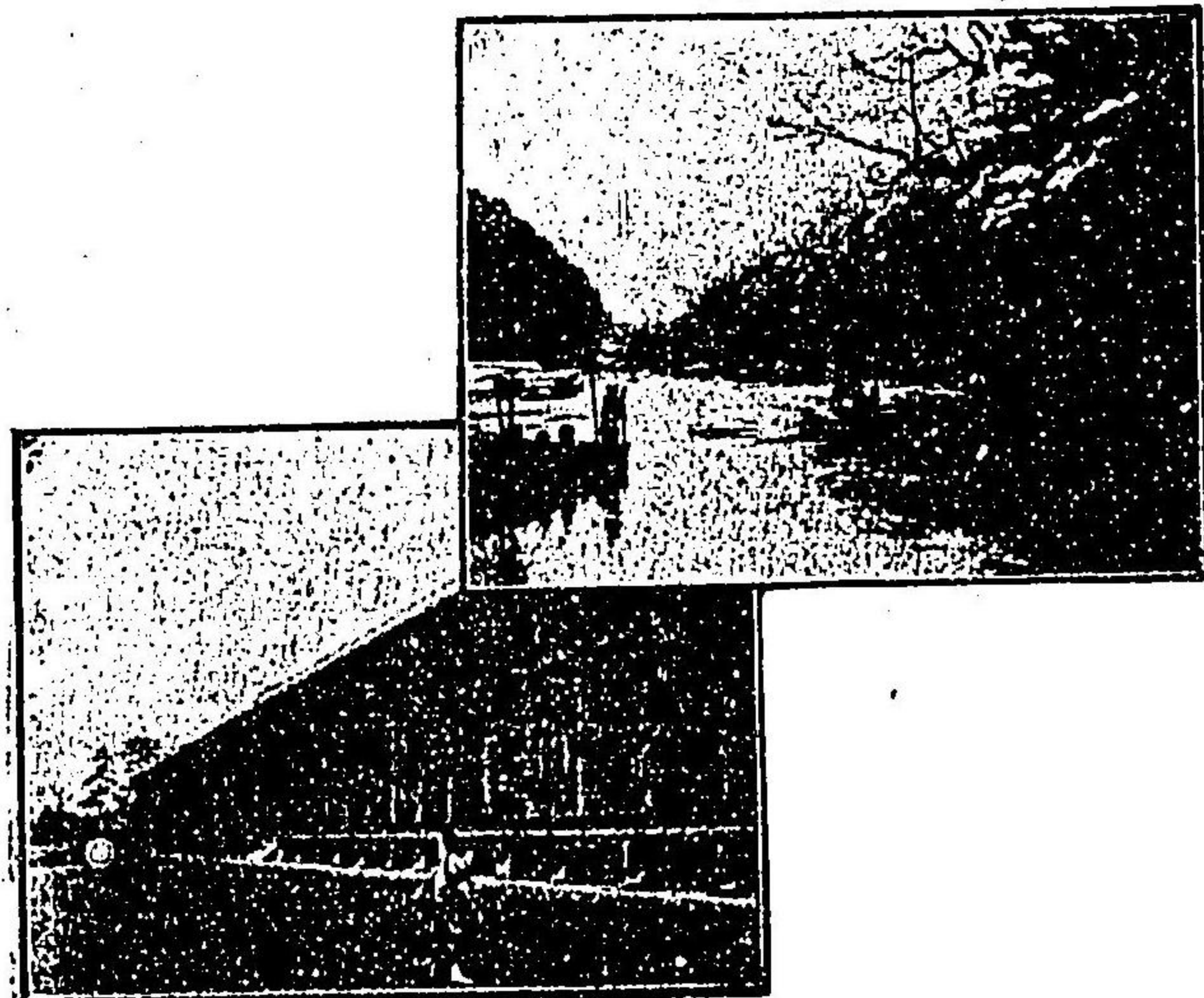
著 者 識

佛 大



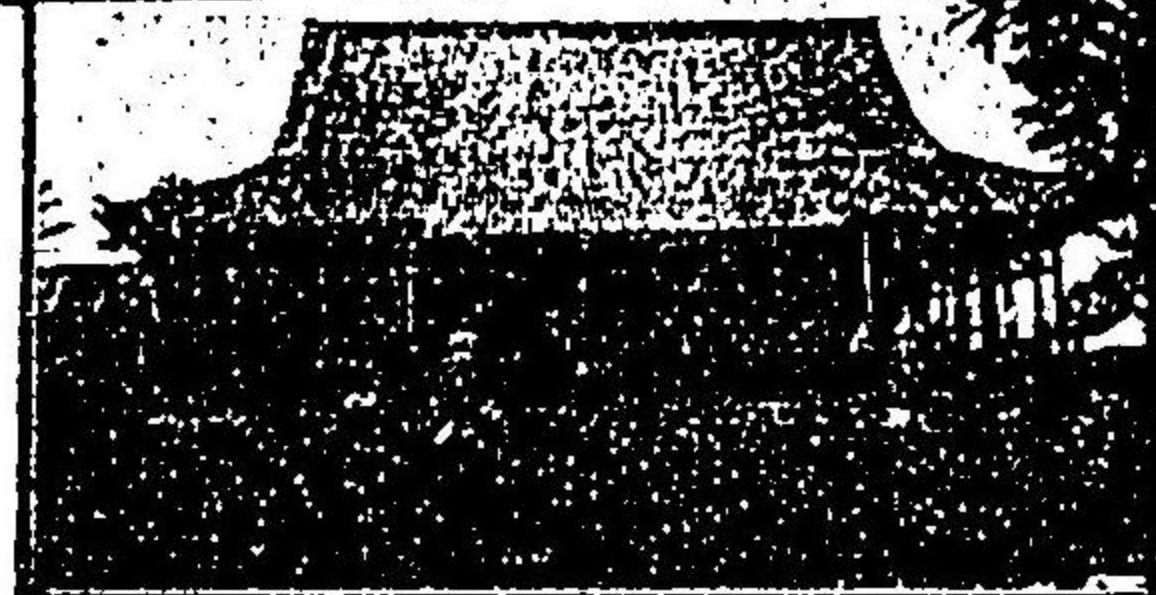
峰カダミア

川 津 保

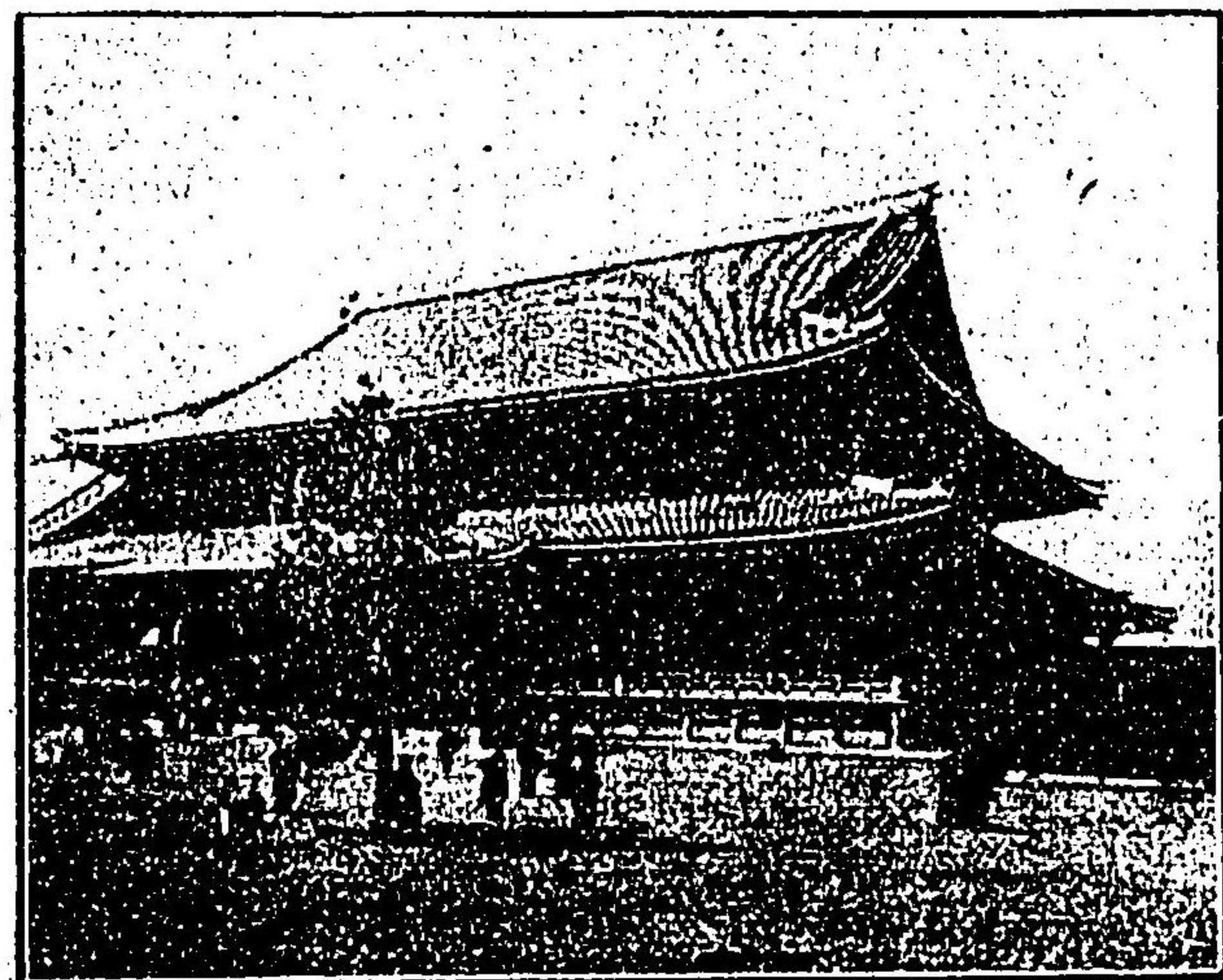


堂 間 三 十 三

寺 願 本 西



谷 大 西

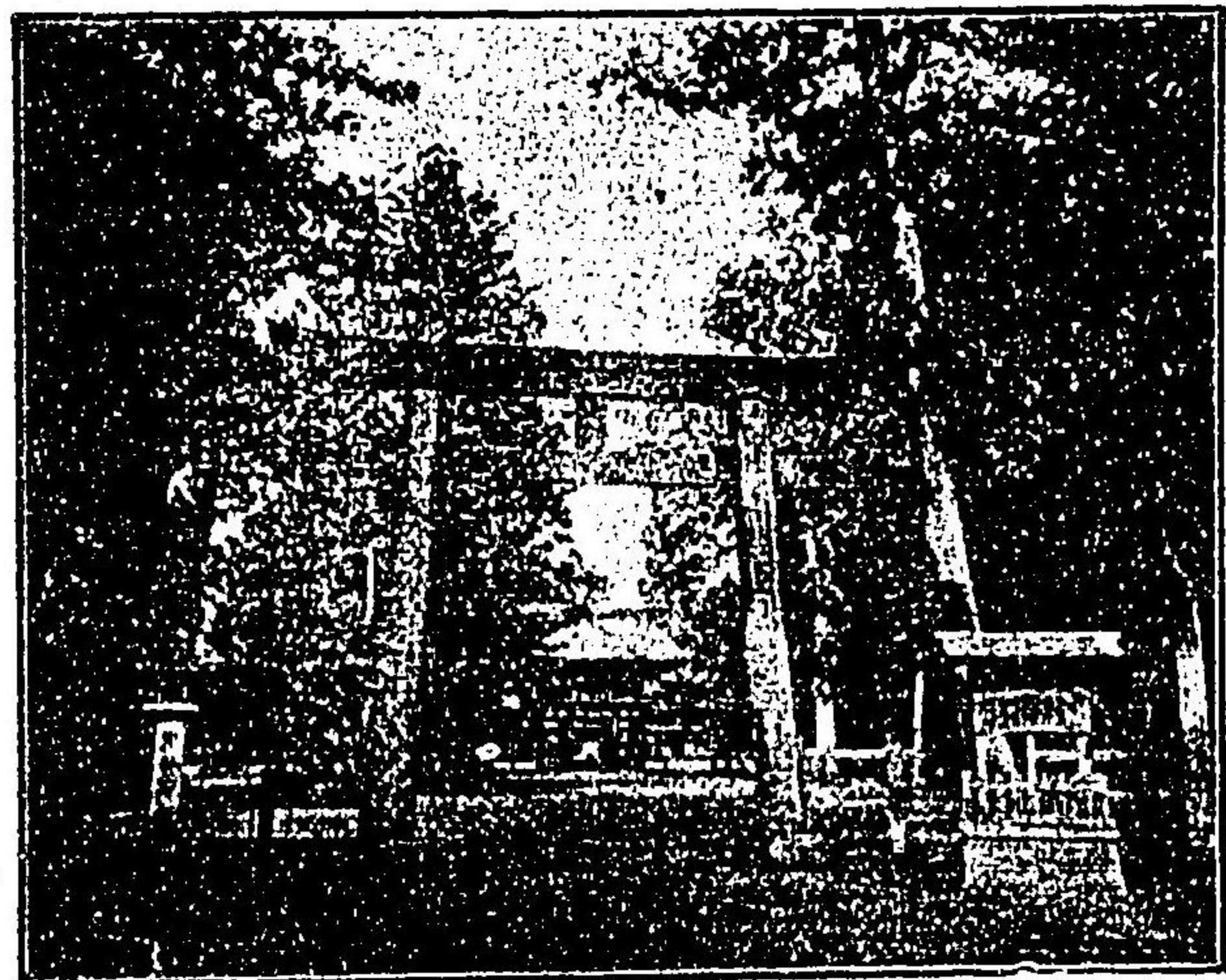


寺 願 本 東

北野天神

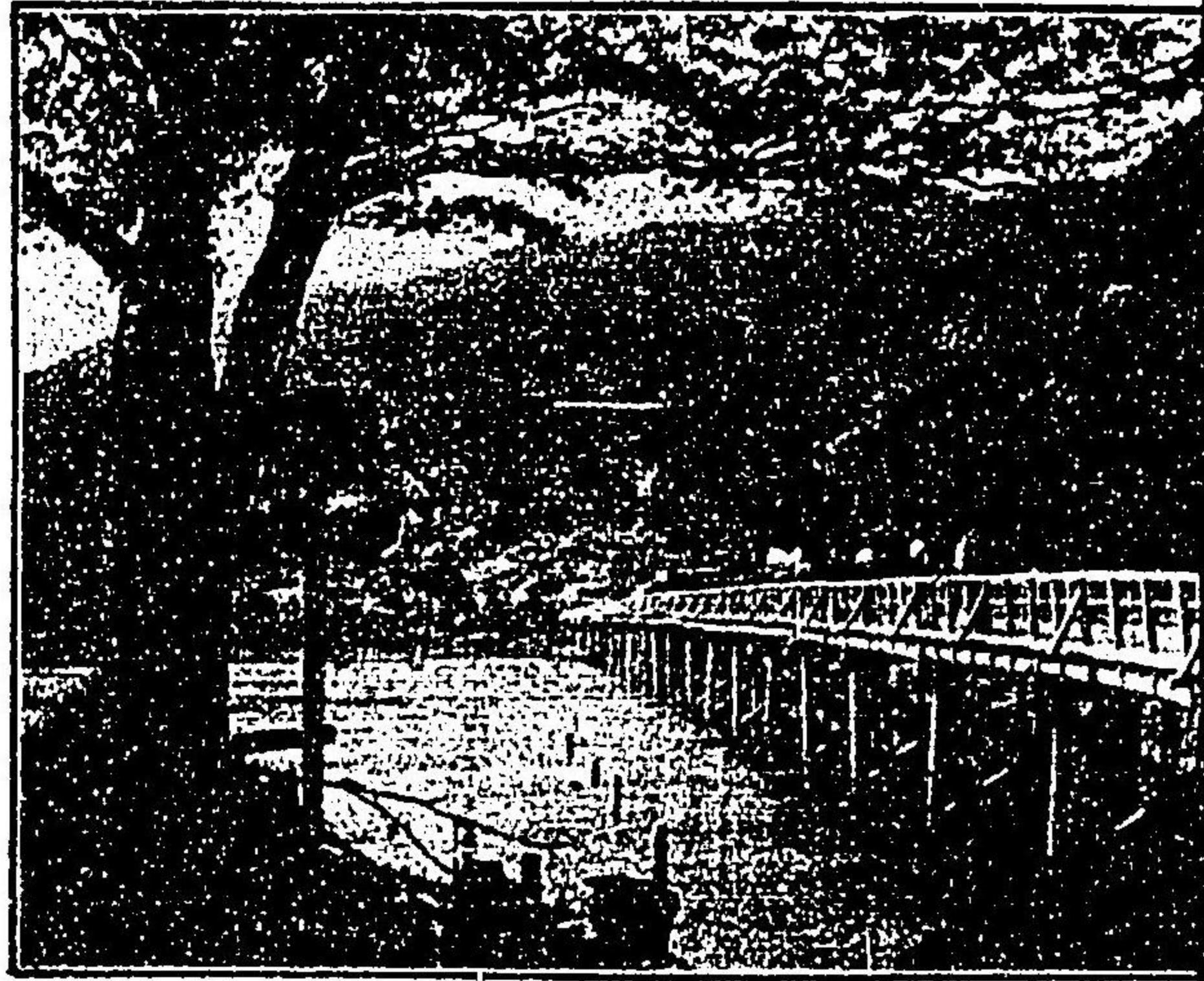


銀閣寺

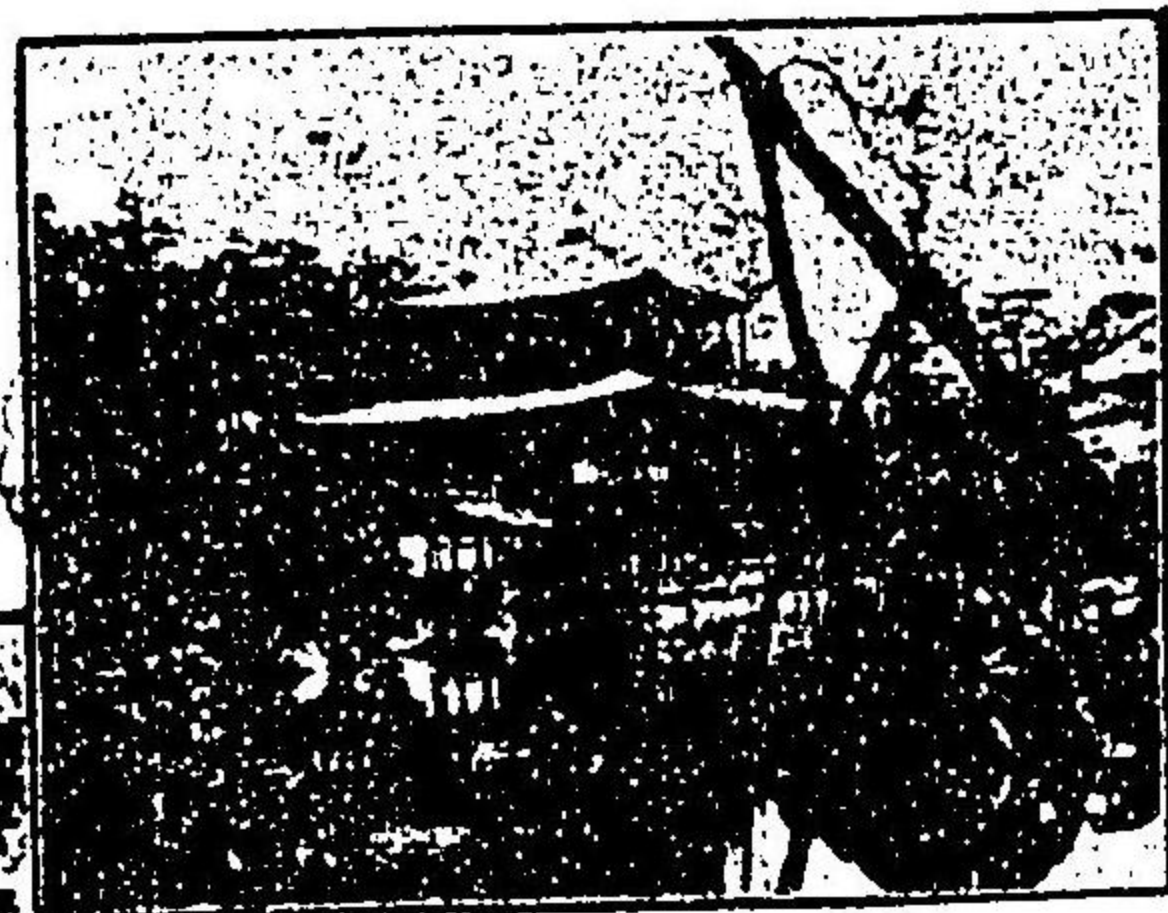


下加葛

橋 月 渡



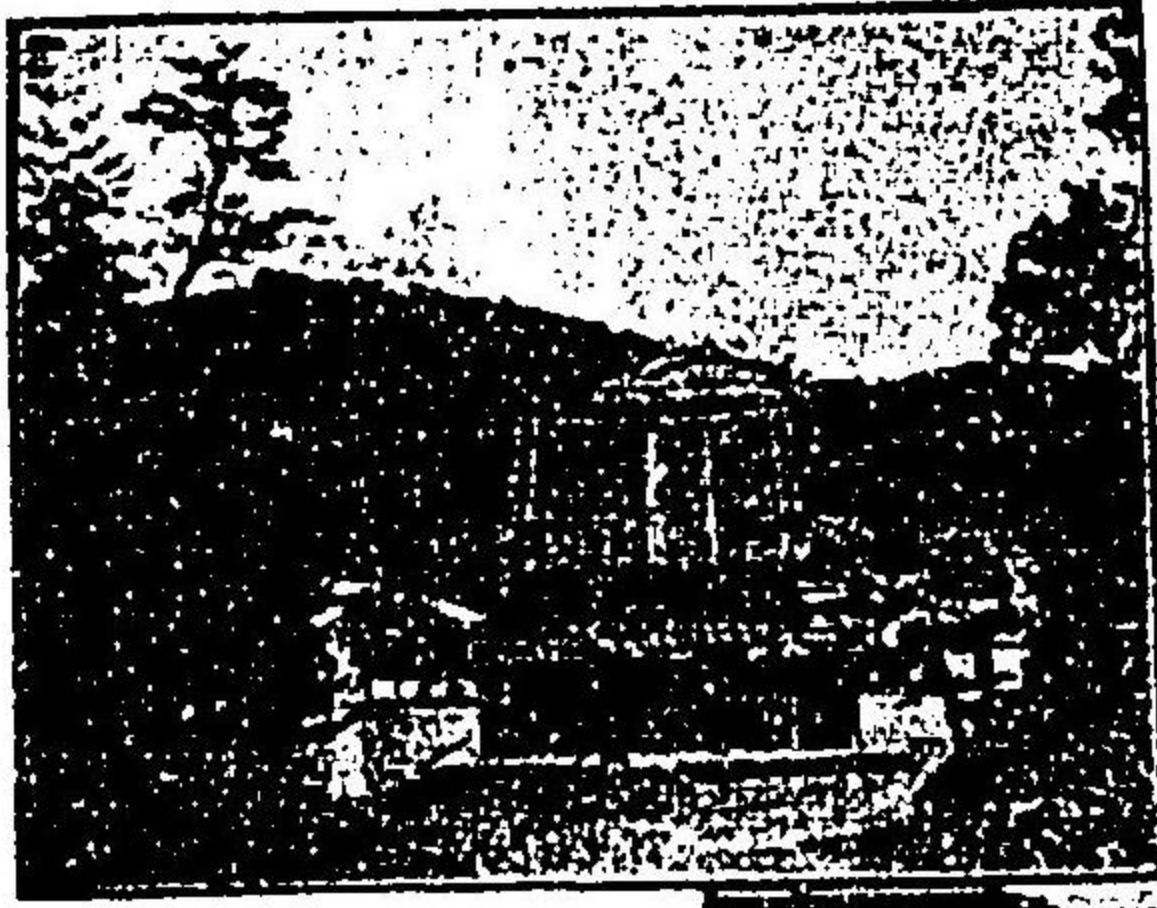
寺 閣 金



雄 高

27 18 37

インクライン



寺 浦 泉

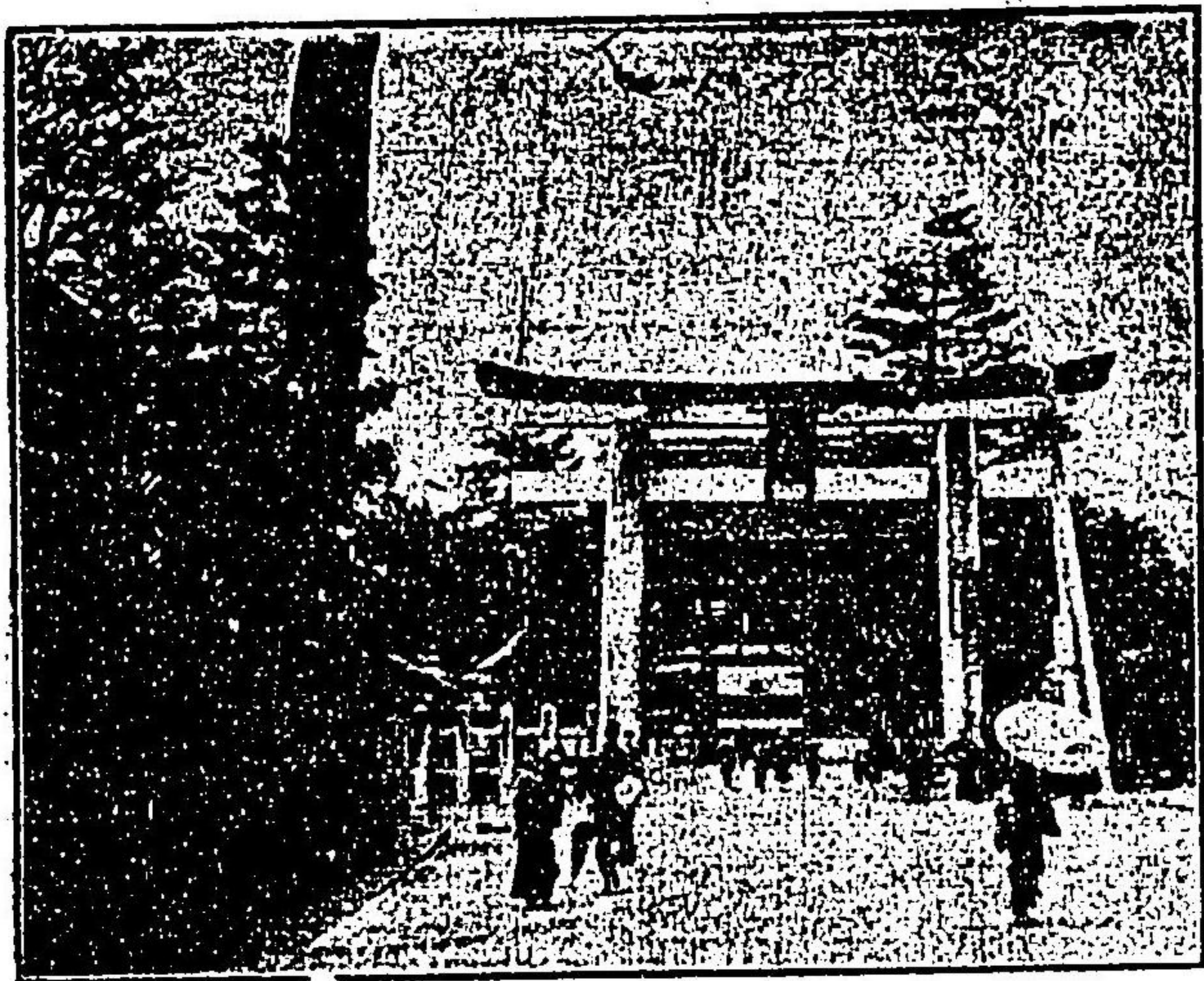


祭 園 祇

水 疏



原 島



社 神 坂 八

京都名所獨案内目錄

- 山城國
- 九條家の舊庭
- 京都府廳
- 萬年山相國承天禪寺
- 具足山妙顯寺
- 白峰神社
- 堀川
- 安陪晴明社
- 櫻葉宮
- 聚楽亭の舊趾
- 安穩山大超寺
- 華宮山十念寺
- 廬山天台講寺
- 府立尋常師範學校
- 行願寺
- 妙塔山妙滿寺
- 本能寺
- 高瀬川
- 受陀羅山天性寺
- 檀王法輪寺
- 京都市
- 市立京都美術工藝學校
- 上御靈社
- 具足山妙覺寺
- 金剛山大應寺
- 今日菴宗旦の跡
- 尻橋
- 瑞光院
- 家隆山石像寺
- 般舟三昧院
- 西陣
- 廣布山本滿寺
- 梨木神社
- 下御靈社
- 活荒神社
- 常盤ホテル
- 開法山頂妙寺
- 電燈會社
- 矢田山金剛寺
- 空中山寂光寺
- 御苑内
- 護王神社
- 中川
- 卯木山妙蓮寺
- 叡昌山本法寺
- 燒天山般若寺
- 小野小町雙紙洗の水
- 惠光山本隆寺
- 北向山歡喜寺
- 惠照山淨福寺
- 蓮臺山阿彌陀寺
- 淨華院
- 府立療病院
- 京都裁判所
- 專修寺御坊
- 京都市議事堂
- 新京極
- 源三位賴政
- 三條本橋
- 瑞泉寺

(2)

- 先斗町
- 大木山圓福寺
- 長金寺
- 誓願寺
- 監獄
- 祇園御旅所
- 龍池山大雲院
- 四橋河原夕涼
- 宮川町
- 靈鷲山正法寺
- 八坂法觀寺
- 七觀音
- 牛王地社
- 驅梅院
- 金玉山雙林寺
- 東大谷
- 東山長樂寺
- 華頂山大谷寺知恩教院
- 粟田天王やしろ
- 靈頂山觀音聖人植髮の尊像
- 六角堂頂法寺
- 蛸薬師
- 清淨寺
- 紫雲山極樂院光勝寺
- 神泉苑
- 錦綾山金蓮寺
- 祇園會の祭式
- 四條通
- 東山建仁禪寺
- 靈峯山高坐寺
- 八坂庚申堂
- 八坂
- 祇園町
- 祇園館
- 西行庵
- 嵐鶴屋
- 圓山の公園
- 白川の水上
- 佛光寺の廟所
- 青蓮院
- 錦大神社
- 西光寺
- 誠心院
- 二條離宮
- 不來乎護師
- 十住心院
- 四條橋
- 仲源寺
- 蛭子社
- 靈山招魂場
- 伽羅の觀音
- 安井神社
- 一力樓
- 八坂神社
- 芭蕉堂
- 祇園女御の舊跡
- 圓山安養寺
- 東三條金藏寺御棧堂
- 將軍塚
- 吉水園

(3)

- 粟田神明宮
- 疏水運河
- 金地院
- 水路閣
- 組師堂
- 鹿ヶ谷
- 善喜山萬無寺法然院
- 第三高等中學校
- 紫雲山金戒光明寺黒谷
- 熊野神社
- 第四回内國勸業博覽會場
- 回古屋塚
- 十禪師社
- 松豐八幡宮
- 河原院の舊跡
- 太子堂白毫寺
- 後白河法皇の宸影
- 市中山金光寺
- 汗谷山佛光寺
- 一音寺
- 東岩蔵眞性院
- 瑞龍山太平興國南禪寺
- 駒が漣
- 天授庵
- 正東山若王子
- 知意嶽
- 大文字山
- 吉田神社
- 岡崎神社
- 紀念殿
- 等覺山念佛寺
- 珍皇寺
- 若宮八幡
- 新善光寺御影堂
- 木覺寺
- 來迎堂新善光寺
- 鬼頭天王
- 籬の池
- 因幡堂平等寺
- 音羽山清水寺
- 嶽上
- 南禪院
- 東照宮廟
- 聖乘來迎山禪林寺永觀堂
- 靈芝山光雲寺
- 住蓮山安樂寺
- 銀閣寺
- 鈴聲山眞正極樂寺眞如堂
- 示現山滿願寺
- 平安神宮
- 普陀洛山六波羅密寺
- 晴明の社
- 五條橋
- 下京區役所
- 櫻龜社
- 負別阿彌陀佛
- 橘行平痢塚
- 花開稻荷社
- 五條天神宮
- 子安觀音

(4)

- 歌の中山清閑寺
- 三島明神
- 鳥邊山
- 妙安寺
- 大佛殿方廣寺
- 蓮華王院三十三間堂
- 東山泉涌寺
- 東本願寺
- 滴翠園
- 炬火殿
- 宇賀社
- 東寺
- 食堂本尊
- 灌頂院
- 寶藏
- 賀茂御祖神社
- 干菜山光福寺
- 北山御坊親鸞聖人の舊跡
- 赤川の社
- 修學院離宮
- 歌の中山
- 總信忠信の石塔婆
- 新日吉社
- 阿彌陀峰一に豐國山
- 耳塚
- 新熊野觀音
- 惠日山東福寺
- 枳殻邸
- 常樂寺
- 金光寺
- 大光山本國寺
- 金堂本尊
- 夜叉神
- 八幡宮
- 羅城門
- 御手洗川
- 瓜生山將軍地蔵
- 詩仙堂
- 玉山稻荷社
- 御蔭社
- 小松谷正林寺
- 西大谷
- 智積院
- 豐國神社
- 京都博物館
- 新熊野社
- 稻荷神社
- 本願寺
- 興正寺
- 成興寺
- 壬生寺
- 講堂本尊
- 五重塔
- 八島社
- 島原の遊廓
- 長徳山知恩寺四萬遍
- 北白川
- 天王社
- 圓光寺
- 加茂別雷神社

(5)

- 八瀬の里
- 御菩薩池
- 八幡岡
- 三宅八幡宮
- 魚山來迎院
- 梶井宮圓融院梨本房
- 古知谷光明山阿彌陀寺
- 江文のやしろ
- 根本中堂本尊
- 大觀堂
- 山王院
- 西塔寶幢院
- 常行堂
- 相輪椗
- 中堂
- 大師堂
- 飯室
- 不動堂
- 雪母坂
- 滿土泥輪辻
- 大原
- 市原の普陀洛寺
- 長谷八幡宮
- 惟喬親王遺跡
- 音無瀧
- 魚山勝林寺
- 寂光院
- 比叡山
- 一乗戒壇堂
- 前唐院
- 千手井
- 法華堂
- 椿堂
- 青龍寺
- 慈惠大師
- 觀音堂華表岡
- 安樂院
- 大乗院
- 南光坊
- 登天石
- 松崎本涌寺
- 北岩藏大雲寺
- 朗詠谷
- 融通寺
- 小野山
- 實光坊
- 臘清水
- 東塔
- 文殊樓
- 千手堂
- 淨土院
- 轉法輪堂
- 寶幢院
- 横川
- 四季講堂
- 慈忍和尚廟
- 無動寺
- 辨財天
- 當山名勝
- 常光坊

(6)

- 三ツ子坂
- 五百漢羅
- 波母山
- 阿彌陀峯
- 護法石
- 衣掛石
- 戒心谷
- 鮎池 ○水飲
- 紫野
- 今宮の社
- 雲林院
- 七の社
- 同所靈源寺
- 松尾山鞍馬寺
- 寶船社
- 岩屋山金峯寺
- 紅梅殿
- 千本燭窟堂
- 東向觀音
- 金閣寺
- 青龍石
- 阿字休息峰
- 寒風嶽
- 蟻塚
- 如法水
- 五男三女降石
- 定家卿墓
- 音羽谷
- 龍寶山大徳寺
- 常盤の古跡義経誕生水
- 小野道風の墓
- 今宮の御旅所
- 吉祥山正傳寺
- 釈明神
- 暗部山
- 上品蓮華寺
- 清和院
- 大朝恩寺
- 願成就寺
- 鏡石
- 三尊石
- 釋迦多寶佛
- 華表岡
- 龍池
- 獨鈷水
- 樺生谷
- 奈良坂
- 日吉山王社
- 建勳神社
- 舟岡山
- 紫式部墓
- 西加茂神光院
- 船の送り火
- 僧正谷
- 大悲山
- 金山天王寺
- 具足山立本寺
- 北野神社
- 平野社
- 梅尾山高山寺

(7)

- 楯尾山平等院
- 雨瀧
- 五臺山
- 大雲山龍安寺
- 雙岡
- 西光庵
- 泉殿
- 愛宕神社
- 妓王寺
- 京極黃門定家卿の山莊
- 四行法師の庵
- 大澤の池
- 中澤池
- 野宮
- 芹川
- 龜山
- 大悲閣
- 渡月橋
- 西行櫻
- 車折社
- 高雄山神護寺
- 妙光寺
- 等持院
- 眞如寺
- 吉田兼好法師の舊跡
- 五智寺
- 平岡の八幡宮
- 鎌倉山月輪寺
- 三寶寺
- 檀林寺
- 車僧の塚
- 津崎村岡碑
- 遍照寺山
- 常寂寺
- 歌結橋
- 嵐山
- 智福山法輪寺
- 小督櫻
- 靈龜山臨川寺
- 有栖川
- 御室仁和寺
- 泉谷の法藏寺
- 衣笠山
- 正法山妙心寺
- 法金剛院
- 三寶寺
- 梅畑善妙寺
- 化野
- 小倉山
- 長明神
- 五臺山清涼寺
- 大覺寺
- 嵯峨野
- 靈龜山
- 瀧馬場
- 坐禪石
- 大堰川
- 千鳥淵
- 鹿王院
- 雌子社

(8)

- 安堵橋
- 太秦廣隆寺
- 梅宮
- 長福寺
- 華嚴寺
- 衣笠山地藏院
- 桂川
- 大枝坂
- 大原野神社
- 栢社
- 西山善峯寺
- 源為義の塚
- 四寺の舊跡
- 鳥羽里
- 廻地藏
- 法傳寺
- 綾戸社
- 福田寺
- 寺戸の願徳寺
- 岡伽井
- 常盤社
- 木鳥社
- 紙漉場
- 松尾社
- 衣手社
- 葉室山淨住寺
- 桂の離宮
- 峠地藏
- 小壘山勝持寺
- 四岩倉金藏寺
- 小壘山十輪寺
- 嘉屋御所
- 唐橋
- 實相寺
- 戀塚
- 方便水
- 鷺尾寺
- 向日明神
- 乙訓社
- 鞆國山光明寺
- 常盤臺
- 海生寺
- 梅津川
- 月讀社
- 西芳寺
- 文德天皇陵
- 久遠寺
- 大原野
- 長岡の都跡
- 西山三鈿寺
- 繼現堂
- 水鏡師寺
- 吉祥院天滿宮
- 芦丸屋
- 戀塚寺
- 上久世藏王堂
- 木下明神
- 眞經寺
- 大慈山乙訓寺
- 柳谷觀音堂

(9)

- 長岡天滿宮
- 寶寺
- 離宮八幡宮
- 男山神社
- 女郎花塚
- 王塚
- 淀原のやしろ
- 八幡宮
- 西行寺
- 欣淨寺
- 安樂行院
- 昭宣公の墳
- 即成就院
- 伏見の城跡
- 京橋
- 豐後橋
- 吉祥山安神天
- 山科毘沙門堂
- 追分
- 山科本願寺
- 犬山崎天王の社
- 妙喜庵
- 天滿宮
- 一馬屋
- 如法經塚
- 美豆
- 伊勢向宮
- 城南離宮
- 安樂壽院
- 藤森神社
- 眞守院
- 深草山寶塔寺
- 天王山佛國寺
- 御香宮
- 巨椋
- 六地藏
- 奴茶屋
- 踏羽明神の社
- 音羽山
- 花山
- 觀音寺
- 天王山の城趾
- 關戸明神
- 徳迎山正社寺
- 洞ヶ峠
- 淀川
- 芹川里
- 北向不動院
- 墨染寺
- 鶴の床
- 福光寺
- 百丈山石峯禪寺
- 伏見
- 京都疏水運河の水
- 指月山月橋院
- 天智天皇陵
- 大石良雄の舊跡
- 廻地藏
- 牛尾山法嚴寺
- 菅葉織道

(10)

- 大徳谷
- 勤修寺
- 大宅寺
- 上醍醐
- 祖師堂
- 朱雀天皇陵
- 笠取山
- 長明方丈石
- 黄檗山萬福寺
- 喜撰嶽
- 宇治川
- 橋寺
- 朝日山惠心院
- 橋姫のやしろ
- 風凰山平等院
- 阿彌陀水
- 縣神社
- 田原親王の御廟
- 八幡宮
- 大道寺舊跡
- 花山稻荷
- 岩屋寺
- 小野隨心院
- 如意輪堂
- 寂靜谷
- 一言寺
- 日野薬師
- 小栗栖里
- 明星山三室戸寺
- 宇治
- 橋小島崎
- 離宮八幡宮
- 佛徳山興聖禪寺
- 浮舟島
- 阿字池
- 樓門の跡
- 金色院白山権現
- 猿丸太夫が舊跡
- 天武天皇社
- 鷲峰山金胎寺
- 吉利俱八幡宮
- 田村廢墓
- 深雪山醍醐寺
- 藥師堂の本尊薬師佛
- 醍醐天皇陵
- 直谷南禪院
- 重衡の塚
- 無量山西方寺
- 宇治山
- 蜻蛉石
- 宇治橋
- 朝日山
- 槇島
- 槇尾山
- 鐘樓の鐘
- 宇治別業
- 宇治田原
- 煎栗焼栗林
- 信西塚
- 百丈山大智寺

(11)

目録終

- 椎尾山光明寺
- 玉井寺
- 高倉宮靈廟
- 北吉野童寺
- 段良不動堂
- 木津里
- 哀堂
- 泊里
- 恭仁の都の舊跡
- 後醍醐帝の皇居
- 胃の社
- 井手里
- 普門山蟹滿寺
- 妙勝禪寺
- 祝園
- 和泉式部墓
- 鹿背山
- 瓶原
- 流岡
- 栗栖天神宮
- 玉水里
- 玉川
- 梶原社
- 殺喜郡
- 木津川
- 橋柱寺
- 一の坂
- 海修山寺
- 鹿路山笠世寺

京都名所獨案内

●山城國はもと山背に作りしが延暦のむかし桓武天皇都をこの地に定め
 玉ふはあたりこの國は山を襟にし河を帶にし自然に城の地勢を爲せは
 よろしく山背を改めて山城とすべしと勅らせ玉ひけるより斯くは名つ
 けるなり五畿内の東北部に位し一市八郡に分てり即ち京都市愛宕葛
 野紀伊乙訓宇治久世綴喜相樂なり

●京都市は國の北位にあり愛宕葛野の二郡に跨り三條通を以て上下の二
 區に分ち戸數合せて凡そ六萬五千あり人口は二十六萬に過ぎたり
 昔は平安城と稱し桓武天皇以來明治初年に至るまでの帝都にして一に
 西京といふ規模壯大に街市整正にして加茂川その間を流れ三條四條五
 條等の橋これに架す實に東西に通するの衝路にしてその繁華なること

(2)

往時と異なることなし東山西山は山水の明媚幽邃にして加ふるに神社
 佛閣の壯麗なるあり日本の公園たるの稱を擅にし比叡山東北に屹立し
 て都富士と稱へらる又近年近江の湖水を引きて運河を通し電氣鐵道は
 市内に通して伏見に達し淀河に連絡するの便を開きて貨物の運輸に利
 せり而して今年は恰も延暦の遷都より一千百年に當れるを以て紀念祭
 を施行し猶内國勸業博覽會を開かるに至れりその名所舊蹟の多くし
 て盛なるは次を以てこれを記すべし物産の重なるものは織物、繻物、
 染物、陶器、漆器、紅、晒木綿、茶等とす

◎御苑内は東之寺町通りより西は烏丸通にいたり北は今出川通より南は
 丸太町に至るその間東西六町南北十一町の地にして昔はこの内に王侯
 の邸宅ありしが東遷以來は一面の苑園となりたり

◎苑の中央に内裏あり禁垣之を繞ぐる南に建禮門ありこれを正門となす

紫宸殿は門内更に垣を周らし日華、月華、承明の三門ありて階下に通
 せりその委しきは庶人の窺ふべきにあらざるその東南に大宮御所あり皇
 太后の御舊殿なり又その南に仙洞御所の跡あり御庭園の壯大にして幽
 雅閑靜なること筆すべしにあらざる毎年工藝品展覧會開場中は拜觀を
 許さるその他苑内には博覽會場市立測候所宗像神社白雲神社等あり又
 桂の宮久邇宮あり主殿寮出張あり

猶も一二を案内せば恐れ多くも 今上天皇陛下御誕生の地は皇居の
 東北に在り鎖欄干を遶らし御産屋存し又祐の井の石碑を建たり車返し
 の櫻はその昔後水尾天皇車を返させられて觀覽ましましける故に名つ
 けたるものにして今猶舊姿を存せり

(3)

◎九條家の舊庭之堺町御門の西に當り高樹鬱蒼として晝猶暗く林泉舊觀
 を存して幽邃なり

(4)

●市立京都美術工藝學校は御苑内九太町通寺町の西にあり繪畫、彫刻、工藝、圖案の諸科を教ゆ

●護王神社は烏丸通下長者町にある別格官幣社なり贈正一位和氣清曆朝臣を祭る元高雄山にありしを近年に至りてこの處に移したり壇下に石の猪一對あるは他の神社とことなる所にして和氣公の故實によるものといふ

●京都府廳は下立賣通新町西入る處にありその所に府立尋常中學校あり市立盲啞院は釜坐通樅木町の南にあり日本初めての盲啞院なり

●上御靈社は鞍馬口の南にあり祭神は早良親王伊豫親王藤原夫人文太夫橋逸勢藤原廣嗣吉備大臣火雷神等の八所御靈なり朱雀院の御宇天慶二年に鎮め奉るいにしへ此地は上出雲寺なり故に出雲路の御靈ともいふ例祭は八月十八日なりしか近年は五月十八日に行へり

(5)

○早良親王は光仁帝第二の皇子なり延暦四年九月朝廷を傾奉らんとすの聞へありければ淡路國に左遷し同國高瀬に至り氣絶て薨じ給ふ○伊豫親王は桓武天皇の御子なり平城帝の御時逆心あらはれしかは川原寺におゐて飲食を通せず終給へり○藤原夫人は崇道天皇の後吉子と號す伊豫親王の御母なり○文屋宮田丸は承和十年十二月に謀叛の企によつて伊豆國に配流し卒し給へり○橋逸勢は嵯峨帝の御時の能書にして本朝三筆の其一人なり仁明帝の御宇承和元年七月に謀叛の事ありて伊豆國に流罪せられ九月に死し給へり○橋廣嗣は太宰府に在りて叛逆ありしかば大野東人宣旨を蒙りてこれを討つ廣嗣敗北して自刀を以て首を落死したり○吉備大臣は右大臣正二位也元正天皇の時に唐に使し野馬臺の文を讀んで高名を博せり天平五年に歸朝し光仁帝寶龜六年薨じ給へり年八十二歳○火雷神は北野天満天神なり

(6)

◎中川は上御盤のまへの流をいふ鴨川を東川といひ桂川を西川といふ其中にありしゆへ名とす一名京極川とも號

◎萬年山相國承天禪寺は今出川の北にあり五山の第二にして開基は夢窓國師二世は妙葩後小松院の御宇明德三年足利三代の將軍義滿公の建立なり佛殿には釋迦佛を安置し迦葉阿難を左右にし達摩大元の像を脇壇に安す祖師堂には夢窓國師の像あり後水尾院の御再建にして同帝の神牌を安置す三重塔と大日如來を本尊としこれも後水尾院の御再建也應仁の亂に兵火に焼かれし後數度の火災にかゝり現今の法堂は豊臣秀頼の再建する所といふ山門を圓通閣といひ池を功德池と號し橋を天界橋と名づけける庫裏の傍には毘沙門天を安す塔頭普光院の竹林には黃門定冢卿の墓あり林光院には藤原惺窩先生の墓あり寺の東境には戊辰の役に戦死せし薩藩の士五百餘名の紀念碑あり寺の西方に同志社のあ

(7)

る構内に各種の學校ありて私立學校中の最も大なるものなり

◎具足山妙覺寺は新町頭に有法華宗にして開基は日實上人なり樓門の金剛力士は弘法大師の作也祖師堂には日蓮日期日像三師の像を安置す此堂は飛驒の工み造立にして恰好比類なし諸堂建立の規矩とす

◎卯木山妙蓮寺は寺内通小川の西にあり右同宗にして開基は日像上人なり古は西洞院五條にあり柳屋仲興といふもの日像を歸依して宅地を寄附し柳寺と稱す今卯木山といふは柳の字を分ちしなり其後大宮通四條の南にうつし又元誓願寺通大宮に遷天正廿四年に此地に移す當寺の什寶に祈雨の本尊とて日蓮上人の自筆法華の曼荼羅あり後光嚴院の御宇に天下大に旱す此本尊を以て桂川のはどりに至り請雨の法を修せしむ忽靈應ありて大雨數日に及ぶ故に日蓮上人に大菩薩の號を賜る

◎具足山妙顯寺は小川の北にあり法華宗にして開基は日像上人也洛陽に

(3)

たゐて日蓮宗最初の寺也後醍醐天皇の勅願所とす初は西洞院二條の南にありしが天正年中此地にうつす立像の釋迦佛は長三寸にして黄金佛也日蓮上人常に持念し給ふとぞ蜀錦の曼荼羅經一丸の曼荼羅共に日蓮の筆にして當寺の什物也經一丸とは日像上人の字あり

◎金剛山大應寺は妙覺寺の西にあり宗旨天台眞言禪兼學比叡山に屬して開山は虛應和尚也佛殿には釋迦佛を本尊とし迦葉阿難を脇士とす額は大應寺と書して黃檗陰元の筆也後花園院の陵は坤の隅竹林の中にあり◎叡昌山本法寺は大應寺の南にあり法華宗にして開基は日親上人也本堂の額に光悅の書なり初と綾小路の西にあり中頃一條堀川の西に移し又天正年中に今の地にうつす

◎白峰神社は今出川通小川の西にあり宮幣中社なり崇徳淳仁の二帝を祭る明治元年の新建なり

◎今日菴宗且の跡は本法寺まへの町にあり千家累代の茶人こゝに住て上み流と號す宗且は千利休の孫なり宗且の息は宗佐と号し重代の家名とす

◎堯天山報恩寺は小川の西上立賣にあり淨土宗にして智恩院に屬す初は天台淨土の兩宗を兼學す開山は明泉和尚也又西蓮社慶譽上人淨土の一宗と改む本尊は阿彌陀佛にして安阿彌の作なり當寺の什物に虎の畫あり四明陶僧の筆なり秀吉公の時聚樂亭にありて夜、聲を發す故に世人鳴虎と稱す

◎堀川の水は二流あり其一は鴨川の枝にして是を小川といふ又一流は鷹峯より出て今宮の東を流れ名を若狹川といふ合して南へ流れ東寺を経て上鳥羽にゐる鴨川に入る

(9)

◎戻橋は二條通堀川の上にあり三善清行死する時子の淨藏父に逢んため

熊野葛城を出て入浴し此橋を過るに及んで父の喪送に遇ふ棺を止て橋上に置肝膽を推さ念珠を揉大小の神祇を禱りしかば父清行忽蘇生す淨藏涙を揮て父を抱き家に飯るこれより名づけて世人尻橋といふ

◎小野小町雙紙洗の水は一條堀川の良諸侯屋鋪の庭にあり清和水ともいふ傍に小町塔あり

◎安陪晴明社と一條の西葭屋町晴明町にあり祭る所は晴明が靈神也古は此地晴明か居館なりとぞ

◎瑞光院は安居院の北にありむかしと淺野彈正の第宅也鎮守の神を淺野稻荷と稱す播州赤穂城主淺野内匠頭長矩其外家臣の塔一基あり大石内藏介良雄と始義臣四十六人の姓名を記す當院の什物に内藏介の畫像辭世の詩歌書翰等あり

◎惠光山本隆寺は五辻の北にあり法華宗にして開基は日眞上人也題目の

石塔は日像上人の筆也としめ當寺は四條の西にあり中頃西陣にうつし聚樂亭造營の時今の地にうつす

◎櫻葉宮は出水通千本の東にあり祭る所天照大神也むかし右近馬場に天降り玉ふゆへ日降の神明と稱す

◎家隆山石像寺は千本通五辻の北にあり淨土宗にして本尊阿彌陀佛は管公の御作なり地藏堂は弘法大師の作り玉ふ立像の石地藏わりて懸驗いちしるし石像寺の号これより出たり又前上總介藤原朝臣家隆卿の塔あり

◎北向山歡喜寺は上立賣の西にあり眞言宗にして本尊歡喜天は弘法大師の作なり當寺は嵯峨帝の勅願所にして開基は弘法大師也とぞ

(11) ◎聚樂亭の舊趾は一條の南二條の北にして東に大宮を限り西に千本通を堺とす豊臣大関秀吉天正十三年に城郭を築き壯麗にあらすんは威を

重する事なしとて殿閣には七寶を鏤名木奇石をわつめたるの寶閣なり
同十六年四月行幸ありて和歌の御會御能などあり其後關白秀次公こゝ
に住玉ひしか文錄四年の滅亡より樓閣こゝかしこの寺院にわかれて今
は聚樂の名のみ遺れり

◎般舟三昧院は今出川通糸屋町の西にあり宗旨天台眞言律淨土兼學にし
て禁裏内道場と稱す開山は惠篤上人善空と號し字は敬川諡を圓慈和
尚といふ本尊は阿彌陀佛の坐像にして慈覺大師の作なり帝土歴代の神
牌を安置す後土御門院の御塔は本堂の西にあり式子内親王の塚當寺に
あり定家葛の墳といふむかし此地定家卿の別莊なり門前の辻子を定家
の辻子といふ當院初は伏見里指月にあり文祿三年此地に移す今と廢れ
て學校となれり

◎惠照山淨福寺は一條の西にあり淨土宗にして智惠院に屬す本尊阿彌陀
佛は弘法大師の作なり開基と弘蓮社深譽上人本堂の額は淨福寺と書し
て後奈良院の震筆なり

◎安穩山大超寺は淨福寺の西にあり右同宗にして本尊阿彌陀佛は惠心僧
都伊勢太神宮に一七日參籠しけるに阿彌陀の三尊空中に現じ給ふ則其
尊形を摸して三尊を刻給へり其時化人來りて共に作る故に世人神明
の御作といふ

◎西陣といふは明徳の頃山名細川の兩執權洛中におゐて數度合戦ありし
時堀川の西一條より北に屯するを西陣といひ堀川より東を東陣といふ
當時西陣は織工盛にして錦金襴儒子縞珍天鷲絨緞子等の類盛に織り出
すその家凡そ數百戸あり中に天文の昔より營業せし家もありて一体に
これを織屋といひその使役するものを織子といふ實に盛大を極めたり
◎蓮臺山阿彌陀寺之京極通鞍馬口の南にあり淨土宗にして百萬遍に屬す

本尊の阿彌陀佛は弘法大師の作也開基は清玉上人方丈には織田信長同
信忠の影像を安す境内に二氏の墳其外明智光秀叛逆の時本能寺にお
て討死の臣數輩の墓あり

◎華宮山十念寺は阿彌陀寺の南にあり右同宗にして本尊阿彌陀佛は弘法
大師の作也開基は眞阿上人といふ後村上帝の裔孫なり

◎廣布山本満寺は十念寺の南にあり法華宗にして開基は日秀上人也祖師
堂日蓮上人の像は初丹波國黒田村にあり所の人熱病を發して死するも
の多しこれ則此像の祟なりとて山中に捨たり夫より星霜繁りて知るも
のなしある時山中に讀經の聲あり村民これをあやしみ山に入て窺ふに
此尊像を得たり則同所生福寺に安置す其後宇津宮心覺といふものこれ
を奪ひ取て都に登り市中に售ぬ當寺の日重上人これを見て高祖の像な
りとて速に買取つて當寺に安置せり

◎淨華院之京極通今出川の南にあり淨土四本寺の其一なり本堂には元祖
法然上人の像を安置し阿彌陀堂の本尊は惠心の作也中興は法然上人よ
り第五世向阿上人也俗姓は源氏にして武田安藝守時綱が子なり當院に
身代不動尊を安置す靈驗著しといふ

◎廬山天台講寺は淨華院の南にあり宗旨天台律法相淨土兼學なり開基は
慈惠大師にして與願金剛院と號し中興は住心上人也一日化人來つてわ
れは唐の惠遠法師なりとて廬山の二字を誓し住心和尚に與ふ故に廬
山寺と改む本尊は元三大師自作の像也南の壇上には藥師佛を安じ北の
壇上に之聖觀音を安す當寺の什物に法然上人自筆の選擇集あり又親鸞
聖人自筆の四句の文有り

◎梨本神社は寺町廣小路にあり三條實萬公三條實美公の二神を祭る別格
官幣社なり明治十八年に創建せらる

(16)

◎府立療病院は梨本神社の正東にあり明治七年の創立に係る府立醫學校其内にあり

◎府立尋常師範學校は荒神口にあり初め新町下長者町にありしが明治廿一年にこの地に移せり

◎下御懸社は寺町通丸太町の南にありて府社なり祭神は八所の御懸にして上御懸と同神なり社内に觀音堂あり洛陽觀音巡りの第六番なり

◎京都裁判所は丸太町の西にあり明治十三年の新築なり區裁判所の入口は竹屋町柳馬場の東より地方裁判所の入口は丸太町よりす

◎行願寺一名草堂は下御懸の南に隣る天台宗にして本尊十一面千手觀音は長八尺の立像行圓上人の作也西國第十九番の巡禮所又洛陽巡りの第四番なり當寺の開基行圓上人は原鎮西の人なり寛弘二年に此地に遊び頭に寶冠をいたし身には革服を着せるゆへ都の人革上人と呼り行

(17)

圓つねに千手大悲陀羅尼を持し良材を求め觀音の像を刻ん事を願へりある夜の夢に感じて鴨社の傍なる槻樹を神官に乞うけ菩薩の像をさざみ行願寺を營て安置すこれ當寺の本尊也又行圓草服を常に着けるゆへ此寺を草堂と稱す其後行圓の弟子仁弘法師此餘羽を得て又八尺の像を作り西山良峯寺の本尊とす當寺初は一條通新町の西にあり故に一

條草堂といふ

◎清荒神社は荒神口にあり祭る所八面八臂の荒神なり初と攝州勝尾山清に鎮坐す後陽成院勅し玉ひて文祿年中五條坊門油小路の西にあり其後北關に近からんためとて此地に移さる古は此はとりを近衛河原といひしが此宮勸請より荒神口と呼ぶと今はなし

◎専修寺御坊は川原町二條の北にあり初めは一條柳原にありて開山親鸞聖人の御建立なり其後間之町に移し又元和の頃今の地にうつす本尊阿

(18)

彌陀佛は安阿彌の作親鸞聖人六十三才の自畫の像寶藏に安置す本堂は北政所の化粧殿なり堂内の畫は狩野永徳の筆也

●妙塔山妙滿寺は寺町通二條の南にあり法華宗にして開基は日什上人なり永徳三年五月の建立なり元綾小路堀川の西にあり今妙滿寺町といふ道成寺鐘當寺にありこれ紀州日高道成寺の鐘なり銘あり兵亂によつて伽藍回祿の後所々にうつし遂に天正十六年五月に紀州新宮の某當寺に寄附す然れども瑾あつて音響遠く至らず故此鐘を鑄改んとて碎んとするに大に震動し鐘より火焰出る衆僧これに驚て此事を止て新に一鐘を鑄たり則此鐘は堂内に藏む初は龍頭の下にひいさわりしが次第に愈て今は平なり中川の井は堂前にあり洛陽七井の一なり

●常盤ホテルは河原町通二條の南にあり外國人の旅館なり明治廿四年露國皇太子殿下の宿らせ玉ふ所にして恐多くも今上天皇陛下の同殿下

を訪はせ玉ひしも此處なり

●京都市役所は、京都議事堂と合併設置せしものにして、河原町通二條下る、京都ホテルの前にあり。

●本能寺は寺町通押小路の南にあり法華宗にして勝劣派なり開基は日隆上人なり初の地は六角の南油小路の東にあり今本能寺町といふ中興權大僧都日興上人筑波集といふ和語の書を著す方丈の前の門は聚樂城よりこゝに移す今はなし三十番社の社は原愛宕山權現の古社なり織田信長塔本堂の東にあり天正十年六月二日當寺舊地にかゝて明智光秀が爲に弑せらる什物の題目曼陀羅は宗祖日蓮上人の筆也表具は紺地の純子に唐草の地紋ありこれを世に本能寺切といふ

(19)

●聞法山頂妙寺は三條橋東の北三町にあり法華宗一致派にして開基は日祝上人なり權大僧都法印にして姓は千葉氏下總國千葉郡の人也永正十

年四月十二日寂す年八十七當寺樓門の二天東と持國天西は多門天にして運慶安阿彌の兩作也靈驗新にして常に詣人絶ず樓門の前に二天の拜殿あり細川治部少輔源勝益寺地を寄附して頂妙寺と号す初の地は新町通鷹司今の下長者町なりにあり其後中御門今の樵木町なりの北高倉御所の舊地にうつす天正の末に又此地に遷す

◎新京極は寺町通より半町東入る三條通の南にありて四條通に達す京都第一の繁華にして両側に商店櫛の齒をひくが如くに立ち並び諸興行場等ありて晝夜遊人の絶ゆる暇なし

◎高瀬川と鴨川の水二條の橋下より西方に分流して南し伏見を過ぎて淀河に入る昔慶長十六年に角倉了意の通せしものなり

◎電燈會社は蛸薬師通を高瀬川に沿ふて設く明治廿年の創立なり其北隣に共樂館あり有名の料理店とす

◎源三位頼政の舊蹟は竹屋町寺町の西にあり

◎曼陀羅山天性寺は寺町新京極の三條にあり淨土宗にして本尊阿彌陀佛は惠心の作なり織姫觀音中將姫は觀世音の化身なり故に此像を作つて名とす中將姫の像自作なり本堂に安置す

◎矢田山金剛寺は天性寺の南に隣る淨土宗にして本尊地藏は滿米上人の作なり夕貞薬師本堂の前に安置す

◎三條大橋は鴨川に架す長さ五十六間幅四間半行人常に多くして京都の繁花は此橋上に見えたり欄干には紫銅の擬寶珠十八本ありて悉銘を刻其銘に曰洛陽三條之橋至後代二化二度往還人一磐石之礎入地五尋切石之柱六十三本蓋於日域石柱濫觸乎天正十八年庚寅正月日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之と昨明治廿七年修造せり

◎檀王法輪寺は三條大橋東詰にあり淨土宗にして本尊阿彌陀佛は惠心の

作也古は悟眞寺と號して良忠上人の弟子道光法師建立す應仁の亂後荒廢に及ぶ慶長年中袋中上人再建ありて梅檀王院と号す今略して檀王と呼ぶ袋中上人退院の後五條橋東に隱居し袋中庵と稱す主夜神祠は開基袋中上人の勸請也婆珊婆演底主夜神を祭る應驗新にして常に詣人多し龍王祠むかし鴨川の東の岸に大きなる淵あり惡蛇すんで人を害す一とせ早魃の年これを斬て其靈を祭るとぞ又袖留地藏三株松等あり

○空中山寂光寺は仁王門通新高倉の東にあり日蓮宗勝劣派の本寺なり開基之久遠院日淵といふ園基の名手本因坊は此寺より出づ

○瑞泉寺は三條小橋の南にあり淨土宗にして本尊阿彌陀佛は聖德太子の作なり開基は三空桂叔和尚本願は關白秀次の母堂瑞龍院なり秀次公追悼の爲に建立し給ふ文錄年中に秀次太閤秀吉に對して逆心を抱く故に紀州高野山に入つて自殺す首を取つて三條河原に梟し又三十余人の妾

婦并に稚子を斬りて同穴に埋む其後塚を築て上に截石あり銘に曰秀次惡逆塚文錄四年七月十五日と書す

○先斗町は鴨川の西岸三條の南なり川邊には水樓の如く軒端をつらね坐にして洛東の風景を賞し酣歌の英客こゝに群す

○六角堂頂法寺は六角通烏丸通の東に有天台宗にして開基は聖德太子なり本尊如意輪觀音は金像にて長一寸八歩也西國十八番巡禮所洛陽巡の三十三番なり抑此尊像はむかし淡路國岩屋浦に夜々光わり漁人これをおやしみ網をふるすに朱の唐櫃を得たり其櫃の上に正覺如意輪の像一昧謹上日本國之王家と書せりよつて内裏に獻るに太子早く見給ひて是こそ我前生七世の持尊なりと尊崇し常に隨身し給ふ時に攝州四天王寺を造んとて材木を所々に求らる其頃此所を山城折田郷土車里といふ太子此邊を徘徊してゝに來り清水に澡かんとしてかの尊像を榊樹に

かけ置浴すみて像を取給ふにいと重くして離るゝ事なし其夜の夢に本尊告て曰我太子のために持せらるゝ事七世今又此地に因縁あり願はこゝにありて永衆生を利益せんと宣ふ然るに東方より壹人の老嫗來つて曰此傍に大木の杉あり毎朝紫雲覆り是こそ靈材なりと太子則これをからしめ六角の堂を營給ふ其後二百五十餘歳を経て桓武天皇都をこゝに定させ給ふ時官使條路を極むるに六角堂小路の中に當れり皆是を愁しが俄に黒雲下りて此堂自五丈斗北の方に退けりと池坊の立花は當坊住職の中專慶法師立花を愛しければ當寺の本尊感じ給ひ立花の秘密を靈夢に授給ふ中興又專好といひしより其風を改め家本とす毎年七月七日門人方丈に集り立花の工をあらとす今も猶この會あり

◎錦 天神社は寺町錦小路の東にあり祭る所天滿天神也鳥居の額は天滿宮と書して青蓮院尊英法親王の筆也拜殿の額は寶鏡寺宮理秀尼公の筆

とぞ宗旨は時宗にして紫苔山歡喜光寺河原院六條道場と號す開基は一遍上人の甥聖戒上人也元亨三年二月十五日寂す寺の後に千鳥池あり池中に鹽竈社あり社は河原左大臣を祭る今はその趾を存するのみ抑當社は寺内の鎮守にして古は左大臣融公を祭りしが中頃より天滿宮を勸請しける也

◎大本山圓福寺之寺町通蛸藥師の東にあり淨土宗深洲流義の一本寺也本尊阿彌陀佛は法然上人の作なり

◎蛸藥師之永福寺と號して圓福寺の境内にあり本尊藥師佛は石像にして長二尺傳教大師の作也

◎西光寺は蛸藥師の北に隣る虎藥師之弘法の作御倉堂と稱す

(25)
◎長金寺は誠心院の西にあり一言堂といふ本尊十一面觀音は弘法の作洛陽觀音巡の其一也

◎清帶寺は西光寺の西にあり本尊腹帶地藏は土佛にして行基の作なり懷妊の婦人安産を祈るに靈驗新也

◎誠心院は西光寺の北に隣る俗に和泉式部といふ古は小川一條の北にあり御堂關白道長公の草創にして和泉式部も此寺に入て尼となりて住し也本尊は阿彌陀佛脇壇には關白道長公の影を安置す和泉式部塔軒端梅あり

◎誓願寺は新京極三條下る所にあり淨土宗にして深艸流義の一本寺なり本願は天智天皇開基は惠隱僧都といふ初は平城にあり桓武天皇遷都の後上京元誓願寺通小川の西にうつす本尊阿彌陀佛は長八尺の坐像にして佛工賢問子芥子國兩人の作なり又春日大明神夜々影向ありて扶助し玉ふ故に春日の神作ともいふ弘化二年焼失せりその他有名の什寶等多かりしも今は唯だ其名を留むるのみ庭前に五輪の石塔あり秀吉の愛妾

松丸殿の墓なりしがこれも亦今は無し

◎紫雲山極樂院光勝寺は蛸薬師通油小路の西にあり空也堂と號す宗旨は念佛宗と稱して本堂には空也上人自作の像を本尊とす脇士は地藏毘沙門天也北の脇壇には坐像の阿彌陀佛を安置す是行基の作也又空也上人の像あり南の壇上に之定盛法師の像を安す空也上人と延喜帝第二の皇子なりしが塵外の無爲を樂の志願ましくければ遂に出家し給ひ玉樓金殿を立いで北山鞍馬の奥に蕭然として山居し給ふ麋鹿夜々來つて閑坐を慰ける上人是を憐み其聲を愛し給ふ事深し一日鹿來らす然に平定盛といふもの遊獵して鹿を持來り此山にかゝて討取し由をいふ上人大に愁傷し其鹿を得て皮を裘とし角を杖の頭に狹て常に携給ふ獵者定盛も上人の法徳に歸入し弟子と成教化に任せ妻子を具し頭は有髮の俗跡にして衣を着し瓢を敲て上人自作の和讃を誦ふて寒中には夜

市中を徘徊し浄土往生の因を勸る也今も空也堂の鉢敵と稱す

◎二條離宮は二條通堀川の西にあり織田信長始めて此に築き光秀の爲めに焼かれ徳川家康再築す今は離宮となれり

◎監獄は城の乾位にあり

◎神泉苑は御池通大宮の西にあり眞言宗にして東寺法菩提院に属す善女龍王社は池の中島に有二重塔は大日如來を本尊とす池を法成就池といふむかし大内裏の時は封境廣大にして天子遊覽の地也池邊には乾臨閣を營て近衛次將を別當職とし庭中には巨勢金岡石を疊て風光を貯ふ守敏は諸龍を呪して瓶中に入弘法大師之天竺無熱池の善女龍神を請し天下旱魃の愁ひを扶て叙感を蒙る小野小町も和歌を詠して雨を降し鷲は宣旨をうけて羽を伏隠れは官人これを安くと捕しむ帝御感のあまり五位の爵を賜りしも此所也又白河院御遊の時鶴をつかはせて叙覽

あるに鶴此池中に入て金覆輪の太刀を喰ふて上りけり是より銘を鶴丸といふ崇徳院に傳り六條判官爲義に此御劍を賜りける祇園會もこゝに始り弘仁三年には嵯峨帝此苑中に於て花の宴あり是花宴の始也建保の頃より荒廢に及ふ承久の乱後には武州の禪門築地を高くし門を堅て修造ある其後又われて舊跡幽なりしを元和の頃筑紫の僧覺雅といふ人官に申て再興し眞言の靈場となす北野右近馬場此神泉苑等は纒なりといへども是大内裏の遺跡なり

◎不來乎藥師は釜の座二條上る西側にあり本尊は比叡山傳教大師一刀三體七尊彫刻し給ふ日本七佛の一跡なり往昔美濃國横倉に一院を設け安置し奉る其頃尾張國山田郡に右馬允明長といふ武士あり明暮尊敬し奉しに承久三年夏五月京鎌倉の戰に所く高名有しか弋瀬川の戰に深手負既に最期に及ふ時此藥師一人の僧と化して草をもみわたへ給ふ明長

是を服すれば立所に疲平愈し本國に歸りしと又寛喜二年夏六月より寒氣はげしく極寒のどくなれば疫癘流行し死するもの世に多し然るに此藥師院主の夢に告て一切の衆生我前に來ば諸病悉除べきにこのかたぬかと有しかば感涙袖に余りて世に是を觸知らしむに貴賤群集し參詣の輩疫病忽平愈す後に織田信長岐貞在住のとき齋藤山城守此藥師を今の所に移すと也

◎祇園御旅所之四條京極の辻にあり毎歲六月七日祇園會の神輿三基此所に神幸し給ひ同十四日に祭禮ありて本殿へ還幸し給ふ兩日の山鉾もみなく此神前を引渡す也北の社は素戔嗚尊八王子を祭る南の社は少將井天皇を祭る初の二坐は大政所と號してむかしは烏丸通五條の南に御旅所有今大政所町といふ少將井の一坐は烏丸二條の北にあり今少將井町となづく

◎錦綾山金蓮寺は新京極通四條の北にあり四條道場と稱す時宗にして本尊は阿彌陀佛開基は淨阿上人也親戀地藏は運慶の作也初之鳥邊野の墓所に有りたり熊野社は當寺の鎮守にて時宗の守護神なり

◎十住心院は四條道場の南口にあり眞言宗にして本尊地藏尊は弘法大師の作なり染殿皇后常に尊信ありて當院を建立し給ふ故に染殿地藏と稱す

◎龍池山大雲院は寺町通四條の南にあり淨土宗にして智恩院に屬す本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作り給ふ開基は貞安上人なり此人安土に於て宗論の時淨家の宏才にして信長厚く歸依し江州八幡に西光寺を建立して貞安こゝに住職す時に信長父子明智光秀か爲に自殺せしを貞安上人傳へ聞て急ぎ京都に登り二條烏丸の邊に庵室をかまへひたすらその菩提を吊ふ其後秀吉公の命によつて天正の末に織田信忠追福のため當院を

草創す信忠の法名を大雲院殿三品羽林仙巖居士と稱す當院の號こゝに出たり

◎祇園會の祭式は毎歲五月一日より四條御旅町に神を立るは一の華表の舊地なり同廿日より鉾の町々には囃子初あり神輿洗は同晦日にして御迎提灯煉物の行粧艶々として洛東の賑ひ也六月朔日は鉾の兒祇園參とて乗物あるひは騎馬にて其行烈花麗をつくし高貴の往來に似たり五日は鉾の引初六日の早天には六角堂にねゐて山鉾行列前後の鬪取あり今は府廳に於てす此日の夕かたには宵宮跡とて山鉾を祭日の如くかきり立提灯かすく連て夜更るまで囃子ありて貴賤の群集いはん方なし七日は祇園會とて午前六時より山鉾列を正し四條通より寺町を南へ松原を西へ引渡す也此日神輿の祭禮は午後二時にして感神院より御旅所へ神幸あり又八日よりは十四日の山鉾の營ありて十三日の朝鬪取あり

り十四日の山鉾は三條通より東寺町を南へ四條を西に引渡す也神輿の祭式は御旅所より四條を西へ東洞院より神輿を南北へ引別れて渡り給ふ三條の西又旅社にて同列し三條を東へ還幸し給ふ也同十八日には御輿洗とて晦日に等し祇園鴨川のはどりは竹葦の如く群をなせり
◎四條橋は加茂川に架する鐵欄干の橋にして長さ五十四間幅四間半ありむかし永治二年に架したるを始としその數度の改修ありて明治の七年に此橋を架せり
◎四條河原夕涼毎年七月より若干日の間川邊に床を儲け燈之星の如く河原には床机をつらねて流光に宴を催しそのむかしは濃紫の帽子は河風に翻翻として色よき美少年の月の明さにおもはゆくかさす扇のなまめきてみやひやかなれば心もいとくさそひてめかれせずそゝるなるに妓婦の今を盛といろとへて芙蓉も及はざる粧ひ鬪鬪のこまやかに薫り

南へ行北へ行淹茶の店に休めては山吹の花香に酔を醒し香煎に鴨川の
 の流れを汲んで京の水の輕を賞しかる口咄は晋の郭象にも勝れて懸河
 の水を注が如し物真似は函谷關にもおどらぬかや猿狂言犬のすまひ
 函馬曲枕麒麟の細渡は鞆の佛にして噴吶の聲かまびすく心太の店
 には瀧水滔々と流て暑を遊硝子の音は珊々と飴して涼風をまねくと
 いへども今となりて濃紫の帽子は高帽と變じなまめきたる美少年は汗
 くさき壯士となり氷水、氷せんざいの賣聲のみ高く聞ゆその他は烟火
 借馬等あるのみなれども貴賤群をなして川邊に遊ぶさまはむかしも今
 も換ることなし

◎四條通鴨川の東に劇場あり永祿年中に江州の浪人名古屋三左衛門とい
 ふもの出雲のね國といふ風流女とかたらし歌舞妓と名づけて男女立合
 の狂言を仕組北野の森祇園の南林あるひと五條河原橋の南にて興行し

ける。秀吉公伏見城より上洛し給ふ時見物群集し幼に及ぶ故に四條
 の河原にうつす其後中絶ありし所に承應二年に付山又兵衛といふもの
 四條河原中島にて再興し又繩手四條の北にうつし遂に寛文年中に今の
 地にうつして常芝居となる

◎仲源寺と四條大和大路の巽の角にあり浄土宗にして智恩院に属す本尊
 地藏菩薩は土中出现の尊像なり世の人目疾地藏と稱す眼病平愈の祈願
 をすれば靈驗あり實は雨止地藏也往來の人驟雨の時此堂に宿りしと也
 脇士には惠心僧都の作なる阿彌陀佛は南の方に安置し春日の作の千手
 觀音は北の方に有藥師佛は方丈に安す弘法大師作なりと

(35)
 ◎宮川町は鴨川四條南岸の號なりむかし此邊に禹王の廟有といふ今は一
 帯の遊所となり絲竹の音絶ゆる間なく治郎の遊蕩なる醜態も又名所の
 一つかや

◎東山建仁禪寺は大和大路四條の南にあり門前通四條より南之建仁寺町となづく五山の第三位にして開基は千光國師葉上僧正諱は榮西といふ産は備中國吉備津の人にして賀陽氏也薩州の刺史貞政の曾孫とぞ建保三年七月五日寂す七十五歳土御門院の勅願にて征夷將軍源頼家卿敷地を寄附し玉ひ建仁三年伽藍ことく造榮し勅願たるによつて年号を以て寺號となす佛殿の本尊は釋迦佛脇士と迦葉阿難なり開山塔之興禪護國院と號して東の丘にあり榮西國師の廟塔なり又國師宋國より歸朝の時携給ひし菩提樹は當院にあり今繁茂して數株となる河原院鐘は佛殿の北に二ツの鐘堂あり東の大鐘これ也是融大臣六條河原に殿舎を建給ひ後に佛閣となし河原院と号す此所にありし鐘也荒廢の後鴨川七條の南の深淵に沈む榮西國師是を窺知りて官に乞求て當寺に掲る此鐘かの淵を引上る時更に動ず然るに國師のはからひとして力者の音

頭に榮西と唱又國師の弟子長首座と呼んで引べしと教給ふ力者大勢是を懸聲してやすくと當寺にうつす今重き物を引に此名を呼で運送するは此所謂なり又鴨川七條の南七町に釜が淵といふあり此鐘の沈わりし所也實は鐘か淵なり又此鐘毎夜子の時より數九十聲撞也晨鐘に之十八聲也合て百八撞也昔は陀羅尼經を誦して撞しゆへ此鐘の音を稱して建仁寺の陀羅尼といふ池を法水池と號し中門を矢立門と呼ぶ平家の一門門脇教盛卿の館の門なりといふ禪居庵には摩利支天を安置す嘉曆二年唐土より傳來せし鑿像也妙徳石焼香橋等あり樂神廟は國師の勸請にして當山の鎮守也

◎蛭子社は建仁寺門前にあり祭る所蛭子命榮西國師勸請し給ふなり建仁寺境内の産土神にして都人群集す正月十日の初蛭子と十月廿日の蛭子講を殊に盛なりとす

●靈鷲山正法寺は靈山の東にあり靈山とは靈鷲山の字を取りたるなり往昔傳教大師開基にして山門の別院なり中興國阿上人住給ひて宗旨を時宗と改む本堂は釋迦佛を安置す阿彌陀堂の本尊は齒佛と號す此阿彌陀佛は笑ひ給ふ相好にして御口よりむかふ齒見ゆる故世に齒佛の如來と號す天照太神宮は本堂の東廊下の上にあり伊勢の太廟に參るものは首途のまへ當寺に參ぬれば忌穢を遁るゝとぞ當山の坊舎はみなく絶景なり洛陽の萬戸鴨川大井川の二流愛宕あらしの峰々淀山崎の通船まで書院より坐にして眠の下に遮る洛中の集會遊筵は此院々を借りて應

●鷲峯山高臺寺は慶長年中に太閤秀吉の北の政所の建立ありし菩提所也古は雲居寺にして自然居士住ける宗旨は禪宗臨濟家中興開基は三江和尚なり佛殿の本尊は釋迦佛迦葉阿難を安置す達磨大師の厨子は政所の

車を用ゆ方丈の唐門は秀吉の船樓をもつて營しといふ客殿南向にして襖の畫は土佐光信狩野永徳弘意了溪等なり彫物彩色美麗を盡せり本尊は千手觀音を安置す小方丈には秀吉の詠せし和歌十首を額にかくる聖護院道澄法親王の御筆也開山堂の額は重關と書して雪月堂の筆天井には政所の車の上屋を用う三江和尚常光院殿の像を安置す祖堂よりの廊下を臥龍といふ雪月堂の額ありこれを登れば秀吉北の政所の靈舎あり長押に三十六歌仙をかく畫は土佐光信和歌は八條智仁親王の筆なり其外内張の畫は狩野古右京の筆多し山上の傘亭は千利休が好む所なり一に時雨の亭といふ伏見城より移せし岩栖洞と長山腹にあり古の岩栖院の舊跡なり又木下長嘯子の墓あり子は本名豐臣勝俊といふ靈山に隱居し茶を嗜み歌を好くす當寺の境内には多く萩を植ゆ秋の頃には萩の花みやびやかにいろへて衆人のこゝろを動す是當境の佳觀なり

(40)

◎靈山招魂場は高臺寺の東にあり山腹に銅表を建て靈山表忠の碑と書す
山上には明治戊辰の役及び西南の役に戦死したる人を祭る所なり木戸
孝允公の墓は山上最も高さ所にあり

◎八坂法觀寺は上宮太子の草創なり古は樓門伽藍鎮守等嚴重たり五重塔
一基本尊は大日釋迦阿闍婆勝東の方に太子堂あり北のかたの小堂には
薬師如来辨財天歡喜天を安置すむかし淨藏貴所此寺に住すあるとき塔
大いに傾く淨藏塔前に坐して持念す朝にこれを見るに塔直にして元の
如しとその後數度焼失せしが永享十二年に建てたるは今の塔なり

◎八坂庚申堂は塔の西にあり大黒山金剛寺延命院と号す本尊青面金剛に
して長三尺五寸大寶元年正月七日庚申に降臨し給ふ日本三庚申の一に
して大坂四天王寺東京淺草と共に其一なり脇壇に聖德太子大黒天を安
置す

◎伽羅の觀音は高臺寺の南靈山道にあり青龍寺と号す本尊は聖觀音長五
尺の立像なり傳教大師の作にして伽羅を以て彫刻す脇士は地藏毘沙門
を安置す洛陽觀音巡りの其一なり

◎七觀音は庚申堂の北一町はかりにあり旨宗は眞言にして本尊は七躰の
觀世音なり則七觀音院と號す中尊には如意輪觀世音弘法大師の作なり
聖觀音千手准泥十一面馬頭不空索等の六躰の作は春日なりと洛陽
觀音巡りの其一なり

◎八坂といふは北は眞葛原南は清水坂までの惣名なり其中に入ッの坂あ
り祇園坂長樂寺坂下河原坂法觀寺坂靈山坂山の井坂清水坂三年坂等な
り

(41)

◎安井神社は建仁寺の東裏にある郷社にしてそのむかしは安井觀勝寺光
明院といふ安井門跡前大僧正性演再興す古より藤の名所にて崇徳天

皇の后妃阿波内侍此所に住む天皇保元の亂に讃岐國へうつらせられて御形見に束帶の尊影御隨身二人の像を畫てかの地より皇后に送り給へり其後天皇配所松山に於て大乘經を書寫し和歌一首を添給ひて都の内に納めんとて送り給ふ然るを少納言入道信西奏しけるは若呪咀の御心にやとて御經をは返しければ帝大に憤り玉ひて大魔王となつて天下を睨がはからひになさんと誓ひて御指の血を以て願文を書給ひかの經の箱に奉納龍宮城と記し堆進といふ海底にしつめ給ふに海上に火燃て童子出て舞踏す是を御覽じて所願成就すと宣へり夫より爪髪を截玉はす六年を経て長寛二年八月廿六日に崩御し給ふ御年四十六讃州松山の白峯に葬り奉る夫より御靈此地に来て夜々光を放つ故に光堂ともいふ然るに大圓法師此所へ來つて參籠す崇徳帝尊跡を現じ往事の趣を示給へり大圓これを奏達し詔を蒙りて堂塔を建立しかの尊靈を鎮め

率り光明院と号しける佛殿の本尊は准泥觀音なり御影殿には後水尾院の震影明正院并に東福門院の尊牌を安置し奉る又弘法大師像あり奥の社は崇徳天皇北の方金毘羅權現南の方源三位頼政世入れしなへて安井の金毘羅と稱し都下の詣人常々絶る事なしこの邊を新更科と號し中秋には洛陽の騷客こゝに集りて東山の月を賞す今は家居然く建ならびて風景を興ふ

◎牛王地社は下河原の南にあり祇園牛頭天王播州廣峯より初て鎮座し給ふ地なりとて祇園百度參りは本社より此社迄詣し歩の數を運ぶ事昔よりの例なりとかや下河原を百度大路といふ名あり

◎祇園町は四條通大和大路より東祇園社に至るまでをいふ妓館娼樓左右に軒を並べて遊治の客常に絶ゆることなく絃歌の聲日夜に喧し京美人とはこの内の遊女をやいふらん

●一方樓は祇園町の中にありて頗る美麗を盡し頗る繁盛にして彼の大石
良雄の舊跡を以て名高し今も二つ巴の紋を染めちらせりこの樓に遊ぶ
の客は大抵貴顯紳士なり

●驅梅院は町の南花見小路にあり

●祇園館はその南にあり第一等の演劇場なりその西に歌舞練場あり毎年
春に至れば都踊を演じ藝妓舞妓踊として舞ふ有様は京都の美を添
ふるに足れり

●八坂神社一名祇園社は官幣中社なり下河原を南面とし祇園町を西面と
す鳥居は石柱にして西南の樓門には隨身います神殿の中央は牛頭天王
素戔嗚垂跡東の間八王子三女五男西の間稻出姫を祭る聖武天皇の
天平五年三月十八日吉備大臣唐より歸朝の時播廣國廣峯に垂跡し玉
ふを崇奉れり其後常住寺の十禪師圓如上人に神託あつて帝城守護の爲

貞和十一年に遷座す中臣拔抄に日清和天皇貞觀十八年疫神祟をなし
て世の人疾に悩むこと甚しかりしかば卜部日良磨洛中の男女を將て六月
七日十四日疫神を神泉苑に送るそれより年々かたの如くしつけて祇
園會といふなり神興を置所もなかりければ藤原昭宣公の御殿をまいら
せられて神殿とす祇園は尋常の殿舎造り也祇園の寶殿の中には龍穴わ
りとなん延久の頃梨本の座主天台槻井御門主其深さをはからんとせら
れければ五十丈にかよびてなを底なしとぞ藥師堂は觀慶寺と号す本尊
之藥師如來作は傳教大師也陽成院の勅願所として開基は圓如上人とい
ふ祇園會陰曆六月七日十四日山鉾の行粧祭禮の例式其外五月廿九日六
月十八日の神興洗ひ等世の知る所なれば委く記するに及ず凡京都の祭
禮多しといへど此會は殊に奇觀のかずぐしければ皆く見つくす人
希なり當時は六月十五日を官祭とし七月廿四日を私祭とす

- ◎金玉山雙林寺は馬臺寺の北にあり古は天台宗の別院にして傳教大師の開基なり至徳年中國阿上人移住して時宗と改む本尊は藥師如來にして傳教大師の作なり鎮守は天照太神宮東の丘にあり西行の庵西行の塔あり此所に幽居せしが建久九年二月十五日に入寂せしと當寺の櫻は西行法師植てつねに愛せしものなりと性照の塔は平判官康頼入道なり此はとりに山莊ありて遠流より歸洛の後やがてこゝに籠居してうかりし昔を思ひやり寶物集といふ物語を書けるなり頼阿の塔ありはじめ四條道場金蓮寺にすんで後は双林寺に閑居し寂せり
- ◎西行庵は西行自作の像及び頼阿自作の像を安す
- ◎芭蕉堂之八寸許なる芭蕉翁桃青の木像を安んず又芭蕉翁の碑あり當寺の院々も風景ありて洛陽交游の勝地なり春秋ともに酣歌の聲聞斷なし
- ◎東大谷は古は唯だ大谷といへり双林寺に隣りて良にあり東本願寺の

祖廟なり阿彌陀堂の本尊は安阿彌の作親鸞聖人の廟塔は後の山服にして墳上に虎石あり石の形虎に似たれば名とす此石はじめは開山聖人往生の地柳馬場押小路虎石町に有秀吉これを伏見城中に移せしが其後又こゝにうつす聖人の御墓はじめ東本願寺の境内七條の北にあり夫より此地に遷して元祿年中に造營あり廟前の莊嚴みやびやかなり此地にも櫻多くして彌生の頃は貴賤群をなせり

◎真鶴原は祇園のひがし知恩院の南をいふ

◎祇園女御の舊跡は雙林寺門前の北にあり此地を耕せんすれば泉有とぞ

- ◎東山長樂寺之大谷の北に隣るはじめ開基は傳教大師にしてこゝも天台の別院なり當山の致景は唐士の長樂寺に似たるとて斯號るとぞ後は國阿上人住持して時宗とあらたむ本尊は十一面觀音なり傳教大師唐より

歸朝の折から海上にねゐて龍神形をあらはし頭に觀音の像を戴て來る
 大師禮拜しければ忽然として尊像衣の袖に飛來す當寺の本尊是也臺座
 の下の蟠龍は大師の作にしてこの謂なり辨財天の社ありこの神形も大
 師制作ありて鎮守とす 傍の庭造は相阿彌の作にして世に名高き勝地
 なり安徳帝の御衣の幘は當寺の什寶也御母建禮門院御飾をおろさせ給
 ふ時御戒師には長樂寺の印誓上人也御布施として先帝の御直衣を給ふ
 寺の後に頼山陽先生の墓あり其高名人の聞く所なり寺の邊に温泉あり
 今三階の高樓を造る所なりもと人造の鑛泉なりといへども明治六年中
 化學者の創意を以て設けしものにして天然の物にことならず

◎圓山の公園はこの邊一帶の謂ひにして近年開設する所實に京都第一の
 風景にて北は加茂二葉山大宮森より南は鳩の峯淀の川瀬をゆきこふ舟
 まで眼中の客とぞなる園内に垂枝櫻の大木わり高さ三丈に至り枝四方

に垂れて花咲く頃は霞か雪かど見まがふばかりなり大凡そ千年以上の
 ものといふ春花の頃は花下一圓に茶店酒舖を設け觀客の雜沓すること
 いはん方なし一説にこれは櫻にあらすして三味線の胴に用ふるカリン
 なりと價に積れば五千圓以上なりといふ蓮華水は隆寛律師といふ台宗
 の僧後には法然上人の弟子となつて専修念佛の行者となり八十歳にし
 て寂す其時池水より青蓮花生ずと也

◎圓山安養寺は長樂寺の北にあり是も山門の別院にして傳教大師の開基
 也本尊の阿彌陀如來は安阿彌の作建久年中に慈鎮和尚すめり其後時宗
 と改め國阿上人住職せりこゝに盲人源照といふ者琵琶の妙曲を奏せし
 かば天聽に達し後小松院の恩寵を蒙り紫衣を賜ふ是盲人紫衣の始とい
 ふ吉水の井は鎮守辨財天の傍にあり青蓮院宮御代々の法親王灌頂の時
 この水を闕伽とし夜深更に例式の列を糺し來臨し給ひ御手づから汲せ

らるゝといふ當山坊中の書院は昇らずして高樓に至り清奇典麗いはん
方なし庭中には石を疊んで飛泉を催し池を鑿ては舟をうかべ綠樹芳艸
四季に花絶ず蹴鞠の履の音涼しく中にも多藏庵(眼阿彌)の庭は相阿彌
の作也多福庵(也阿彌)の書院の畫は雪溪の筆なりとぞ凡遊筵の地多か
めれど此地に勝るゝはなし

◎華頂山大谷寺知恩教院は淨土宗の總本寺にして鎮西流義なり元祖圓光
大師宗風開發の靈地にして吉水の禪房とは是なり初は東の山腹今の勢
至堂の地にして大師入寂せりとぞ滿譽和尚の代に至つて 台命を蒙り
峻岨を穿て平坦とし今の如く伽藍御建營有洛東第一の大廈なり山門に
掲る華頂山の額は靈元法皇の震筆なり本堂大谷寺の額は後奈良院の震
筆とぞ須彌の壇上には圓光大師の像を安置す西の間には翠簾を卷上て
壇上に 神牌を崇奉る大師の廟塔と東の山上にあり勢至堂に掲る知恩

教院の額之後柏原院の震筆也本尊勢至菩薩は安阿彌の作也紫雲水は
勢至堂の傍にあり大師入寂の時聖衆來迎し紫雲水面に顯れ異香水氣に
遺れりといふ一心院は其南にありて本尊阿彌陀佛は安阿彌の作也抑元
祖大師の傳記を鑑に美作國久米南條稻岡の産なり父は久米押領漆時國
母は秦氏也子なき事を歎て夫婦諸とみに佛神を祈り秦氏夢に刺刀を飲
と覺て則妊身となり長承二年四月七日午刻男子を誕此時紫雲空にたな
びき白幡二流降くだりて館の西なる棕の木に止る鈴鐸四方にひゞき紋
彩日にかゝりやさ七夜を経て天に登る是より此樹を誕生棕と號後に佛閣
を建て誕生寺と號して今にあり幼字を勢至と號け叡智にしてやゝもす
れば西の壁に向ふの癖あり九歳にして同國の菩提寺の室に入て學問す
院主勸學といふ人 倩小兒の量を勸ふるに是只人にあらず 徒に邊鄙
の塵にまじへん事をおしみて比叡山西塔の北谷持寶坊源光かもとに登

す勸學か書翰に曰進上大聖文珠一體とあり時は久安三年二月十三日入
 浴して勸學か書を持寶坊にぬたす源光これを披見して文珠の像を尋る
 に小兒のみ上浴せるよし使者申ければはやく兒の聰明なる事を智れり
 則十五日に登山し源光試にまづ四教義を授るに籤をさして不審をな
 す疑ふ所みな天台の要論なり不思議の事に思ひければ我淺才にしてい
 かでか此人を弟子とせんやと同年四月八日に兒を相具して功德院の阿
 闍梨皇圓かもとに入室せしむ皇圓其ちのすぐれたるを聞て驚て曰去夜
 の夢に満月室に入と覺しがさては此人に逢ふへき前兆なりとそ悦喜し
 ける同年十一月美髪を剃戒檀院にして大乘戒をうけたり斯て惠解天然
 にして四教五時の廢立かゝみをかけ一心三觀の妙理玉をみかく所立の
 義師の教にこえたり阿闍梨感して曰學道をつとめ大業をとげ天台の棟
 梁と成べしとよりくすゝめけれ共是も又名利の學業なりとて忽師席

を辭して久安六年九月十二日十八歳にして西塔黒谷の慈眼房寂空のモ
 とに行て我幼稚より隱遁の志願ふかさよし演ければ少年にして出離の
 心をおこす事は法然道理の聖なりと感じて法然房となし實名を源光の
 源と寂空の空を摘んで源空と號たり黒谷に蟄居をなし出要を求るの心
 節なれば何れの道よりか生死を離るべきと一切經を披見せる事五遍な
 りされば諸の經論についてつらく思惟せるにかれもかたくこれも高
 し遂に惠心の往生要集并善導和尚の釋義を以て指南とせりかの釋には
 亂相の凡夫稱名の行によりて順次に淨土に生るべき旨を判せり藏經披
 見の度に是を觀る事三遍也遂に其釋義に一心專念彌陀名號行住坐臥
 不問時節久近念々不捨者是名正定之業順彼佛願故此文に至て末世の凡
 夫彌陀の名号を念せば彼佛の願に乗して隨に淨土往生を得ることほり
 に伏し承安五年の春四十三歳にして餘行を捨專修念佛に歸入せりされ

ば法然上人の宗風日本に弘まりしかば山門の悪徒これを破せんとし或は大原にして問答ありしかども皆念佛の理に臥せり建久二年の春は後鳥羽院の逆鱗によつて四國に左遷せられしかども承元元年十二月に勅許を蒙り歸京して東山大谷に閑栖す是當山の地なり遂に建曆二年正月廿五日午の刻法壽八十歳にて遷化せり是より毎歲正月十九日より一ヶ七日の間大法會あり勅命に依て御忌と稱し音樂の妙なる聲は聖衆來迎の思をなし蘭麝のかほりは布金に満り法筵の中日には知恩院宮法親王御焼香あり寺務の大僧正を初末派の衆僧大會の坐列を正し敬禮渴仰し京都は勿論遠近の貴賤袖をつらねて雲の如く群集するを俗に御忌の衣しんぐ装くらべと名づくるなり瓜生石は黒門の前にありむかし此石のもとより胡瓜の蔓生して瓜を結ふ其瓜に牛頭天王の文字有是に依て栗田天王の社内に納む塔中崇泰院そふたいのんは親鸞聖人廟塔の遺跡あり大谷本願寺と號

して第八代蓮如上人の代文明年中まで此地にあり山門の悪徒宗義の繁榮をねたんで不意に押寄て破却す小鍛冶が井は山門の傍にあり三條宗近名めいけん釵を打し時こゝに來て此水を用ひしと也當山には櫻數株あり糸櫻淺黄櫻世に名高し

◎白川の水は志賀の山越より流れ東三條にては白川橋の名あり知恩院の門前を西に流れて大和大路より鴨川に落る也

◎東三條金藏寺御猿堂は青蓮院御門跡の院内なり三猿の像は傳教大師の作當寺の本尊之米地藏と号す傳教大師唐より傳來せしと也尊勝院之南の丘にあり本尊は元三大師の坐像にして自作なり

◎栗田天王やしろと御猿堂の東にあり本殿は感神院新宮なり例祭は九月十五日にして神興一基鉾十五本あり白川の細さ橋をわたる曲持して見物の興を催すを祭禮の例式とする也

●佛光寺の廟所と天王社の東に隣る門前に一對の石燈籠ありて東山の二大字を刻す阿彌陀堂は明和年中の再建にして美麗なり廟堂には開山親鸞聖人の畫像と安置す

●將軍塚は華頂山の峰にあり延暦の昔桓武天皇遷都にあたり八尺有餘の人形を造り甲冑を着させ弓箭をもたせ西面に埋めて平安京の守護神となせりもし事變ある時は此塚鳴り動くといふ今此所に号報臺を設け正午を遠近に知らしむ

●華頂山親鸞聖人植髮の尊像は佛光寺の廟所の東に隣る舊青蓮院御門跡の院内に在りしを近年此地に遷し華頂山御堂と稱す宗旨は天台にして本尊は阿彌陀佛の坐像を安置し右の壇上の厨子に此尊影を安す長三尺にして立像なり小葵の直衣に薄紅梅の御衣を召紫の龜甲形の指貫を着し雲細縁の袴に在て兒童の御影なり抑此尊像は人皇八十代高倉院御

宇承安三年に聖人誕生す父は大藏冠鎌子大臣苗孫有範卿と申母は八幡太郎義家の嫡子對馬守義親の息女なり聖人幼年より出離遁世の志願ありければ九歳の春青蓮院慈鎮和尚の許にて翠の髮を剃りて弟子となり範少納言卿といふ夫より寂嶽無動寺に登り天台止觀を明め遂に難行を捨て易行に趣き本願念佛の一流を弘通す慈鎮和尚聖人の剃髮し給ふ貌をうつしかの翠の髮を頭に植置く是を植髮の尊影と號し一宗の門俗渴仰日にまして繁昌なり

●青蓮院は植髮堂の南にあり舊粟田宮と稱す始祖は傳教大師にして天台宗なりそのむかし覺快法親王以來代々法親王の住職なりしか明治の御一新と共に法親王を廢せられたり華麗の大厦なりしか惜かな明治廿六年九月一夜の中に殿堂焼け失せければ今又再建せり

●吉水園は三條通の東にあり市街に沿ひたる山腹を切りひらき二層三層

の樓舎敷宇を營み衆庶觀遊の所とす近くは南禪寺疏水の邊より紀念殿博覽會場等を眼下に一望し三萬の人家も兩陣の間に築り遠は東山西山の勝景をほしひまゝにす實に得もいはれぬ景色なりこの邊多く陶器店あり今最も有名なると錦光山帶山等にして俗にこれを粟田焼といふ近來専ら舶載して貿易品とす能く火に耐へて味も美なりその價も廉なれば人の賞するもの多し

●粟田神明宮は清和天皇御宇貞觀年中に勸請し給ふ也

●東岩藏眞性院は神明宮左りの山上にあり本尊は十一面觀音を安置すむかし王城の四方に經王を藏らる其石藏の一ツなり當山の土は陶工に可なり粟田燒清水坂の土器等此地の土を用ゆ

●蹴上は粟田口の東にあり蹴上水はむかし源牛若丸金賣吉次に具せられ陸奥へ飯き玉ひし時平家の侍關原與市といふ者牛若の美少年に戯れ

此水を蹴上ヶしかは牛若丸太刀を抜て與市をこじめ郎等どもを多く伐捨通りしより名づけ初し也

●疏水運河 近江の琵琶湖の水を引くものにして近江の國大津の三保ヶ崎より起り三井寺の山麓を過ぎこゝに第一の隧道あり其長さ千三百四十餘間それより日の岡山に至り第二第三の隧道あり第三の南口は蹴上の船溜なりこれより第四の隧道を過ぎて南禪寺の南に出で本支の二線となり本線は寺の前より西に折れて白川を横切り丸太町橋の南に至り鴨川の新運河となり川の東に沿ふて伏見に出で淀川に通ず支線は南禪寺より山に沿ふて北に流れ白川村に至り高野加茂二川の底を過ぎ堀川の上流に會すこの工事は北垣氏前に京都府知事たりし頃の設計にして水力を利用して機械を運轉すること舟楫の便を開くこと旱損の田を養ふこと水車を設けて米を精ぐるを便にすること井水火災等の用に供す

ること衛生の利を起すことの六利を目的とし京都の衰勢を挽回せんと欲し明治十八年に起工し廿五年に竣工したり其延長は本線鳴川岸まで六千七百七間支線は凡そ四千七百間といふ實に壯觀なる日本近世の一大工事なりインクラインは第三隧道南口蹴上の船溜より南禪寺町まで長さ三百二十間のところ斜に鐵路を設け水力電氣の作用によりて五十石以上の舟をやすくと上下せしめ両地の水に通せしむ水利事務所はその東南にあり水力電氣を發するの機械の工場あり今は電燈會社その他の工場に分ちて中々に盛なりインクラインより加茂川に達する間凡そ一千間のところは兩岸に柳櫻等を植ゑて頗る風景に富み觀花納涼の客賞櫻看雪の士遊船を浮べて豪遊を縱まにし頗る盛なり岸には料理屋飲食店等多く列なれりこの川岸に繭絲紡績社藤井紡績社等あり水力電氣を利用して工事を營む又水車多くしていづれもこの水を引き精米を

盛にす

◎瑞龍山太平興國南禪寺は東三條の北南禪寺町にあり舊龜山法皇の皇居なりしを開山大明國師に賜て五山之上の號を蒙る當山の記に曰 太上皇龜山院弘安年中に此地に離宮をいとなみ給ふ正應のはしめ宮中におやしき事おこりて嬪妃大になやめり陰陽頭にこれを卜巫しむるに故最勝光院僧正道智むかし此地に棲世に駒の僧正と稱す其靈のこりて當山を秘惜して障碍をなすといへり故に顯密の諸師呪術巫祝に及ぶまで百計手を拱く同四年東福の釋普門當寺の開山なり無關和尚といふ 謚大明國師勅命を請て二十の禪侶を率て宮中に安居し只何となく坐禪しけるに物怪跡を匿し上下安寢す上皇歡感のあまり普門を禮し宮をあらためて寺となし遂に命あつて佛殿を創建し給ふ本尊は釋迦佛の坐像脇士は文殊普賢なり又金剛力士の二體を安置す南の壇上には 龜山太上皇

の神牌しんはいを崇奉あがめる傍らには達磨百丈臨濟だるまの像を安置す山門は五鳳樓ごほうろうと號して寛永年中藤堂高虎たかたけの再建なり唐木の白檀びやくたん二株山門の内にあり石の大燈籠たいとうろう一基山門の外にあり高二丈余石は白川の産にして希代の大灯籠なり蓋石がいせきの寶形に二ツ引龍ひきりゆうの紋あり又地輪ぢりんの上に文字あり南禪寺山門石燈籠寛永五年九月十九日佐久間大膳亮平勝たさいだんのすけのりかつら之寄進よきん之爲現當悉地げんどうしつじ成満也と書せり綾戸明神あやのどのは拳龍池けんりゆういの乾いぬいにあり是當山の鎮守なり

◎南禪院には龜山法皇の震影しんあひを安置す

◎金地院に之御宮ありて白砂しろすなに鳳凰竹ほうわうちくを植る樓門左右には隨身の像を置當院の開祖は大業和尚五山僧祿司の號を蒙る

◎駒が瀧は東の峯獨秀峰どくしゅうほうにあり大僧正道智常たいていに此瀑布たふたを愛す滅後に靈をまつりて當寺の護法神とし社を瀧の側に建てこれを神仙佳境といふ道智くわつみやうぢは光明峯寺入道攝政道家卿の息なり駒の僧正ともいふ

◎東照宮廟は徳川家康公を祀る廟殿は美彩を施し前に樓門を建てたり

◎水路閣すいろうかくは疏水運河そすいゆんがの支線にして寺の左前の山腹を横行せり煉瓦石を以て發み上げ高く溝みぞを造りて水を通す其長さ三百間にあまり當寺の壯觀なり

◎天授庵てんじゆあんは南禪寺開山大明國師の塔所なり庵の後に梁川星隱先生の墓あり先生は一世の儒者じゆしやにして最も詩に長すその名は世に聞へたればこれを省く

◎聖衆來迎山禪林寺永觀堂しんじゆらいけいざんりんじと南禪寺の北に隣てあり淨土宗にして西山流也本堂の阿彌陀如來を願みかへり本尊と號す長三尺余の立像なり當寺は舊清和天皇の勅願所として眞紹僧都の草創也又中興の開基永觀律師永保二年二月十五日晨朝衆僧じんぢゆうともに行道の念佛聲をおします信感つねならずして乾いだしの方にてしばらく躊躇ちゆうぢゆせり本尊檀たんよりをり給ひて永觀をそしと

願命し給ふ律師感涙を流し是ぞ末世の衆生を攝取引接の證なりとて自
その由縁を記せり律師は花山院の皇子深觀僧都の弟子なり四十二歳に
して此地に閑居し往生十因等の書を著せり

◎祖師堂には善導大師圓光大師西山上人の三影を安置す當山はむかし眞
言宗なりしが池の大納言賴盛卿の息靜遍此所に住して源空の滅後撰擇
集を披閱して一向專修の義を立源賴朝ふかくこれに歸依し武運長久の
爲に大般若經を轉讀す經藏の額法海の二字は黃檗高泉の筆なり聖衆來
迎の松は堂前にありある夜四方に異香薫じ音樂聞へて菩薩來集の粧ひ
此松の枝にありしと也山号は此謂による今本堂の前に來迎の松とて枯
木を存せり中門の左に諸化の學校あり講堂には甘露殿といふ額あり

◎正東山若王子は永觀堂の北に隣る天台宗にして修驗道を兼職し聖護院
に屬す本社そくの熊野三所權現宮は後白川法皇の勸請也傍に若一王子と鎮

座す觀音堂は那智山の本地十一面觀世音を安置す洛陽觀音廻りの其一
なり南の山下に瀧あり那智の瀧をうつすとぞ當山昔しは宮殿壯麗にし
て殊に櫻花の名所なり應仁の兵火にかゝりて荒廢に及びしが近年秋錦
舎を始とし看瀑舎迎月居等の亭舎を設け春秋に遊人の足繁くなれり瀑
布は一の瀧二の瀑三の瀑あり夏の納涼避暑に尤もよろし

◎靈芝山光雲寺は若王子の北に隣る禪宗にして南禪寺天授庵英仲和尚の
再興也佛殿の本尊は釋迦佛を安置す此地にある時靈芝生茂りて光雲空
に映じけるを北關より窺覽ありて靈場なる事を感じ給ひ東福門院より
當寺を建營ありしと也瑪瑙石の手洗鉢は佛殿の後に有當寺の奇觀なり
◎鹿ヶ谷は靈鑑寺御殿の前を東にとる談合谷は其ひかし二町斗にありむ
かし俊寛僧都の山莊有新大納言成親平判官康賴等此所に會合し平家を
滅す隱謀を企しとらふ

◎如意嶽は東の峯にして樓門瀧は大木の古松四五本の下わにり瀧の太サ一丈余にして長五丈斗也雨の後には水増て近き難し抑此嶺之叡嶽の南に隣て白雲嶺を埋み谷深ふして萬仞の青巖路を遮れり市中に程近といへ共常に人跡稀なり

◎住蓮山安樂寺は鹿谷にあり本尊は阿彌陀佛の坐像にして惠心の作なり脇士は觀音勢至を安置す共に運慶の作なりとぞ當寺は法然上人如法念佛を修し給ふ地なり徒弟住蓮安樂の二僧に附屬す然るに後鳥羽院の愛妃松虫鈴虫の二婦一向專修の勸に入忍んで此庵室へ來り尼と成上皇大に逆隣あつて二人の僧を刑し法然上人を四國に左遷す其後年經て念佛弘法の舊跡なれば寺となし住蓮安樂の二師を開山とす

◎善喜山萬無寺法然院は同所にあり本尊は阿彌陀佛の坐像にして惠心の作也開基萬無上人古は法然上人艸庵を營專修念佛を修せし舊蹟也故に

法然院とも號す本堂の前に銅像の地藏尊を安置す客殿の庭に靈水有銘を善喜水といふ此地は松風齋然としてつねに鉦の音たへず六時禮讚の聲は幽谷に飮し寂寥として峯の月はがらかなり廬山の白蓮社ともたどへられて清淨九塵の佛界なり

◎大文字山之月待山といふ淨土寺の東にあり山面に大の字の形あり毎年陰曆七月十六日の夕暮に村人薪を携へて山にのぼり大字形の所に積み重ね一時に火を点す其の長さ一の畫は三十八間二の筆と八十五間三の筆は六十五間あり僧空海の作なりとその後中絶せしが東山殿即ち足利義政相國寺の横川和尚に命じて元の如く作らしむこれを精靈の送り火といふ雪の朝はその跡に雪のこりて雪の大文字を現はす京都の奇觀なり

◎銀閣寺は一に慈照寺といふ鹿ヶ谷の北にあり禪宗にして夢窓國師を開

祖とす原比地之足利八代の將軍義政文明十二年に世務を譲りて閑居せし別荘なり故に東山殿と號す延徳十二年正月七日に薨す慈照院殿喜山公と法名し遺命によつて此所を寺とせり東求堂は義政の持佛堂にして觀世音を本尊とす又慈照院の像を安置し西のかた上壇にかくる水引は濃紫の印金なり古渡にして世に稀なる奇物とぞ若松の畫は相阿彌の筆喇々鳥は永納の畫也茶湯の間は四疊半にして東山殿の物數奇なり茶亭四疊半の蓋觴とぞ高貴の賓客常に集會して茶の道を樂み和漢の奇物を翫玉ふこれを後世に傳りて時代物といふ二重の高閣あり北山鹿園寺の金閣に准してこれを銀閣と號す上を心空殿下を潮音閣といふ鎮守八幡宮は護國廟となづく閣のまへに橋ありて分界橋 迎仙橋 濯錦橋 臥雲橋といふ巽のかたに飛泉あり洗月泉と號流下の橋を龍背橋といふ仙袖橋仙桂橋は東求堂のまへにあり落照岡には躑躅を植られて夕陽を

止む向月臺銀沙灘には沙を鋪て落月を惜む細川石。畠山石。山名石は官領職の獻にして其英名と後世に朽す浮石坐禪石は池中にありて淡路島山の俤あり龍蟠石。蹲虎石。臥牛石。伏虎石。點頭石。布袋石。天柱峰回雁峯香爐峯は其石の形によりて号る也北斗石。落星石。壽星石。濯纓石。謝公塢は故事を以て名とす其外大内石。爛柯石。釣月臺仙人洲。白鶴島臨湖臺。仙草壇ありひがしの山を月まつやまといふ抑此庭は義政の好にして茶道相阿彌命を蒙りて造しなり庭中の風光眞妙にして山水の法式をもしず四時の壯觀足らずといふ事なし未代庭造の軌範とする也洞庭西湖も掌に握り松島象瀉も目前にたゝみて壺中に山川を縮め一粒の粟中に日月を藏したる神仙の術ありとぞ見へにける

◎京都帝國大學は吉田町にあり、明治三十一年創設の第三高等學校を以てこれに充つ、其前に第三高等學校あり。第一尋常中學校隣接せり。

◎吉田神社は神樂岡の西北にありこの岡は一に吉田山といふ南北四町餘の丘陵にして四時の風景甚だよろし社は官幣中社にして武甕槌の神齋主の神天兒屋根命比賣神の四神を祭る清和天皇の貞觀二年に中納言山蔭卿の勸請する所といふ奈良の春日と同神なり平安京の氏社といふ齋場所は同所にあり卜部兼延の造立といふ樓門の額は日本最上兩太神宮中門の額は日本最上神祇齋場とあり共に清水谷實秋卿の筆なり大元宮には日本神祇三千一百三十二座を鎮座し奉る日本最上日高日宮の額は嵯峨天皇の震筆也大元宮の額は後土御門院の震筆日本國中三千餘座天神地祇八百萬神の額は清水谷實秋卿の筆也八神殿の額は後土御門院の震筆なり内外の太神宮は八神殿の左右にあり日本國中の神祇は本殿の兩脇にならひておのゝ國名を著し神社の數を記す春日の社は西の麓にあり是も山蔭卿の勸請なり

(71)

◎鈴聲山眞正極樂寺眞如堂は神樂岡の東南にあり天台宗にして開基は戒算上人なり本尊は阿彌陀佛の立像長三尺三寸慈覺大師の作なり抑此尊像は江州志賀郡苗鹿明神のしのみやうじんより神木を大師得給ひ此木夜毎に光明を放怪あまやて割き見るに佛形鮮あまやにあり故に此尊像を彫刻す又承和五年に大師入唐ありて天台五臺山にして顯密の奧儀を究引聲の彌陀經を傳て同十四年に歸朝せり然にかの引聲の一句を失念ありければ西方に向ひ祈誓せいせいありしに舟の帆に小像の彌陀香煙かうぜんに立て成就如是功德莊嚴と唱給ふ大師感涙かんだいを止て袈裟けさにうつし歸朝しこれを胎中たいちゆうに籠玉こめふ大師在世の間は欲山常行堂に安置す其後永觀二年の春戒算上人に急ぎ京都に出て一切衆生を利益りやくすべしと靈夢れいむあればまづ雲母坂くもさかの地藏堂にうつす又其夜の告に神樂岡に檜千本生たる所是有縁うづまの地なりと此靈夢に任せてこれを尋るに白川女院の離宮也又同夜女院にも告有ければ先宮中へ遷し正曆三

年の秋宣せんび下くだありて伽藍がらんを建立す今の元真如堂の地是也夫より所ところにう

つし元祿五年の冬洛陽京極今出川より此地に遷座せんざしたりける

◎真如堂門前の北に靈芝山大興寺あり寺中に關羽の像を安んず足利尊氏

百戦百勝の祈念神なり東北院も同所にあり辨財天の尊像あり

◎紫雲山金戒光明寺黒谷は浄土鎮西四ヶの一本寺なり元祖圓光大師の舊蹟にして叡山西塔の黒谷をうつして新黒谷と稱す本尊には元祖大師の像を安置す脇壇の厨子には親鸞聖人の像あり共に自作なり阿彌陀堂の本尊は惠心の作なり觀音堂の本尊は行基の作にして千手の像を安置す洛陽觀音巡りの其一也

勢至堂は法然上人の廟塔なり則勢至菩薩の化現なるの謂也臺座の下に五輪の石塔有

熊谷堂には蓮生法師自作の像大夫敦盛あつむねの畫像を安置す三重塔の文珠菩薩

薩は日本三文珠もんじゆの其一なり脇士は維摩居士ゐまこじ優波利尊うぱりそん者優填王うてんおう善財童子

等の四尊を安置すこれを世に天照春日八幡住吉の神像也といふは非也

紫雲石は塔の北にあり元祖大師一宗かずはつ開發の時此石より紫雲たなひき異

香薫かかじけるとなり紫雲山の號は此謂による也

鎧池鎧掛松は熊谷次郎直實なほざね上人の教に歸入し着せし鎧を此池水にて

洗あらひ松に懸置かかしとなり元祖大師太神宮の神勅によつて浄土安心の要文

を書し玉ふ是を一枚起謂ひとしやうといふ當山第一の什寶なり毎歲六月廿五日虫

干の日に是を出して詣人に拜せしむ

◎岡崎神社と郷社にして素盞すさのお鳥尊を祭る毎年九月十六日を祭日とす神輿

及び鉾ほこありその内に大鷹おほたかの鉾あり高倉天皇の御覽に供へたるものとい

ふ

◎示現山満願寺は岡崎町にあり日蓮宗なり元祿年中僧日亨の開基といふ

(74)

文字天神社あり菅公自作の像を祭る俊寛僧都の跡にして當時の闕伽井
猶存せり明治二十年紀念碑を建てたり

◎熊野神社は聖護院町にあり郷社にして伊弉册尊を祭る境内に松の古樹
あり

◎紀念殿は岡崎町と聖護院との境にあり今明治廿八年は恰も桓武天皇都
を平安の地に奠め給ひしより一千百年に當るを以て紀念の爲めに大極
殿を模擬して造營せしなり大極殿蒼龍樓白虎樓龍尾壇應天門あり大極
殿は桁行百十尺梁行四十尺歩廊桁行三百三十尺蒼龍白虎の二樓は桁行
卅二尺四面龍尾壇之長さ三百八十八尺應天門は桁行六十尺梁行二十四
尺にして蒼瓦朱柱にして鮮かにそらろに千年の昔を追懷景慕せしむ

◎平安神宮は桓武天皇の聖靈を祭る廿七年二月神號を許可せられ官幣大
社へいあんじんぐうの社格に列せらる本殿は白木造の高潔なるものにして桁行二十七尺

梁行二十八尺その他透塼、祝詞屋等あり拜殿は即ち大極殿なり

第四回内國勸業博覽會場は岡崎町にあり坪數凡そ六萬坪動物館美術館
工業館農林館水産館器械館の六部に區別す廿八年四月一日よりの開場
にして覽者日々萬餘に上りその盛なること筆もて盡すべからず

◎等覺山念佛寺は松原通建仁寺町の東北にあり眞言宗にして開基は弘法
大師中興は千觀内供也本尊觀世音は千觀の作也左右の脇士は毘沙門地
藏尊千觀内供自作の像を安す此人姓は橘氏相州の刺史中納言頼顯の子
也幼名を千觀丸といふ成長して叡山運照内供の室に入て出家し顯密の
碩學となりて一世の間常に六字の佛號を修する事止事なし故に心佛上
人と呼ぶ又堂内に地藏尊と云置す此像を火伏地藏と稱して毎夏止月二
日經を讀て諸人に火伏の札を出す

(75)

◎普陀洛山六波羅密寺は町の東南側にあり眞言宗にして智積院に属す本

尊十一面觀音は立像長壹丈空也上人の作也西國十七番の札所洛陽觀音巡の其一なり傳に曰村上帝御宇天曆五年に疫癘流行て死るゝの數しらず空也上人これを憐て十一面觀音の像を作りて車に乗京洛中を自身牽行けり是當寺本尊也觀音に供する典茶を疫人にわたへければ一同に平愈す村上帝これを聞召して吉例とし毎歲元三に服し給ふ萬民今に此例を行ふて名を王服と號し年中の疫を免るゝとなり北の方は地藏尊を安置す南の方は藥師佛を安置す傳教大師の作也開山堂は空也上人自作の像あり姿見池は上人こゝにて姿をうつし自像をささみしとぞ

●阿古屋塚本堂の北にあり五條坂の遊女阿古屋が塚也上に無銘の石塔辨天のやしろあり

●珍皇寺は建仁寺の南松原通にあり六道と号す本尊藥師佛は傳教大師の作にして開基は慶俊僧都中興は弘法大師篋堂には小對篋の像を安置す

爛魔堂は東の方にあり迎鐘は七月九日十日參詣人此鐘を撞て聖靈を迎しひる也當寺は昔平安城の葬所也桓武天皇延曆十三年に長岡より此京にうつらせ給ふ時此所を諸人の葬所に定め給ふ由迂都記に見えたり

●晴明の社は宮川町の東松原の北にあり古へ此地に安陪の晴明の塚ありしが新道の人家を開に及で次第に塚崩れ平地となる故にこゝに社を建て其靈を祭る

●十禪師社は晴明社の南にありむかしは境地廣くして樹林森々たり牛若丸此林に隠れ千人斬ありしと也武藏坊辨慶も此神前に於て主従の約をなせしといふ

●若宮八幡は五條橋東五町にあり祭る所石清水と同神也初は六條佐女牛にあり故に佐女牛八幡とも號す例祭は八月十五日なり舊地は今の佛具屋町魚棚道の南にありしが天正年中に此所にうつす

◎五條橋は初は松原通にあり則いにしへの五條通也秀吉の時此所にうつす故に五條橋通といふ實は六條坊門也欄干には紫銅擬寶珠左右に十六本ありて北の方西より四ツ目に橋の銘あり雒陽五條石橋正保二年乙酉十一月吉日奉行芦浦觀音寺舜興小川藤左衛門尉正長とあり明治廿七年架換たり

◎松豊八幡宮之五條橋西爪にあり首途八幡とも稱す清和天皇の御宇貞觀年中の草創なり其後皇子貞純親王之御靈を祭親王之息六孫王經基公尊崇ありて宮殿樓門嚴重に再建し給ひ封境廣大なり今はその跡を存するのみ

◎新善光寺御影堂は五條通寺町の西にあり天長年中檀林皇后の建立にて開基は弘法大師也中興王阿上人眞言宗を改て時宗となる本尊の阿彌陀佛は安阿彌の作なり脇壇には一遍上人の像王阿上人の像を安す方丈の

本尊一光三尊にして阿彌陀觀音勢至は弘法大師の作則嵯峨帝の御念持佛也鏡の池鹽籠の井は本堂の南北に有地藏堂は方丈の東也坊中に扇を折て業とする事は昔無官太夫平教盛の室蓮華院尼公此寺に閑居し阿古女扇を製す其頃御嵯峨帝御惱まします時當寺の住職祐寛阿闍梨は御備除滅の修法を加持し又扇に呪文を封納して帝に上らる即御平愈ましくければ皇子竹の御所當寺を再興し剃髮し給ひ王阿上人と号しける扇は此吉例によりて世々名物となり高貴の獻として都鄙の賞翫となれり

◎下京區役所は五條通柳馬場にあり下京區を全轄す

(79) ◎河原院の舊跡は五條橋通萬里小路の東八町四方にあり此所は融左大臣の別莊にして臺閣水石風流をつくし遊蕩の美を擅にし山を築ては草木繁茂し四時に花絶へず池を鑿ては水を湛へ魚鳥之波に戯れ陸奥の松

島をうつし難波津より日毎に潮を汲せ管絃は仙臺に調文籍は月殿に翫
び給ふ大臣薨じ給ひて後寛平法皇此勝地に遊覽し東六條院と號す其後
佛閣となし融公第三の御子祇陀林寺の本主仁康上人といふ知識をすゝ
めて丈六の釋迦佛を作りて此院に安置しこれを河原院と號しける

◎本覺寺は下寺町五條の角にあり淨土宗にして智恩院に屬す本尊阿彌陀
佛は安阿彌の作一名は如法佛と號す開基は玉翁上人なり

◎盤龍社は本覺寺の西上徳寺の鎮守也祭る所融左大臣にして則盤龍山と
號す本尊阿彌陀佛は八幡の作開基は傳譽上人なり

◎太子堂白毫寺は上徳寺の南にあり宗旨は律宗にして本尊聖徳太子は御
自作の南無佛の像長壹尺余也脇壇の四天王は唐作なりとぞ開基は忍性
律師にて舊は知恩院中門の北浩玄院の後にあり慶長年中知恩院再建の
時こゝにうつす

◎來迎堂新善光寺は本覺寺の南にあり本尊阿彌陀佛之信濃國善光寺と同
一躰なり本田義助如來の示現を蒙りて百濟國へ渡り齊明王に閻浮檀金
七斤を賜て歸朝し如來を鑄とて爐壇を搦ければ其光中より分身の尊像
現れ給へり是當寺の本尊也

◎負別阿彌陀佛は來迎堂の南蓮光寺にあり此本尊は嘉禎年中に東國の僧
都に登りて佛工安阿彌に阿彌陀佛の像を願ふ像成就し歸らんとする時
安阿彌此尊像希代なりとて甚れしみ今一度拜せんと跡を慕ふて趨る山
科郷にて追つさ此旨を語にかの僧則笈を開けば尊像分身して二躰とな
る二人とも奇異の思ひをなし二尊を東西に負ふて別る其地を今山科の
負別といふ安阿彌か負歸し尊像當寺本尊也

(81) ◎後白河法皇の震影は來迎堂の南長講堂にあり當寺は法皇の御建立にし
て時々御幸ありて貴賤を論せず教聞に達する亡魂を名帖に記し給ひ常

に御回向ごくわうありて御講を修し給ふ所也故に長講と稱ける

●鬼頭きとう天王は本覺寺の東南竹林院おくりんかんの堂内にあり正安二年の春後伏見院北山に御幸みゆきありし時北面高原兵部重清たかふね供奉しんげんし朝霧あさぎりといふ官女を見初連理の交まじはりをなす父これを制して又八重姫を娶めとるに朝霧あさぎりふかく嫉水食ねたみを斷て死す重清これを菩提の種とし出家を遂紀伊國二鬼島へ懸かき庵を結び苦樂坊と號し行ひすまして居たりける然に疫病をうけて苦惱す時に朝霧が亡魂ぼうれん鬼女と現し苦樂坊の頭を撫なれば忽平愈す功つもりて共に成佛し未代其證として頭をのこし鬼頭天王と號しける

●橋行平卿塚は竹林院の南等善寺にあり

●市中山金光寺は時宗にして本尊阿彌陀佛は定朝の作開基は空也上人也初は堀川七條の北にあり今の本願寺境内なりむかし此地買人かひの市場たるにより市屋道場ともいふ市比賣社いひあひめのかしら當寺にあり此邊の産沙うぶすせとす祭は五

月十三日あり

●籬まがせの池は高倉五條の南宗仙寺の堂前にある井をいふ舊河原院の封境にして其遺跡ゆゑなり當寺は曹洞宗そうどうしうにして開基は天江和尚也

●花開稻荷社は松原通高倉の西にあり此所は松永貞徳翁が居所にして俳書御傘あやうさんを撰す

●汁谷山じゆこくざん佛光寺は佛光寺通柳馬場の西にあり宗旨と親鸞聖人の弘法にして佛光寺派はと稱す本堂にて開山親鸞聖人自作の御影を安置す坐像にして長貳尺餘也阿彌陀堂本尊は立像の阿彌陀佛を安置す慈覺大師の作也此本尊は後醍醐天皇の御宇に盜賊寺内に乱入し尊像を奪うばひ逃にげるといへども重おもくして詮方せんかたなく二條河原に投棄なげすてて去ぬ其夜より瑞光すいこうを放はなて帝關みせきを映照えいさうし百官これをあやしむ帝光の行衛ぎやうゑを尋させ給ふに彌陀の光明なり勅使ちくし驚おどろて尊像を帝に奉り宮中に安置す其後興正寺に遷座し寺号を佛

光寺と改て勅額を賜ふ又震筆を染られて親鸞聖人の繪詞傳を書し給ひ
 專修念佛の棟梁たる繪旨を賜はる阿彌陀堂の脇壇には聖徳太子自作の
 木像法然上人自作の像を安置す餘間を存覺間といふ本願寺第三代覺如
 上人の息存覺上人こゝに寓居し六要抄四部九帖等を撰す當寺の草創は
 親鸞聖人四十歳の時山州山科郷東野村に建立し興正寺と號し徒弟の上
 足眞佛上人に附屬す其後五條西洞院九條兼實の別莊花園亭を聖人に寄
 附して花園院と号し興正寺の院號となせり後醍醐帝の御宇元應元年に
 當寺を以て今比叡竹中庄汁谷に移す東は阿彌陀峰を限り西は七條河原
 南は菅谷を限り北は汁谷大路に至る其後足利尊氏の祈願寺として佛供
 田を寄附す是より宗門繁昌し尊信の僧俗諸國に充滿し塔頭四十八坊に
 及べり然に文明年中當寺十四世の住職經豪上人山科本願寺蓮如上人に
 屬し寺僧四十二坊其外國の門徒數輩隨順す故に經豪上人の舍弟經

上人當寺の住職とし十四世を相續す秀吉の時大佛殿建立によりて此地
 に移す

◎因幡堂平等寺は松原通鳥丸にあり寺務は天台聖護院御門主寺僧は眞言
 宗なり本尊藥師如來は立像にて長六尺二寸基盤の上に在給ふ脇士は日
 光月光十二神八菩薩を安置す傳記に曰一條院の御宇長徳三年因幡國賀
 露の海面に夜々光あり國司橋行平卿漁人に命じて網をおろさしめ海底
 を潜しむるに光明赫燦たる藥師佛を引上たり其後長保五年四月七日に
 行平の居館鳥丸高辻に忽然として飛來る則館を佛閣に造りて安置す今
 の因幡堂これ也本願は行平卿の息光朝禪師なり則寺務とす承安元年四
 月八日高倉院より勅額を給ひ平等寺と號す永曆二年には後白川院此所
 に幸し給ふ今の堂は足利義教の再建なり橋行平の影像是堂内西の間に
 安置す東の間には夜叉神を安す鎮守は後白川帝の院宣によつて十八所

の神を勧請す観音堂の本尊は慈覺大師の作愛染明王弘法大師を堂内に安置す鐘堂は本堂の西にありて常に注連を張也執行藥王院には大黒天を安置す當寺の本尊は日本三如來の其一にして釋尊在世の尊像也御戸開ある時は勅會の法事音樂等ありて嚴重たり代々の天子御厄年に當らせ給ふ年は毎月勅使參向ありて御祈禱あり是を藥師詣といふ

●五條天神宮は松原通西洞院にあり祭所少彦名命相殿天照皇太神宮大己貴命なり桓武帝遷都の初平安城鎮衛の爲造營し給ふ醫道の祖神とす古之宮殿魏々として東西四町南北五町の神領也巡には樹林森々たり至徳元年には將軍義滿殿舎を再建せりといふ

●一音寺は天使社の西に隣る本尊十一面觀音之長三尺七寸にて弘法大師の作也淳和帝御宇に天下大に疫す此時天皇萬民の爲に伊勢春日兩宮へ令幣使を立られ神託によつて和州長谷寺の觀音をうつし弘法大師に勅

して造らしめ給ふ尊像なり

●音羽山清水寺の本尊十一面千手千眼觀世音菩薩脇士は毘沙門天地藏菩薩なり抑當寺の來由を尋るに大和國小島寺の沙門延鎮寶龜九年の夏靈夢を感ずる事ありて木津川の邊りに行て見れば一ツの流に金色の光あり源を尋て直に登るに茅ふきたる庵に白衣の老翁あり翁の曰我名は行叙此地に住事之既に二百歳に及べり常に千手眞言を誦ふ我貴僧を待こと久し東に行んをたれも志あれば御身しばらくこゝに住給へ我此靈木を以て大悲の像を作り精舎を建ん願わが若遇くかへりなば御身我にかはりて此ねがひを成就し給へといへり延鎮もとより夢の告あれば辭する事なく翁の心にまかせける大いに悦て翁と東に向ふて菴を出たり夫より延鎮此所に住めり或時山科の東の嶺にてかの翁の履を拾へり延鎮れもへらくさてはかの翁は大悲の應現ましくけるよどありが

たぐいよく大悲の尊像を安置せんとねがひ有ながらちからたらずして年月を送りしに延暦十七年に將軍坂上田村丸産婦のために鹿を獵して音羽山にわけ入かの草薙に至れり延鎮田村丸に逢て翁のしめせし事を告る田村丸渴仰の思ひをなし家に歸て妻女にかたる妻の曰わが病を治せんとて多くの殺生をなす此罪いたつてふかゝるべし其教にまかせて大悲の尊像を安置し奉らばいかばかりの利益なるべしと夫婦心をあはせて観音寺を建て延鎮に寄附せん事を約す又行叙より授りし靈木を以て観音の像を作らん事を願ふ延鎮其夜夢中に十一人の僧來て大悲の像を作る長八尺十一面四十臂の千手觀音也造り終つて十一人の工僧行方を知らず夢覺て見るに赫燦たる尊容現し給ひて目前にあり當寺本尊是也夫より佛殿を建んと思ふに此地嶮岨にして尺地もなかりければいかゞと心憂りしに其夜多くの鹿きたりてやすらかに平地になせしかば

(89)

佛殿を造りて大悲の像を安置し奉れり脇士地藏毘沙門天は延鎮の作なり田村丸延暦二十年に詔をうけて東夷征伐の時此本尊に祈りしかば觀世音地藏毘沙門天彼戰場に現し給ひてことごとく退治し給ふ同廿四年に田村丸太政官府の宣旨を蒙りて堂塔を建立し勅願所となし又大同二年紫雲殿を給ひて伽藍となし觀音寺を改て清水寺と號せり奥之院の本尊は千手觀音の立像なり此地は延鎮法師草薙の跡なりとそ阿彌陀堂は瀧山寺と號す本尊は阿彌陀佛の坐像を安置す文治四年五月十五日法然上人瀧山寺にて不斷常行念佛を開闢し給ふ今に退轉なし朝倉堂は越前の國司朝倉彈正貞景是を建立す田村堂には田村將軍鈴鹿權現行叙延鎮等の像を安置す梟水は中門の西にあり靈泉にして地中より涌出る事寒暑に絶ず地主權現のやしらは大己賈命なり例祭は四月九日なり音羽瀧は奥之院の下にあり瀧口三す西のかたへ落て四季増減なし

(90)

◎子安観音は車舎馬止の南にあり光明皇后孝辨帝を泰産し給ふとき天照太神より授かり給ふ一寸八歩の観音也今本尊の腹内にこむる三尊塔あり大日の像を安置す

◎歌の中山清閑寺は小松谷の良にして佐伯公行の建立なり本尊は千手観音の立像菅神の作なり高倉院の陵當寺にあり小督の墓は陵の左のかたにあり高倉院の御寵愛を蒙る櫻町中納言の女なり

◎歌の中山とはむかし清閑寺の眞燕僧都といふ人住けるある夕くれ門外にたゝずみて行かふ人を見ぬたる折ふし髪かたちめでたき女のたゞひどりゆくを見て忽ち愛心れこりければ物いひかくべき便なくて清水への道は何れぞと問ければ女「見るにたにまよふ心のはかなくてまとの道をいかでしるへき」といひ捨て頼て姿を見失ける女は化人にて侍るにや其歌讀所を歌の中山といふ

◎小松谷正林寺は馬町の東にあり宗旨は浄土開基は慈空上人なり本堂は殿舎造りにして九條殿よりの御寄附とぞ壇上には圓光大師の像を安置す南の方に阿彌陀堂あり樓門の額は九條關白尙實公の御筆也明和年中にかくる所也此地はむかし月輪禪定兼實公の御所也小松殿といふ此所より西人家の北の方に谷あり是を小松谷といふ小松内大臣重盛公の山莊にして燈籠堂の地なり

◎三島明神のやしろは馬町北側にあり郷社なり産子は一代鱧を禁すといふ

◎繼信忠信の石塔婆は馬町北側民家のうしろにあり石の大塔二基銘曰永仁三年二月二十日願主法西とあり一基之銘なし

(91) ◎西大谷は本願寺の廟所なり當山初めは智恩院の境地にして寺中崇泰院にその遺跡あり慶長年中に此どころにうつし則舊號を取て大谷と稱す

當寺開山親鸞聖人の傳記に曰東山西麓鳥部野南邊延仁寺に奉ほう葬さうこの由縁ゆゑんをもつてこゝに遷うつすと見えたり阿彌陀堂西面にして堂内に龍谷山といふ額がくあり廟所はその東にあり明著堂めいあつだうの額がくあり對面所たいめんじよの庭上南のかたに石藏いしざうあり當寺の什寶じふぼうを藏たくわひる所となり俗ぞくにこれを窟いほといふ門前に池あり蓮を植うへ架かするに眼鏡橋を以てす又櫻楓等あり四時の眺望甚だ佳なり

◎鳥邊山は北は清水坂南は小松谷を限りむかしより諸宗の墓所なり後京極攝政良經公よしのつねの墓は大谷の北側岸きたがはの上要法寺領よほうじりやうにあり世人あまのよ誤あやまて源義經の墓といふ近年書家烏石先生うせきせんせい碑の銘を建る

◎新日吉社しんひよしやしろは後白川院の御勸請なり舊地は是より南にして日吉坂といふ所なり應仁おうえんの亂みだれに破壊はかいす其後妙法院めうふくわん堯然ぎやうぜん法親王再建し給ふ例祭は毎年五月十四日行る妙法院官御領の神事也

◎智積院ちしやくいんは宗旨眞言新義なり本尊は不動明王興教大師の作也開山之正憲法印ほつしん當寺は豊臣秀吉の子乘君うりまきみ早世さうせいの爲に群雲寺を草創くわうしやうある紀州根來寺きしうこんらいじ滅ほろびて後覺おのぼろ優派うゑはの斷絶だんせつにより新義の徒と是を歎なげく依て群雲寺を賜て智積院と號し新義派の學室と成

◎妙安寺めうあんじと蓮華王院南の門外池田町の端はたにあり虛無僧こゝろそうの本寺とす西國三十三州これに属す達磨普化だつまふけとも祖師とす

◎阿彌陀峰一に豊國山といふ豊臣太閤の遺骸ゐがいのを葬はうじれり

◎豊國神社は前關白太政大臣豊臣秀吉公を祭る大佛正面にあり明治十年の新營しんえいなり此地は大佛殿の舊址きゆうしにしてその表門と伏見桃山城にありしものを移うつし來れり社殿の壯麗華嚴さうらいわげんなること一拜して前の關白たるの威容あり毎年九月十八日を官祭とす

◎大佛殿方廣寺は後陽成院御宇天正六年豊臣秀吉公の建立也本尊は盧舍

那佛の坐像丈六丈三尺佛殿は西向にして東西廿七間南北は四十五間なり
 樓門には金剛力士の大像を置長は一丈四尺なり門の内には高麗犬わ
 り金色にして長七尺廻廊は南北廿間東西百間なり堂前に建る石燈籠に
 は列國諸侯の名を刻む佛殿の敷石又正面石垣の大石には國々出所の名
 或は諸侯の紋所等あり廻廊の外には櫻紅葉を交へて植たり慶長七年十
 二月四日には佛殿回廊す同十五年右大臣秀頼公ことぐく再營ある寛
 文二年本尊銅像を改て木像とし給ふ太閤秀吉公の石塔婆は佛殿の南に
 あり豊國崩れて後これを營しといふ塔前の石燈籠には慶長十年九月
 とありその寛政年間雷火の爲めに焼け亡せて今唯だ巨石を存せり大鐘
 は高さ一丈四尺指わたしは九尺二寸厚さ一尺久しく地上にありしが近
 年鐘堂を再建したり

◎耳塚は二王門の前にあり文祿元年朝鮮征伐の時小西攝津守加藤肥後守

を大將として數萬の軍兵を討取首を日本へわたさん事益なければ所
 別して送り此所に埋耳塚といふ

◎京都博物館は宮内省より建築せらるゝものにして大佛殿の封内なり

◎蓮華王院三十三間堂は後白川院の御願として備前守 平 忠盛奉行し千
 體御堂を建立す堂東向南北六十六間二間を隔て柱を立てれば三十三間
 堂といふ本尊は千手觀音の坐像にして丈八尺作は康慶なり二十八部衆
 ののく壇上に安置す千手觀音一千體は堂内左右にまします運慶湛慶
 の兩作なり抑後白川法皇は常に頭痛の御腦ましますは醫療さまぐな
 りしかども其險更になしある時熊野に御幸あり權現の告によりて永曆
 二年二月廿二日因幡堂に祈給ふに貴僧忽然として告くることあり法皇
 その告によりて岩田河の河底より鬮籤を得る則これを觀音の頭中に籠
 三十三間堂を建立して蓮華王院と号すかの柳の樹を堂の梁となさしむ

又或説には鳥羽上皇得長壽院を御造營ありて一千体の観音を安置す後
 改て蓮華王院と號すともいへり堂前に夜泣泉あり傍に池ありて春の
 すへより初夏に至り燕子花咲亂れて濃むらさきの色池の面に麗しく京
 師の騷客廻りの茶店に宴を催して終日これを美賞す當寺の佳境なり大
 矢敷の菴鶴と新熊野観音寺の別當梅坊射術を好みて八坂の青塚の的
 場へ通ふ歸さに當寺の後堂に休み射初し也夫より連年諸侯の家臣出て
 射術の譽を争ふ當所より通矢の檢證出て其一を蒙るものには金銀の磨
 を渡す尾州よりは星野勘左衛門八千箭を通し貞享三年四月廿七日紀州
 和佐臺八郎總矢一萬三千五十三通矢八千百三十三數にして一を得たり

◎新熊野観音は弘法大師の作なり西國順禮観音の其一なり

◎新熊野社は後白川法皇の御願にして紀州熊野三所権現を勧請せり

◎東山泉涌寺は大和大路一の橋の東にあり當寺の初は弘法大師の開基な

り其後文徳帝の御宇齊衡三年に左大臣緒嗣公再建して天台宗となし仙
 遊寺と號す此山に仙人遊びしゆへなり中興の開山之俊仍法師號は我
 禪それより以來天台眞言禪律の四宗を兼學す當山の麓に靈泉涌出しけ
 れば號を泉涌寺と改む抑俊仍法師は肥後國飽田郡の人なり四才にて天
 台池邊寺の珍曉が弟子となり十八才にて落髮し十九才にして太宰府の
 観音寺にて具足戒をうけ三十三歳にて律宗を傳んため宋國にわたり四
 十六才にして嘉定四年二月廿八日歸朝せり建保六年に和州の刺史中原
 信房が崇敬によつて我領地泉涌寺を寄附せり夫より當寺に住職して後
 堀川院の御宇嘉祿三年閏三月八日六十二才にして遷化せり天子の官
 寺となる事は八十六代四條院を權輿とせり是より以來代々の帝當山へ
 葬り奉る陵は前帝神主殿の前にあり佛殿の本尊は彌勒釋迦阿彌陀の三
 尊を安置す東山といふ類は張即之の筆なり舍利殿の本尊は佛牙の舍利

なり二重の金塔に安置す抑此佛牙の由來を尋に佛涅槃に入給ふ御時羅刹足疾鬼ひまを窺ひて佛牙を掠奪たりしを韋駄天降伏をくはへ取どしめ晝夜に敬て身を放し給はず然して佛滅後一千六百余年を経て大唐の白蓮寺道宣律師戒香齋修の威徳冥感にも通じけるにや韋駄天かたちを顯し三皈八戒をうけ得て其報恩に此佛牙をさづけ給へり夫より人間に傳り白蓮寺に納め金闍の寶函に秘しおけり日本に渡りし事は當山中興の開基俊苜法師の末弟湛海我師の宋國に渡りし芳跡を慕ひて白蓮寺に詣し赤栴檀を供えて佛牙を恭禮し仰信のあまり竊に舍利を懇望のよし述けれども叶はずして空く本朝に歸しが猶志願やむ事なくかさねて入唐し二階の樓門三重の塔婆をかまへて船艦を滄溟にうかへ事ゆへなく江隱軍に至りしかば白蓮寺の修造成就し大衆等甚深の志を感じ其徳の凡人にあらざる事を知りて酬答たゞ來賓に任すべきよし衆命一同

なりしかば是以萬里渡海の本懐は偏に佛牙の求詣にあり二度來朝の素願しかしながら舍利の利益を思ふよし具に述ければ忍佛牙の付属をゆるしけり歡喜の涙をねさへて歸帆の纜をときことゆへなく彼御舍利を本朝にうつし當寺の本師と崇奉る觀音堂の本尊聖觀音は玄宗皇帝楊貴妃に別れ給ひて追善のため妃の貌をうつして作り給ふ補陀落山の額も此帝の筆也

◎惠日山東福寺は五山の第四なり大和大路一の橋の南にあり當寺の開山は聖一國師諱は辨圓駿州の人なり十歳にして天台宗を學び十五歳にて三大部を終り十八歳にて園城寺にて髮を剃東大寺の戒壇にのぼり受戒せりあるとき三井を出て野州長樂寺に行て榮朝に隨ひて別傳の道をまなび猶その奥旨を極ん事を欲し嘉禎元年に入唐し宋の徑山寺無準を師とせり斯て六年を経て仁治二年の秋歸朝せり寛元元年九條關白家道

公東福寺を賜て住職せり弘安三年十月十六日七十九歳にて遷化す偈曰
 利生方便七十九年欲知三端的佛祖不傳遷化の日當山の竹木色を白
 色に變じ双樹自ら枯たり正和のはじめ謚を聖一國師と宣旨を賜る凡
 國師の號は是よりはじまるとぞ當寺の號は南都東大興福の兩号を合せ
 て用ゆるなり山門には妙雲閣といふ横額あり足利將軍義持の筆なり佛
 殿の本尊は釋迦佛法堂は潮音堂と號す額は無準の筆なり天井の蟠龍と
 初め兆殿司の筆なり此人大道和尚の弟子にして諱は明兆字は吉山なり
 當寺の涅槃像は應永十五年六月殿司五十七歳にして畫けるよし脇書に
 あり本朝無双の像なれば世に名高し方丈の額は張即之の筆選佛場の額
 は徑山無準の筆也本尊は文殊菩薩聖觀音を安置す當寺の鎮守は成就宮
 といふ光明峰寺殿の建立なり東司の額は張即之の筆十三重の石塔は比
 良明神の告によつて藤丞相道家公これを建る圓栢の古樹は開山國師宋

國より携來る厨の高梁も唐木にしてこれらも異國より渡る常樂庵の
 額は光明峯寺の筆證聖一國師の勅額と持明院の震筆なり祖堂の中央と
 達磨百丈禪師臨濟禪師の像を安置す後壇には光明峯寺殿下の影徑山無
 準禪師の像あり傳衣閣には毘沙門天藥師觀音を安す是開山の昭堂なり
 通天橋の額は普明國師の筆橋下の溪を洗玉圃といふ此はとりに楓多し
 秋のすへ紅錦の色をあらはしければ洛陽の奇觀となる十月十六日は開
 山忌なり俗に辨當納とて群參す五大堂には不動明王を安す正月廿八日
 火災除滅の札を出す萬壽寺は當山の北門三聖寺の内にあり昔と六條坊
 門にあり五山の列第五なり

◎稻荷神社と伏見街道第三橋の南にあり官幣大社なり往昔人皇四十三代
 元明帝の御宇和銅四年二月十一日午の日此山に出現し給ふ本社第一宇
 賀御魂神第二素盞鳥尊第三大市姫已上田中社四大神此二神を併せて五

座と稱す弘長三年に告わつて文永の中に併奉るなり又田中社の客人神
 大歳神は鶴と化して稻の實を含んで來現したまふ此ゆへに一切の鳥を
 獻ることを忌といふ延喜八年故贈大政大臣藤原朝臣時平三箇社を修造
 す又永亨十年に社を三の峯より今の地に移すなり上の社は宇賀御魂伊
 弉諾伊弉册尊を崇奉る二月の初午参りは和銅年中二月初の午の日出
 現より恒例の祭事となる倉稻の縁によりて土器黍粟等を土産とするな
 り古は神木の杉の枝をとりて歸り家に收しとぞ三の峯の御注連張は毎
 歳正月五日なり古山の半腹に瀧あり今は水涸て小水流れ麓に至つて碓
 川といふ例祭は五月七日なり神興五基九條の御旅所より東年南の大門
 を挿入て金堂の前に神輿をすへ産子は神供を頭に載て運び持て獻じ
 僧侶はかはるく出て法施し東寺寺務の僧正をはじめ一山の衆僧は東
 西に烈し弦召と東のかたに警す其嚴重たる粧ひ他にならぶ事なし是を

東寺の神供といふ近年安永三甲午年より祭禮の式再興ありて行烈の首
 には勅裁繪旨。弓。楯の神具かずく烈り神輿の前後には社司のめん
 く騎馬にて供奉し唐鞍の神馬三疋其外。大幣。櫛。鬘。菅蓋。錦蓋
 等雲のごとくつらなり巍々滔々として壯麗たる祭式なり

◎東本願寺は鳥丸六條の南にあり宗旨と親鸞聖人の弘法にして開山より
 第十一世顯如上人の嫡子教如上人慶長七年關東の 台命を蒙りて六町
 四方の寺地を賜り新に御堂をいとなみ東本願寺御門跡と稱し宗祖より
 十二世の血脉を相續す本堂は親鸞聖人自作の像を安置す坐像にして長
 二尺五寸餘なり此尊像はじめは上別廡橋妙安寺にあり 台命によつて
 當寺に遷す脇壇には前住大僧正其外歴代の書影を安す餘間に之九字十
 字の名號をかくる開山聖人の筆なり阿彌陀堂の本尊阿彌陀佛は安阿彌
 の作也立像にして長三尺計脇壇には聖德太子法然上人其外三朝六高僧

の齋像を安す大門本堂の前に有階上に釋迦彌勒舍利佛を安置す阿彌陀堂猶鐘堂寢殿小寢殿白書院黒書院等あり能舞臺あり其外殿閣堂舎等花飾をつくして他境に勝れり爾來しばしば火災にかゝりしが漸次復舊して明治廿六年には祖師の建竣あり二十八年にはことごとく出來して盛に供養を營めりその北に花園あり遊苑とす疏水の水を引き來りて吹き上げを設けその水地をぬくこと三十丈瀛車よりその壯觀を望むべし

◎枳殼邸は上珠敷屋町枳殼馬場にあり東本願寺の別院なり寛永年中幕府より賜はる地なり伏見城の舊構を移して館と爲し種々の風景ありしかこれ亦しばしば火災にかゝり今は舊觀を存せず涉成園とはこの邸のことなり

◎本願寺は西六條にあり宗旨は親鸞聖人の弘法なり當寺の草創は龜山院御宇文永九年聖人の息女覺信尼公勅を蒙て洛東大谷に始て廟堂を建立

す龜山院勅願所として龍谷山本願師の號を賜ふ第二代如信上人其頃奥州大綱郷に居住す故に覺惠法師大谷の留主職となり夫より覺如上人第三世を繼で後伏見院正安元年に勅願寺たるの綸旨を賜る第八代蓮如上人の時宗義太に繁昌し宛開山の在世に超たり山門の衆徒これを妬で寛正六年に當寺を破却す又寺門三井の衆徒は蓮如上人に荷擔し近松よを寄附し聖人の影像をこゝに移すこれより蓮如上人は北國を經回し越前吉崎に御堂を營北陸七州を化益し其後文明十一年山州山科郷に影堂を建立し第九代實如上人に紅衣を賜第十代證如上人の時御堂を攝州大坂石山にうつし十一代顯如上人の時二品親王の勅書を賜り御門跡の號を勅許し給へり又御堂を紀州鷲森にうつし遂に天正十九年八月六條堀川に移す本堂は開山親鸞聖人自作の影像を安置す此像は開山在世の時彫刻し給ひ息女覺信尼公へさづけ給ふ也聖人の滅後遺骨を細抹して

漆うるしに和あし影かげを潤うる色いろせり故ゆゑに骨肉御影こつにくのみかげと稱なづす坐像ざざうにして長二尺五寸餘也南北の脇壇わきだんには前住大僧正其外歴代の畫像えいざうを安やすす餘間あまのまには九字十字の名號なごうを安やすす寂如上人じやくにょじんの筆也毎年報恩講七晝夜の法會ほふかいには八幅の繪傳えいでん壇上だんじやうにかくる阿彌陀堂本尊阿彌陀佛は立像長三尺餘にして春日の作なり脇壇わきだんには六高祖聖德太子法然上人の畫影えいかげを安やすす集會所轉輪藏撞鐘堂しゆかいじよせんりんざうつづねだう鼓樓唐門虎間浪間對面所白書院黑書院其外關雎殿綺春館永安館桃仙館等の殿舎高閣多し

◎滴翠園集會所の東にありて名區の十勝あり高樓を飛雲閣と號す聚樂亭にありしをこゝにうつす額がくは九條關白尚寶の筆也閣上の畫は霞の富士中間の畫は三十六歌仙どもに古法眼元信の筆也下を韶賢殿といふ池は高樓を巡りて常に船を浮うかむこれを滄浪池といふ龍背橋を過て踏花場あり此邊櫻木數品あり胡蝶亭の傍に夜は光石あり嘯月坡は池の巡りの坡

をいふ黃鶴臺と高閣の西なる御湯殿なり醒眠泉せいみんせんは一名古醒井こせいゐといふ鮎あま雪林せつりんには梅花多し青蓮榭せいれんせと茶亭にして又澆花亭ともなつく簡文が遊し華林園に同うして鳥獸禽魚おのつから來つて人に親の芳園なり

◎常樂寺西本願寺の前にあり本尊阿彌陀佛は春日の作也開基存覺上人なり此人聰明教智にして顯教けんけうを立智たし僧正そうじやうにうけ密教みつけうを經惠僧正けいゑそうじやうに學びその奥旨おくしゆを悟さとり且詩歌を善して名を著せり當寺初と大宮通に營其後今小路に遷うつされ常樂臺と稱す天正十九年此地にうつす

◎興正寺西本願寺の南に隣る本尊阿彌陀佛は安阿彌の作也當寺の初は宗祖親鸞聖人四十歳の時山科やまなかの郷中に造營ぞうえいし興正寺と名づけ高弟眞佛上人たかたひまことに附屬ぞくす其後今比叡竹中庄汁谷ひゑたけなかぢやうじやうにうつし後醍醐帝の御時佛光寺と改かへひ十四世經樂上人本願寺蓮如上人を歸依きゐし佛光寺を出て新に一堂を建て舊號を用て興正寺と稱す十七世顯尊上人の在世永祿十二年に門跡号

を賜天正十九年此地にうつす

(108)

●炬火殿は七條鴨川の西にあり祭所倉稻魂命と風神を併せて天智帝の勅請也又稻荷の祭禮の日神興臨幸の時七條河原にねるて松明を照し神興を迎ふるなり此社の舊例にして故に名とす

●金光寺は七條間の町の行當にあり七條道場と稱す時宗にして本尊は阿彌陀佛を安置す脇壇には一遍上人の像あり此上人の俗姓は伊豫國河野七郎通久か息也ある時別府通廣か妾二人碁盤を枕として臥すかの兩の髮を化して頭を立て闘ふ通久これを見て大に驚き忽劍をぬいて段々に斬これより妄執輪廻を觀察して不羈の僧となる時に建長年中也始は台教を學び又熊野に詣で權現の示現を蒙り四句の文をさすかりこれより時宗と改め六十萬人決定往生の札を弘む舊此地は佛工法橋定朝が宅也後に上人に寄附して寺となす

●成興寺は九條烏丸にあり本尊觀世音は慈覺大師の作なり洛陽觀音巡りの其一なり

●宇賀社は九條の東にあり祭所宇賀神也此所の東西の徑と宇賀辻と云

●大光山本國寺は堀川松原の南にあり法華宗にして一致派なり開基は日蓮上人にて初は相州鎌倉松葉谷に建立ありて法華堂となづけ一宗最初の精舎なり抑日蓮上人は姓乙三國氏父は遠州の刺史貫名重實が次男重忠母は清原氏也貞應元年二月十六日午の刻に房州小湊浦に誕れり十二才にして同國清澄寺に登り眞言を學び十八才にて落髮し名を是性と號し後に自日蓮と改む幼稚より才賢にて常に虚空藏を祈るある夜の夢に老僧來り手に明星の如くなる寶珠を擧て授與す是よりして一を聞て十を悟れりかくて諸宗にわたる南都北嶺にいたり園城に入ては學窓に螢をわつめ情諸宗の議判蒙霧散しかたければ藏經を檢みつから

(109)

經中王最第一の金言にいたり衆生成佛の根元こんげんなる事を見ひらき建長五年三月廿一日三十二才にして朝日にむかひ合掌あがつしやうし始て南無妙法蓮華經の七字を唱滑となへ澄寺の南面なんめんにして一山の僧其外守護職東條左金吾景信等をあつめて法花を演説えんせつし論釋の議文をあらはしければ諸宗の僧徒風に木葉の隨が如し是一宗流布の濫觴らんしやうなり弘長元年五月平重時これを妬で伊豆國伊東浦に左迂せり又ある時相州竜口の汀みぎはにして誅あやせられんとせしに天俄てんわにかさくもり震動しんどうして太刀取眼くらみ劍段けんだんにをれにけり相續守大に驚き死をゆるす又文永八年には佐渡國に流されしかどもいよく天災てんさいありければ赦免しやめん狀をか島の島にれくりしより宗派しゅうは海内に限なく流布し遂に相摸守も貴敬し上人は文永十一年五月に鎌倉を出て甲州身延山みんげんに入て艸菴さうあんを結びたり後宇多帝の御宇弘安五年十月十三日武藏國荏原郷池上左衛門宗仲むねなかか家にて遷化せり行年六十一歳なり本堂は法華

經を本尊とす日助僧都一字三禮の筆也立像堂には釋迦佛を安置す祖師堂せつたうほうぢやう利堂方丈人磨社こうたうせいせ阜歸石ふたせき鶴つる湯ゆ曼陀羅まんたらか等あり

◎玉生寺は朱雀しゆじやくの東にあり宗旨は眞言律しんごんりつにして和州招提寺せうたいに属す本尊地藏菩薩之坐像長三尺にして定朝の作也當寺の草創は一條院御宇正曆二年にして開基は三井寺の快賢大僧都也姓は藤氏にて粟田關白道兼公の支族しそくなり智證大師ちじやうだいしに隨身さいしんして天臺の奥義を究きまむ永承十六年十一月十六日寂しやくす地藏の尊像彫刻の志願を發し佛工定朝に命じて一千日の間に作り終る相好さうごう圓備して恰あたかも生身なまみに向ふが如し是當寺の本尊也又持物の錫杖は落慶らくけいの日本尊の四方霧きり深くして異香いこう薫かじ音樂おんがく幽ゆうに聞へて聖衆來迎せいじゆうらいごうの如し正午に及んで漸霧晴しんきりたり本尊を拜すれば忽然こつぜんとして六輪の錫杖を持し給ふ又本尊ある夜の夢に此錫杖は釋尊伽羅陀山にして延命地藏經を説給ふ時地中より出現なりと告給ふ當寺の最初之草堂にて此本尊

を安置す寛弘二年に堂供養あつて小三井寺と號す其後順徳院御宇建保
年中に和州前吏平朝臣宗平ひねかへ本尊の利益を蒙りてより堂舎僧坊悉造營す
此時は寺を寶幢三昧院と號す又地藏院とも稱す白川院鳥羽院後白川院
順徳院なども信敬ありて行幸ならせ給ふ中興は圓覺上人和州服部の産
にて藤原廣元ひろもとが子也大念佛是時より始る毎年三月十四日より廿四日に
空る種々の猿樂となす是を壬生の狂言といふ

●東寺即ち八幡山教王護國寺秘蜜傳法院大宮の西八條の南にあり眞言宗
の源にして開祖は弘法大師舊此地は大内裏の鴻臚館にして來朝の賓客
を儲る所也漢朝の鴻臚館を不空三藏に給て精舎と營し其例に准じて
弘仁四年左寺と空海に給ひ右寺を守敏に賜ふ抑弘法大師は讃州多度郡
屏風浦の産にして光仁帝寶龜五年に誕じ給へり十八歳にして大學に至
り志佛經にありて遂に出家して延曆十四年東大寺の檀にのぼり具足戒

をうけ名を空海と改む靈夢によりて和州高市郡久米道場の東塔の下に
て大毘盧遮那神變加持經を得たり文議疎しかたければ延曆廿三年五月
に入唐して唐の貞元廿一年二月十一日青龍寺の慧果阿闍梨あつに謁しかの
經の奥儀眞言秘密をつたへ大同元年十月に歸朝して傳來の密法を弘む
ある時嵯峨天皇勅ありて内裏におゐて諸宗の名僧をあつめ空海にめん
く尋る所の宗義を論せさせ給ふに空海の日我宗と大日神變の眞言一
度阿字を觀すれば即身成佛すといへり諸宗一同にこれをやぶり議論治
まらざりければ帝空海に即身成佛のしるしをなすべしと勅ありければ
則五藏三摩地觀に入あつ忽首より五佛の寶冠を出し身より五色の光明を放
ち面貌金色にして毘盧遮那佛となる帝は御座よりくだり給ひ諸宗の僧
は合掌して地にふしけりこれより議論なかりければ宗風日本に弘り弘
仁七年に紀州高野山を賜て金剛峰寺を建立し仁明帝御宇承和二年三月

(114)

廿一日六十二歳にして高野山に入定せり其後延喜廿一年に弘法大師と
證あかしを宣下し給へり

●金堂本尊は薬師佛脇士は日天月天なり焼失の後豊臣秀頼公の再建也大
佛殿の模形なり

●講堂本尊は大日如来脇壇には金剛菩薩五大尊四天王等を安置す

●食堂本尊は千手千眼観世音聖賢僧正の作なり脇士は地藏毘沙門天を安
置す地藏尊はいにしへ西寺にあり毘沙門天を羅城門の樓上に有し也

●夜叉神いにしへは食堂の門に安置す今礎石あり左右の小堂に雌雄の夜
叉神を安す大師の御作なり

●五重塔四佛を安す兵火の爲に焼失す後徳川家光再建す此塔一トとせ南
の方へ傾くこれによつて北の方に池を堀て其傾を直にす

●灌頂院秘密灌頂の所なり

●八幡宮は大師神影を拜して彫刻し給ふ神像なり當寺の鎮守とす

●八島社當寺建立以前の勧請なり故に地主の神とす

●寶藏瓢箪堀南大門慶賀門蓮華門等あり又猫瓦は巽の方の築地の上にあ
り此築地造營の時之梶原景時奉行すといひ傳へり西院開祖弘法大師の
影を安置す法眼康勝の作なり後堂には大日不動尊四天王般若菩薩を安
す大師の作也三鉢松西の院のまへにあり大師唐土より歸朝のとき我密
教相應の地あらば此三鉢止るべしと空中に投げれば此所の松枝に止り
けり故に名とす三葉の松なり

●羅城門の舊跡は千本通四塚にあり此門は桓武天皇平安城造營の時初て
建給ひけり大内裏の南面にして外郭の總門なり樓上に毘沙門天を安置
すこれ傳教大師の作なり今東寺の觀音堂にあり

●島原の遊廓は朱雀野にあり此所上古は鴻臚館の地なり中頃は觀喜壽院

(115)

の封境にして西口の島の字を堂の口といふ郭は柳馬場二條の南方三町
 なり其先は義政公遊宴の地なり天正十七年原三郎左衛門林又一郎とい
 ふ浪人上訴によつて傾城町を免許せられ一の郭をひらきしなり地名を
 新屋敷と號し又柳の雙樹あれば柳町とも稱す今の出口の柳は此遺風也
 其より十三年を歴て慶長七年に六條へうつされ今の室町新町西洞院五
 條橋通の南にて方二町の郭也中に小路三通ありしにより三筋町と號す
 魚棚西洞院川にかゝる石橋は傾城町の入口にして此時かけ初し也今に
 あり又室町五條の南西側醜匠の居宅異風なり此時の忘八にして今に存
 せり又寛永十八年に今の朱雀野へ移さる島原と號することは其頃肥前の
 島原に天草四郎といふもの一揆を起し動亂に及ぶ時此里もこゝにうつ
 され騒しかりければ世の人島原と異名つけしより遂に此所の名とせり

◎賀茂御祖神社は下加茂村にあり官幣大社なり天武天皇白鳳五年の造營

にして下の社御祖の神は加茂健角命の御娘玉依姫にてましますある
 時瀬見の小河のほとりに遊ひ給ふに丹塗の矢ひとつながれ來りしを拾
 ひ取り屋のうへにさし置しはしへて孕身となり終に男子をもうけ給ふ
 一日里人をあつめ宴を催し杯をか男子にあたへ汝が父にさし給
 へといひ聞せ侍るに盃を虚空になげうち神とあらはれ天に昇り給ふ是
 なん上の御社別雷太神宮なり丹塗の矢は火雷命なり松尾大明神是な
 り葵祭と四月中の酉日欽明帝の御宇に始る大内より御車出て公卿みな
 く騎馬にてあはひかづらをかけ音楽を奏し其儀式嚴重にして美麗の
 行粧他にならびなき祭禮なり五月五日の競馬はいにしへ大内裏武徳殿
 において騎射の事有此例によるとかや朔には足揃あり神官達黒赤の
 裝束を着し左右に別れ勝負楓とて馬場の左にあり是より中にて落た
 ると乗れくれたるを負とす六月十九日より晦日迄は夏越縁とて御洗

川の邊に諸人遊宴する也晦日には上鴨の神前にわいて猿樂あり日蔭山
二葉山は上鴨神殿の東にありて御生山の別名なり石川瀬見の小川鴨の
羽川などは皆みたらし川をなづくるとかや岩本橋本の社は住吉和歌の
二神とも又業平賢方の化現なりとも言傳ふ吉記にいはいく平安の京は百
王不易の都なり東に嚴神あり西に猛靈をわはぐ則嚴神は鴨太神宮なり
猛靈は松尾の靈社はなり二神の鎮護によつて萬代平安の福を蒙るも
此御神の威徳なりとぞ

◎御手洗川之社の東より流れて糺森を過ぎ行けり樹木鬱葱として涼味い
ふべからず炎暑の頃は納涼の場とす

◎長徳山知恩寺百萬遍は淨土鎮西四ヶの一本寺なり古は加茂の神宮寺に
して慈覺大師の創なり法然上人鴨下上を尊信ありて感應を得一宗を
弘通せり又ある時鴨皇太神宮懇望ありて末世衆生のため一枚起請を書

しめらる是より當寺を改めて念佛の道場とし徒弟勢觀房源智上人に附屬
し給ふ後醍醐天皇の御宇に國中大に疫病流行て死するもの數しらす帝
これを憐給ひて諸の祈禱有といへとも更に驗なし時に當寺の八世善
阿上人に勅命ありて是を祈らせ給ふ善阿參内して更に餘行なく一七日
の間念佛すると一百万遍也疫病忽に退て天下安堵す此時修する所の
大珠敷今に有帝大に叙感ありて號を百萬遍と賜る本堂には元祖大師の
像を安置す本師堂の釋迦如來は慈覺大師の作也鎮守は鴨太神宮也堂前
の石碑は建久年中に小松内府重盛宋朝へ黄金を渡さる其志を感じて褒
陽の龍興寺より石刻の阿彌陀經を賜る其形を摸す所也

◎干菜山光福寺は百萬遍の北にあり豊臣秀吉公に干菜を多く献しより此
號を賜る俗に干菜寺といふなり又六齋念佛の本寺たるの旨免許ある例
年六月廿五日近郷より集りて六齋念佛を執行しける也

◎瓜生山將軍地藏は白川の北にあり原はひがしの巖にあり寶曆十二年此地に遷す本尊は石佛の地藏尊長二尺の像也此地之永祿年中城郭にして足利將軍義輝細川晴元籠城せし所にして其頃は此尊像も城中に安置せし也

◎北白川は銀閣寺の北なり里の名にして川は民家の中を西へ流る三百川の其一なり此里は京より近江の志賀坂本への往還なり志賀山越といふ索性法師が君が代までの名こそありけりとつらねし白川の瀧は道の傍にありて日陰を晒し川の半に橋ありてはじめは右手に見し流もいつとなく弓手になりて谷の水音漸瀝として深山かくれの花を見岩とせる流清くすみて皎潔たる月の影闇しく橋のほとりに牛石といふあり形は牛の臥たるに似たり是よりひがしに山中の里あり比叡の無動寺へは此村はづれの細道より北に入る右のかたの一家には川水を覓にとりて水

車めぐる

◎北山御坊親鸞聖人の舊跡は一乗寺の郷中舞樂寺村にあり西本願寺の懸所なりむかしは山門の末院にして諸堂嚴重たり境地に靈水あり故に聖水山舞樂寺と號す聖人叙嶽にありし時一宗開發の志願願にして此所に來り百日別行し靈水にて垢離し六角堂救世觀音にあゆみを運ふ又ある夜夢中に聖德太子此地に影向のりて生極樂の要父を授給ふ是より他力本願の一流を弘め末世の衆生を化益しけり靈水影向石共に御堂の東にあり永正年中まで堂舎嚴然たりしが其後荒廢に及ぶ本願寺九代實如上人御堂草創ありしを住如上人の代に堂舎を山科にうつさる近年法如上人門徒に命一再御堂を建立せりと

◎詩仙堂は一乘寺村天王に至る南方にして石川丈山の山莊也表に小有洞の額あり中門の額は梅關路次の額は凸凹窠詩仙堂の額上は彌月樓下は

蜂要四壁には漢晋唐宋の詩人三十六輩の像を畫き其人の詩を丈山みづから書して畫は狩野尚信とそ故に詩仙堂といふ左には蘇武、謝靈運、杜審言、李白、王維、高適、儲光羲、韋應物、韓愈、劉禹錫、李賀、杜牧、寒山、林逋、梅堯臣、歐陽修、黃庭堅、陳與義、の十八人右には陶潛、鮑昭、陳子昂、杜甫、孟浩然、岑參、王昌齡、劉長卿、柳宗元、白居易、盧仝、李商隱、靈徹、邵雍、蘇舜欽、蘇軾、陳師道、魯幾の十八人なり丈山の墳は詩仙堂の巽の方山上にあり正保二年舞樂寺村の中山に壽墳を築て頭仙祠と號す丈山は無二の隱士にして此竹林に居し誓て鴨川を渡らすとなり寛文十二年五月廿三日卒す年齢九十歳

◎天王社は一乗寺山下里松の東にあり古は舞樂寺のやしろといふ八大天王を祭る末社は諏訪八幡宮也此地の氏神にして例祭は三月五日なり

◎赤山の社は修學寺村の東山下にあり慈覺大師唐土より歸朝のとき明神

は白羽の矢負ふて船の上に現し天台守護となり給ふ神託によつて此所に勧請しけり神前に迦字の梵字を三所にかくる本地堂は地藏菩薩にして慈覺大師の作なり

◎玉山稻荷社は高野村にあり原内裏にありし祠なり享保年中此地へ預らるゝ所なり

◎曼珠院は一乗寺村にありむかしは北山にあり後禁内に移りしが明暦二年今の地に移さる天台宗なり元祖は山門阿闍梨是算なり

◎圓光寺も同村にあり南禪寺に属す本尊千手觀音は二尺の坐像にして運慶の作なり徳川家康の頃足利學校を此寺に移す時に木製の活字十万字を賜ふこれ吾が國活字版の始なり

◎修學院離宮はもとは御茶屋と稱せしが後水尾天皇の行幸ありしを始めとし代々御遊ありたり明治維新より離宮とせらる風景佳絶なれども今

は衆庶の觀るべきにあらず

●御蔭社は叡山の西の麓高野川の東にあり下鴨皇大神宮降臨の地なり故に御生山といふ例祭と四月中の午の日なり内裏より恒例の祭式魏々として氏は騎馬にて列を正し神馬にて錦蓋をかざし楯鉾弓等の神具さまく列り音楽にて下鴨の神臨幸ある也

●加茂別雷神社は上鴨村にあり官幣大社なり委しきは下加茂御祖神社の條に委しければこゝに之を略しぬ

●八瀬の里又矢背とも書す高野村の廿町北にあり天武帝大友王子と位を諱ひて山城の北へ馳給ひし時王子の軍兵追かけ奉りて射かけければ御容に矢中けり此ゆへに名とす當所に竈風呂あり天武帝の矢の跡平癒のためしつらひしを始とせり竈風呂には青松葉を燒功能勝るゝとなり

●大原は八瀬の北一里にあり若狹街道にして東西に端戸寺村上野村大良

瀬村來迎院村勝林院村井出村野村草生村の八村ありしが今と一村となれり

●松崎本涌寺は開基日生上人にして日蓮宗派なり天正年中に法華圓純の學室となる妙泉寺は日像上人のひらき給ひし所にして同宗なり毎歲七月十六日堂のまへにて此里の老若男女うち交り題目にふしをつけ聲をかしく拍子とり踊り狂ふなり是なん松崎の題目ねとりとて名に高し其交うしろの山において妙法の二字を燒火に顯し聖靈會の送火とするなり

●御菩薩池は幡枝の南にあり傍に地藏堂あり平相國清盛の代西光法師かいとなみしとそ六地藏廻りの其一なり

(125) ●市原の普陀洛寺はいにしへ清原深養父の幽棲せし所也舊地は是より丑寅のかたにて堂の谷といふ後白川上皇大原の女院と訪給ふとて此所

を通り善陀洛寺に御幸の事あり庭に小野小町四位少將の墓あり

●北岩藏大雲寺は天台宗にして本尊は聖觀世音の立像なり行基の作とぞ
 仰此寺のはじめは王城の北の空に紫雲のたなびく所あり衆人は是をわや
 しむよつて勅使として右近衛中將何某をつかはし見せしめ給ふに此山
 の巔なり勅使不思議に思ふうち忽然としてかしらに雪をいたゝきた
 る老尼現れ曰此地はこれ觀世音降臨の靈地也と又高峯にいたるに異香
 四方に薫じたる懸嶽あり是を窺見れば音楽を奏して其中より觀世音
 の光明赫々たる尊體を拜して此地に伽藍をたて行基の作り給ひし尊像
 を本尊となす大雲寺の額は詔によつて佐理卿筆を染しなり開基は智辨
 僧正なり又此所を岩藏となづくる事は詔あつて王城の四方に石藏をい
 どなみ經王を納めらる其邊りに石座明神まします是石藏のゆゑんなり
 ●八盤岡はむかしおはくの楓茂りて秋のすへ紅葉する事蜀錦を詠にこと

ならず今は北の尾崎に少し残る

●長谷八幡宮は惟仁親王の勸請し給ふ所也長谷花園中村三卿の氏神にし
 て祭は八月十五日神輿一基あり

●朗詠谷は大納言公任卿の幽居せし舊跡なり此所は長谷川を傍て北のか
 たなる山中に入ること五六町ばかりこれを過て解脱寺といふ舊地あり
 今に礎石のころこゝにおゐて公任卿出家せしとそ是より一町ばかり北
 に至れば平地あり彼卿此所に住みて和漢朗詠集を撰じ給ひしととなり又
 御所谷ともいふ長谷川は八盤の岡の北なる谷より流れ出て長谷村の中
 を西へながれ岩倉大雲寺の前より南に落て幡杖にながるゝなり花園は
 長谷の南にあり

●三宅八幡宮は高野村にあり俗に蟲八幡といふ小兒の蟲毒を患ふるを治
 すること妙なりと故に子女を伴ふて參詣するもの日に多し此社と見島

●梶井宮圓融院梨本房は呂の川の北にあり天台の座主にして諸門を推てこれを祖とす當院むかしは東坂本にあり梶井の芝とて今に舊跡のこる夫より舟岡山の麓にうつし近代此地へうつすとなり極樂院は當院にあり惠心僧都の妹安養尼の庵室の舊跡あり賣炭翁の墓はうしろの山にあり古此所にて炭を焼初し翁の墳なりとそ護法石當院の門前垣の傍にありむかし皇慶阿闍梨といふ智徳の僧ありて常に天童來りて隨從すこれを護法童子といふ皇慶の滅後に化して石となりしといひ傳ふ

●魚山勝林寺は大原村にあり本尊を證據阿彌陀と號す坐像にして長七尺佛工の祖康成の作也當院は一條左大臣雅信の息少將入道寂源法師の卿創なりむかし叡山の僧都卒覺超同靜慮院偏教とて智者ありしが此如來の前に於て佛果の空不空の議論ありけり覺超は不空といひしに如來相好を隠し偏教は空の義を立つるにかへつて相好をあらはし給へり然れ

は中道實相こそ如來の本意なれといふところにて於て顯れぬ夫より世の人證據彌陀と稱しける又文治二年の秋法然上人と山門座主顯眞法印を始め諸宗の學徒と一向專修の問答ありしに法然上人の談論あるときは本尊光明を放給ふこれを大原問答といふ諸宗の知識みな上人の弘法に伏し顯眞もたちまち專修の行者となり則法泉坊に住給ひ稱名念佛絶すとなん

●實光坊勝林院の前にあり後鳥羽院の御塔は坊中にあり法華常行堂實光坊の北にあり本尊にて聖觀音を安置す惠心の作也袈裟かけ石勝林院村の西にあり皇慶法師大原に住給ひしとき天童降りて袈裟の穢しを天竺の無熱池に飛行て濯かへり此石にかけしとなり

●古知谷光明山阿彌陀寺大原勝林院より十八町北なり如法念佛の靈場にして本尊阿彌陀佛は惠心僧都の作也當山開基彈誓上人は尾張國海邊の

人なり父なくして母公彌陀三尊を夢見て名號を吞より妊身となり其後彌陀尊に蓮華を賜り彌釋丸と號べしと佛告夢の如くなる曉に出産し給ふ此時天より白幡三流降りて靈瑞多し九歳の時出家し美濃國塚尾の觀世音に百日參籠し念佛諸行に勝るゝ要文を授り其より自行の爲に山居し或は諸國を經廻すある時京に到り五條の橋を通りし時北のかたに紫雲飄飄光明赫々たりこれを慕ふて其所に至りこれぞ有縁の靈地也とて一字を建營す當山これ也慶長十八年五月廿五日開山上人遷化し給ふ壽六十二歳存生は有髮の僧形にして鬼神より授りし鉄の足駄をはき鉄の杖を携給ふ此品器當寺の什寶也上人の繪詞傳二卷翼讀一卷あり共に世に行ふ又自作の像に上人髮を植給ふ世に植髮の尊像と賞す御杖水當山はしめは水乏しければ上人鉄杖を以て岩間を穿給へは流水龍の如し服すれば病苦を免るゝもの多し澄禪和尚享保の初に當山に居す開山の

再來と稱す三昧發得の大徳也行狀記三卷あり世に行ふ

◎寂光院は草生村にあり原弘法大師の開基にして文治の頃建禮門院開居し給ひしより今に至り尼寺となる本尊地藏菩薩と聖徳太子の御作なり則門院の御影阿波内侍の像あり庭にはみぎはの池みぎこの櫻有此邊の垣と縁蘊垣といふ門院の御墳は後の山に有これを翠黛山といふ不動干満石石劔ともに弘法の作なり鎮守神明宮はうしろの山にあり天の岩戸といふ岩窟あり落合の瀧は寂光院の前に有此地は常に寂寥として人跡すくなく春は漸軒の梅かはり庭の若艸しげりあひ青柳の糸風にもつれ山藤松にかよりて花橋匂ふ頃は時鳥音信秋といとゞ物淋しく心のまゝにあれたる籬は野邊より露しげく虫の音鳴つれる折かしかまし大原の里の響虫手綱ひかへて法の聲さけと建禮門院の御詠ありしより此草生村には今もくつは虫鳴すとぞなん

(134)

● 瀧清水は寂光院のはとりにありむかしより名高きしみづにして和歌に詠する事敷多しつねに湛々として月の影は清水にやどりて澄しみづは又月の皎なるをうつして清く良邁法師も此地に幽棲して月も浮まん大原やと吟し寂然法師は月をぞやとす大原の里とながめしむかしも今さらには水の面にうかみ出るやうにぞありける

● 江文のやしろは大原井出村にあり大原郷中の氏神也宇賀魂神をまつる例祭は三月三日神興二基あり

● 比叡山は山城近江の二國に跨る山にして直立千九百尺あり最も高さ處を四明嶽といふこの下に二國の界あり京より此山に上るには白川村よりするものと一乗寺村よりするものと八幡村よりするものとの三わり山上より望めば京都の市中は眼中にあり大和河内攝津より近江伊勢美濃若狹等を望むべし近年は外國人の此上に避暑するもの多しと比叡山

(135)

延暦寺一乗止観院は本朝五岳の其一つにして王城鬼門に當れば良峯とも號すはじめ乙日枝山と書しを桓武天皇の御宇延暦年中に傳教大師と叡慮と等し帝都鎮護として根本中堂を建營し給ふより比叡山と改らる又別に天台山我立杣良岳鷲峰台嶺叡嶽大日枝小日枝等の号あり

● 東塔止観院と號す西塔横川を合せて三塔といふ東塔の東谷に十一坊西谷に十一坊南谷に十二坊北谷に十二坊あり

● 根本中堂本尊は藥師佛開基傳教大師の作なり

● 一乗戒壇堂釋迦文殊彌勒を安置す嵯峨天皇弘仁十四年の造立にして慈覺大師入唐のとき漢土の五臺山の土を荷擔してかへり戒壇の下に埋給ふ

● 文殊樓五臺山をうつして本尊には文殊菩薩を安置す

● 大講堂本尊は大日如來梵天帝釋文殊を安置す深草天皇の御願也大會執

行のとき勅使参向の堂なり

◎前唐院慈覺大師の廟堂なり

◎千手堂千手觀音を安置す

◎山王院智證大師の本房にして山王神常に影向の地也

◎千手井又辨慶水ともいふ西塔武藏坊千手堂に千日參籠す此水を毎日關

伽とせしより此名あり平相國清盛熱病の時此水を石船に湛て沐すとい

へり

◎淨土院傳教大師の廟堂也寂澄と號す俗性は三津氏江別志賀郡の人也

◎西塔寶幢院と號す西塔の東谷に九坊南谷に十坊北谷に十二坊有淨土院

を下りて谷川を堺とす

◎法華堂本尊は普賢菩薩なり

◎轉法輪堂本尊は釋迦文殊四天王承和元年勅によつて延秀圓澄造立す

◎常行堂阿彌陀佛を安置す寛平五年靜觀僧正建立なり

◎椿堂如意輪觀音を安置す山門建立以前聖德太子此山に登て勝地を求て

此本尊を安置す又椿の御杖を伽藍の傍に立置れけるが後に枝葉茂りて

大木となる年經て荒廢に及び今小堂あり

◎寶幢院惠亮和尚の廟塔なり

◎相輪檜王城の東北にあたる印にして傳教大師の銘あり俗に鬼門柱とい

ふ高さ四丈五尺九層あり十一の寶鐸を懸る弘仁十一年歲次庚子九月十

一日と有

◎青龍寺黒谷にあり本尊文殊十一面觀音淨名居士を安置す法然上人此所

に住す木住あり俗に元黒谷といふ

◎横川楞嚴院と號す十四坊あり

◎中堂本尊聖觀音は慈覺大師の作脇士は毘沙門不動なり

◎慈惠大師廟ひき びやう 釋ひき 夏源なげんといふ永觀三年正月三日入寂す此ゆへに元三大師といふ俗姓は木津氏にして江別淺井郡の人なり大師の影像飯室横川御園みくにに就て安置す都鄙とひの詣人日々に多くありて靈惟新なり

◎四季講堂しきこうだう五部大乘四季に講讀あり故に名とす

◎大師堂村上天皇の御願にして慈惠大師の開基也彌勒如意輪不動山王を安置す

◎觀音堂華表くわんおんだうくわのひやう 岡又不二門といふ願諸師向者皆不二門の額は慈覺大師の筆也首楞嚴院に掲る

◎慈忍和尚廟じにんわうびやう 横川小聖と号す九條殿師輔卿の十男なり

◎飯室横川の別所也寶滿寺といふ不動堂あり

◎安樂院惠心僧都住し所也本尊阿彌陀佛惠心の作又惠心の像を安置す院内に菩提樹ありこれは惠心僧都の制作せし往生要集を宋國へ贈られし

とき四明の知禮禪師披見して隨喜し報酬のため此菩提樹一株を渡す惠心これを植ゆれば日に枝葉繁茂しけり元龜の兵火に滅しける所十有九年を経て此樹に忽枝芽出て再生す山門是より再興に及ふ

◎無動寺或は無幢寺に作る此所に坊舎十三坊有

◎不動堂相應和尚の作なり染殿の皇后に靈鬼の障碍ありし時相應和尚此不動尊に祈る日を経すして靈鬼退散す故に染殿后より此所を御建立ありし也

◎大乘院慈鎮和尚住し所なり此院のうへに墳墓あり又本願寺の祖親鸞だいりやうおんちん人もこゝに住玉ひ天台の學文ありしなり當院は山中第一の絶景なり山王七社の中客人宮は此谷の守護神なり

◎辨財天竹生島より此地に白蛇と化して影向ありし也宮のうしろに影向石有親鸞聖人弘法の爲此宮に祈誓ありしとぞ

◎雲母坂不動堂本尊不動明王は傳教大師の作なり雲母寺の額と石川丈山の筆とぞ

◎南光坊戒壇堂の傍に有慈眼大師と号す日光御門主の御本坊也

◎當山名勝を述べんに四明嶽叡岳第一の峯也雲母坂より登りて右に小徑あり山上に石佛を安ず是山城近江の境なり絶頂より快晴の日は淡路島四國の海路幽に見ゆるなり

◎滿土混論辻大講堂を東へ下りて四辻ありこれをいふ傳教大師在世の時大黒天出現の地なり大黒堂あり是より南へ行は南谷無動寺の通路也東へ行ば東谷より坂本へ下る也寶地坊證眞の舊跡花王院あり北へ行は根本中堂の參路なり

◎登天石東塔の南谷還教坊の門前にあり此はとりに法性坊意僧正の舊跡あり昔神此石を踏で登天したまふといふ

◎常光坊此寺の前之絶景にして中秋の月佳境也又此地に楓多くありて紅葉の時も眺望あり

◎三ツ子坂戒壇院の後より右へ下るなり

◎青龍石西塔千手院の大巖に大巖あり龍の口をあきたる形に似たり此前に至れば人多く死す千手院の靜觀僧正此石頭に座して一七日加持せしに忽然として黒雲覆ひ山谷震動し岩石くだけ散し也夫より祟なしとぞ

◎三尊石横川に至る道の傍に大岩三ツあり此所魔境といふ

◎五百羅漢石道より西のかた谷の向ふに岩石幾許ならひありひかし五百の寶聖習定の所なり

◎阿字休息峯路の傍に切石あり北嶺回降の行者王城加持修行の所也

◎釋迦多寶佛これ山城近江の境也西は八瀬の里へくだる路あり東は横川へくだる

◎波母山又小比叡ともいふ横川へ行左の方山の半腹に大巖あり神代に白髭明神釣を垂し所なりとぞ

◎寒嵐嶽華表岡より西の高峯をいふなり

◎華表岡又不二門といふ是より横川の分地なり

◎阿彌陀峯鳥井の下に立て西を臨ば二峰あり昔惠心僧都彌陀來迎を拜せし所也又峯越彌陀ともいふなり

◎蟻塚路のかたはらに石垣を築小徑にあり相應和尚此道を通りし時大雨頭に降て前路を崩隔す時に山蟻數萬集りて暫時に路を開て往來をなせしむ和尚奇異の思ひをなして此所に其印を築て蟻塚と号す

◎龍池又赤池ともいふ慈惠大師結界して龍神を潛居せしめり今も雨を乞ふ時はこゝに祈るとぞ

◎腹法石中堂の東の下にあり

◎如法水中堂の關伽井也

◎獨鈷水又寂靜水ともいふ慈惠大師鑿開の水華藏院のうちにあり

◎衣掛石和勢堂より八王子にいたる小徑にあり

◎五男三女降石も同所にあり

◎樟生谷横川より八王子に至る道にあり

◎戒心谷飯室へ下る行路に有

◎定家卿墓横川へ至る道のかたはらにあり傳言定家卿此山に登臨しつねに閑寂なるを愛せしと石の小塔あり

◎奈良坂横川より坂本へ下る道をいふ春日明神影向の地なり

◎地池雲母坂を登て左の路のかたはらに窪きところあり今は水涸て池なし

◎水飲雲母坂の中（中略）にありむかし地藏堂ありて脱俗院と号す眞如堂の阿

彌陀佛山上藥師堂よりはしめて遷佛ありし所也

●音羽谷雲母寺の南に有むかし瀧ありて比叡山音羽瀧といふ今は山崩て瀧なし

●日吉山王社は比叡山の守護神なり東坂本にあり本社七座攝社十四座凡廿一社なり例祭四月中申日とす

●紫野は船岡山より東大宮邊までの總稱なり

●龍寶山大徳寺は今宮の南にあり開基は大燈國師也名は妙超といふ姓と紀氏もと播州揖西といふ所の人也父母子なきとをうれへ書寫山の觀世音に祈りしかばある夜母の夢に鴈飛來り五葉にひらきたる花をあたへけるよと思しより妊り妙超生れて頂の骨をびへ眼光かゝやき異形にして十一歳にて書寫山の戒信律師につかへ經書を讀九流三藏百家の異道まで究めいまだ髪をもそらずして京師相摸に至りもろくの尊宿に參

問して後建長の大應國師に謁し悟道第一の門子となりぬ大應之延慶元年十二月に遷化あつて妙超は京に上り東山の雲居寺に閑居しけるある夜の夢に僧六人來り出世の事いひてほそなく紫野に入佛殿はたてずして法堂ばかり立られしとかやさて又洗心子玄惠法師其外儒者九人一志に禪宗を破らんことを朝廷に奏し議論まらゝ有て諸儒かのく理に負しかも弟子となり洗心子は入室參禪し大徳の方丈を建雲門菴と號すある時花園帝妙超をめし佛法不思議與王法對坐と勅有ければ妙超奏して王法不思議與佛法對坐なと勅答せられしより後醍醐天皇にいたり龍恩いよく薄く辱も投機頌を震筆に遊し興禪大燈國師の號を賜り又高照正灯國師の号を加へ賜る延元二年丑臘月廿二日遷化す壽五十六佛殿には釋迦佛を本尊にして梵天帝釋天達磨臨濟の像を安置す雲門菴には大燈國師の像あり其外花園院後醍醐院後土御門院の神主ましま

す大應國師の畫像も傍にあり眞珠庵は一休和尚此所に住居せしなり眞珠庵といふ一休の筆の額あり庭に聖泉あり和泉式部が夫少將保昌の宅地なりしといふ當寺の伽藍は赤松圓心同じく則祐柱石の料を寄す山門は連歌宗匠宗長修造し閣は千利休方丈門は明知光秀寄進なりといふ

◎建勳神社は船岡山の下にあり別格官幣社なり明治二年の新營にして右大臣織田信長公を祭る官祭は七月一日なり

◎今宮の社は紫野にあり疫の神也一條院の御宇正暦五年六月廿七日船岡の山上にまつりけるを告夢ありて長保二年五月九日此所にうつして今宮とあがめらる今は牛頭天王を勧請して二座なり三月十日には夜須禮まつりとして加茂上野の里人烏帽子素襖やうのものを着太刀をかたけ笛を吹鉦鼓をならし此社をめぐりてやすらひ花よと囃しける一説は春陽の節はかならず疫の神分散して人を惱すなれば當社をなだめしづめ

ておどりを催すとなり又高雄の神護寺の法華會には加茂今宮より祈念して悪氣をなだめんとて踊をなしけるより始るとかやさるゆへに高雄の法花會はやすらかにはてよとはやせしをいつの比よりかやすらひ花よあすなひ花よなんともいふ説あり御靈會は五月十五日也前の七日は御出とて船岡山の東なる御旅所へうつし侍る

◎常盤の古跡戦經誕生水は今宮の東大源庵の傍にあり左馬頭義朝の別館也常盤御前こゝに住て平治元年に牛若丸を産しとなり

◎舟岡山は紫野の西にあり舟の形に似たれは名とせり應仁年中此山に塔をかまへ細川山名の兩陣數度合戦ありし也

◎雲林院は紫野にあり淳和帝の離宮なり仁明天皇の御子常康親王これを傳へ領し給ふ其後天曆帝の御時僧正遍昭を別當に補せられ堂塔嚴重に建られたり今は雲林院と唱て此はどりの郷名となる舊跡院にのこるじ

かしは櫻の名所なれば和歌には雲の林と詠る

◎小野道風の墓は雲林院より一二町隔たりたる東の田圃の間にあり

◎紫式部墓は小野篁墓の東にあり四方は田圃なり

◎七の社は舟岡の南にあり當社は染殿の後の祈願により三笠山の春日明神を勧請せし所なり其後伊勢石清水稻荷加茂松尾平野を併奉り七の社と號す又一説よ京の北に七野あり内野北野柏野蓮臺野上野平野等の中に祭れる神なればしかいふとそ諸願あるものは社前に砂を積りて三笠山の状をうつすなり春日影向の棕の木も此地にあり

◎今宮の御旅所は雲林院の巽にあり毎歲五月七日本社より神輿遷座ありければ茶店軒をつらね芝居放下師本弓湯弓の音絶へず十八日神輿あらひまで賑しき事いはん方なし

◎西加茂神光院は開基弘法大師にて自作の像を安す四十二歳の像也世に

我除大師と稱す本尊愛染明王は弘法作の也丑年丑の月の丑の日に至れば當院より財福を得る守りをいだし諸人群參する也

◎同所靈源寺は後水尾法皇の御願にして開基は佛頂國師也本尊は釋迦佛脇壇には後水尾帝の聖像又開山の像を安す辨財天社撞鐘堂あり

◎吉祥山正傳寺は同所にあり禪宗にして開基は東岩宏覺禪師也一山に楓樹多くありて紅葉の頃は千枝爛熳として楚岸吳江をこゝにうつす也

◎船の送り火と正傳寺のうしろの山にあり例歲七月十六日の宵に此所にて船の形に火を燒聖靈會の送り火とする也

◎松尾山鞍馬寺と号するは愛宕郡北方の名岳鞍馬山の下にあり白鳳十一年天武帝大友王子に襲此所まで逃のび給ひて鞍をける馬をつなぎしより鞍馬と名つけ初しなり抑此寺は延暦十六年に大中大夫藤伊勢人の章削なり此人佛に歸する事篤たり勝地を求めて精舎をいとなみ觀世音

の像を安置せんと常に願りある夜の夢に洛北の山嶺に至る忽然として
 白髪の老翁顯れ語て曰此山は天下にすくれ形は三結に似てつねに彩雲
 たなびく汝此所に精舎を建立せば利益無量ならんとぞ太夫翁の名を問
 しに王城の鎮護貴船神なり夢覺て何れの所ともしらでありければ久し
 く飼る白馬に鞍を紐ひむかし摩騰法蘭は舍利像經を白馬に乗せ震旦に
 來れりされは白馬は靈畜なり汝定て夢の地をしるらんとて童子をつけ
 て馬を放しに其馬都の北なる山に駈茅の中にそ止りぬ童歸りて此よ
 しを告る太夫往て其山を見るに夢にたがはずしかも叢林に毘沙門天の
 像を得たり則一字をいとなみて此像を安置せりされども觀音の像を置
 すして願ひいまだとげざるよと思へる又其夜の夢に天童來りて曰汝多
 門天の像を得て觀世音を願ふ應 知觀音と多門天の名は異なれども同
 一跡なり覺て後願ひ今は充りと勸喜せり又一字をいとなみて千手觀音

を安置す今の西の觀音院これなり正月初の寅の日諸人群參する事は毘
 沙門天十種の福をあたへんとの誓願ありて買人うりかふ物の利潤に
 虎の千里を趨る勢を縁にとりて此日參るなり 六月廿日の竹伐といふ
 は當所の俗人本堂と西の觀音堂に集りて一丈はかりなる青竹を双方に
 立をさ本堂は近江方觀音堂は丹波方となつけ一山の院衆法筵を催し互
 に相圖の辭を合せかの竹を三段にさりて堂を下り一の曲切石のもとへ
 足に任せて走りゆく早を勝とする也此來由は往昔南都招提寺の鑑真僧
 正此山に分入れしに雌雄の大地あつてちまたに 蟠る僧正しばらく持
 念ありければ一ツの蛇忽に滅けり今一ツに向ひてけふよりして人を惱
 す事なく又當山の用水ながく絶す事なかれとて放やられけりそれより
 本堂の北にある關伽水溜として涌出今にたゆる事なししかれば竹
 をかの蛇になぞらへ是をさりて魔を拂ふなり

●韋明神はくらまの氏神にして大門のうちにあり祭れるところ大巳貴命
 一座なり朱雀院の御時天慶年中に勸請ある由木と号する事天子の御腦
 あるひは世のさはがしさとさ韋を此社にかけらるゝなり例祭は九月九
 日とす庭石焼炭木芽漬は此所の名産なり籬おろしうす櫻世に名高し
 ●僧正谷は源牛若丸異人に過會刺撃の法さまくならへるとなり
 ●貴船社は鞍馬山の西北にあり水神岡象女の神なり夫伊弉諾尊軻遇突智
 をさりて三段とし其ひとつを高高とそ申ける此垂迹はやまどの丹生
 社と同躰なり皆龍徳の降迹にして今も雨を晴雨を止る事を祈るには此
 二神なり梶取社は二瀬の里の北に貴船の一の島居あり其かたはらにし
 つめます神代のむかし萬の神木船にのられしときかちをとりし神とぞ
 足洒石は木船川の中にあり宇治橋姫貴船へもふで此石に休ひ足を洗し
 なり螢石は木船くらまの落合川より南にして麓にあり

●暗部山は貴船山をいふなり日神岩戸にこもりましますと世原悉く
 くらやみとなるを闇山といふ
 ●大悲山はくらまの遙奥なり花瀬峠をこへ別所村に至りて観音堂あり平
 相國清盛のいとなみしとなり
 ●岩屋山金峯寺は葛野郡出谷村の北にあり本尊は不動明王也此山は古へ
 薬王菩薩現し給ふ靈場也開基は役行者又弘法大師こゝに籠りて密法
 を修し給ふ所なり椋敷嶽は岩屋より一里ばかり北にありて惟喬親王樓
 臺をいとなみ給ひ幽居ありし所なり
 ●上品蓮臺寺は千本通の北頭にあり開基聖徳太子なり其後僧正觀空住職
 して眞言宗とあらたむ本尊地藏菩薩は聖徳太子御作なり又弘法大師自
 作の像を安置す寛平上皇此所にねりて密灌を稟けしといふ
 ●金山天王寺と北野社東の門通にあり天台宗にして本尊如意輪觀音は聖

徳太子の作にして洛陽觀音巡の其一ヶ所なり開基は聖徳太子にて則自作の像を安置す太子堂の額は釋迦如來轉毫光所上宮太子淨跡中心と書して小松院の震翰なり

●紅梅殿は天王寺の前にあり祭る所菅神の愛し給ふ飛梅の靈神なり

●清和院は七本松通一條の北にあり眞言宗にして聖觀音地藏菩薩の二尊を安置す原は京極通春日にあり今清和院御門と號す明曆年中に此地に移す

●具足山立本寺は下立賣の西七本松にあり法華宗にして日像上人を開基とす祖師堂に安置す日蓮上人の像を背影といふ初め松永久秀の男右衛門佐久道が侍に佐々木廣次といふ者出陣の時山中に懷行て背を覆ひ土中に藏む盜人これを奪んとするに磐石の如し大に惶れ廣次に懺悔して當宗門と成此尊像に仕て終を遂ける

●千本畑魔堂は蓮臺寺の南にあり引接寺と号す宗旨は眞言也本尊は焰魔大王にして法橋定朝の作當寺の開基は定覺律師と鐘の銘にあり大念佛は文永年中に如輪上人は之めたり此寺の櫻に普賢像といふあり彌生の比花盛りをまちて狂言をはぢむる也一説にむかし笙の窟の日藏上人冥土にいたりければ帝いまして上人に向ひて宣ふやうは我娑婆の業因深ふして今淺ましきくさるしみを受たり汝娑婆に歸りて我爲に千本の卒土婆を供養すべしと日藏肝涙袖にあまり急歸ると思へは夢なり此旨を奏聞して舟岡山に千本の卒土婆を建當寺を造立しいかめしき御とふらひ供養しけると也

●大報恩寺は引接寺の西にあり千本釋迦堂といふ本尊釋迦佛は安阿彌の作也宗旨眞言にして開基求法上人也春二月に遺教經の法會あり世人當寺をよしてイキケウといふ

◎北野神社は官幣中社にして北野右近馬場にあり菅原道真公を祭る東は
 中將殿とて公の嗣子西は吉群女とて公の北の方を祭る抑も公の祖は天
 穗日命の苗裔にして歴世たゞしく是善公の御子右大臣名は道真といひ
 いとけなうして顕悟すぐれ貞觀四年に文章生に補し得業生となり同
 しく十二年に對策及第し十八年に侍從にすゝみ元慶六年渤海國の使者
 鴻臚館に在りて右大臣の詩藁を見て稱しけると風製白樂天に似たりけ
 るとかや仁和年中に讃岐國守に任し寛平五年に參議となり六年九月に
 吉群院にて五十賀を修しけり九年に中納言をへて大納言にのほり大將
 をかね昌泰二年二月右大臣にすゝみ右大將なりきこの時左大臣藤原時
 平ととも上皇の勅をうけ天子を補佐し奉りぬはしめ帝十四にして猶
 も聰明にて位につき給へり一日朱雀院に行幸のれりふし上皇帝に語給
 ひけるは右大臣年高く才賢し専ら任用せらるべしと也右大臣かねく辭

したまふ左大臣大にうらみ奉り妹の皇后なりけるをかたらひかずく
 讒せしにより遂に昌泰四年正月廿日大宰權帥に左遷し玉ふそれより
 三とせすぎ延喜三年二月廿五日配所にて薨之給ひ安樂寺に葬奉る御
 年五十九才也其後菅靈にてさまゝの事ありしかば延長元年に左遷の
 宣言をすてゝ元の官にかへし正二位を贈給へり天慶三年七月菅靈右京
 七條の女子といふものに御詔宣ありて北野右近の馬場に棲どの給ふ又
 近江國比良社の禰宜良種に託し給ひけると大内の北野に一夜に千本の
 松を生せん社をば天滿天神と崇べしとなりこゝに於て朝日寺の僧最珍
 右京の女子等と力を合せ靈祠を作り天德三年右大臣師輔なをも神威を
 うやまひ巍々たる大厦をあらためいとなむ今の北野宮是也一條院の御
 宇正曆四年五月に勅使を宰府の安樂寺につかはし大政大臣正一位を贈
 り給へり末社に船の宮といふは彼一夜の松なり二月廿五日は萊種の御

供の御神事あり七月六日は御手水とて參詣人内殿に入神寶虫千あり九月四日當社の祭禮なり

●東向觀音之思明塔の西側にあり本尊は梅櫻の二樹を以て管神とせ給ふ十一面觀世音なり

●願成就寺は影向松の坤にあり本尊は釋迦多寶佛の二尊なり此寺之足利將軍義滿山名氏清と内野に於て合戦あり義滿討勝て氏清か首を得たり氏清は無双の勇士なるゆへ其追悼のためとて道場を建一万部の妙興を讀誦す故に經王堂ともいふ

●平野社は北野より乾にあり官幣大社なり祭神四座なり源、平、高階、大江、此四姓の氏神なり第一今木神は日本武尊にて源氏第二久度神は仲哀天皇にて平民第三古開神は仁徳天皇にて高階氏第四比咩神は天照大神にて大江氏なり照社は天穗日命中原清原藤原秋篠四姓の氏神なり

やしろは桓武天皇延暦年中に建立せり御くらゐは正一位清和天皇貞觀六年七月十日にさづけ奉れり例祭は四月二日なり境内に櫻多し花時遊人の來り賞するもの織るが如し殊に夜櫻を賞せり紙屋川といふはむかし此川のはとりにて紙をすき商ふなり大嘗會の御とき荒見川の穢とは平野の橋より少し北にて行るゝ也荒見川は紙屋川の別名なり又仁和川ともいふむかしは仁和寺廣大にして東は紙屋川のとしまで寺院ひまなく造りつゝけたるよしひ傳ふ

●金閣寺は平野の乾衣笠山のふもとにあり禪宗にして鹿苑寺ともいふ應永四年に將軍義滿高閣をたて花美をつくし金鉞を以て一面に柱ひ閣の前には池廣くして九山八海となづけ傳ふ奇石さまざまあり金閣三重にして第一を法水院といふ彌陀の三尊夢窓國師の像鹿園院殿道義の像あり第二を潮音洞といふ自然木の觀音四天王を安す第三を究竟頂といふ

後小松院勅額あり板敷三間四面一枚板四壁の板とくく金鉋を押すひ
 かしと境地はなはだ廣かりしなり惣門は紙屋川の西今の地藏院の傍に
 あり礎今にあり御所を芳徳といふ金閣の廻りみな池にして芳徳の間に
 反橋を架す池の南に拱北樓あり巽に小御堂あり東に地藏堂あり其地
 を地藏本といふ其北に大塔あり本尊彌勒方丈の北に一峯あり縦目峰と
 號しぬ北方の寄觀此地にすくれたるはなし中にも夕佳亭といふは南天
 を床柱となし胡枝花の枝を以て欄間となし楠を以て天井とし黃楊を以
 て違細とす世間歌にうたへて稱せり

●鏡石は金閣寺の北紙屋川のうへにあり石面水晶のごとく影を遷すをも
 つて名とせり

●梅尾山高山寺は華嚴宗にして本尊は釋迦如來明惠上人の開基也紀州有
 田郡の人なり九歳の時高雄山の上覺に従ひ俱舍頌をよみ密乘を尊賢に

さゝ、雜華を景雅にならひ又文殊師利に歸し日々に九字呪を持し十六歳
 にて剃落し東大寺戒壇に於て受具し興然阿闍梨にしたがひ兩部の密法
 をうけ夫より梅尾に住賢首宗をととなへぬ又和歌の道にも心深く自道心
 集と云書を書歌を集む新勅撰にも上人の歌あまた人侍りぬ寛喜四年正
 月十五日寂す日本茶の祖にして宇治の茶はこより移せしなり此地高
 尾梅尾梅尾とて三尾の一なり到る處楓樹ならざるなく清瀧川に臨み風
 景絶佳なり騷人遊客の杖を曳くもの夥だし

●棋尾山平等院は眞言律にして開基は智泉法師なり本尊は釋迦如來明惠
 上人の作り玉ふ千手觀音は聖德太子の御作とぞ聞へし

(161)
 ●高雄山神護寺は光仁帝の御宇和氣の清麿奏問し建立有しなり初めは神
 願寺と號しぬ淳和帝御宇天長二年に空海に賜る神護國祚眞言寺とあら
 ため号す其比詔を下して金剛定寺の額を空海和尚に書しめんと勅使

を立せ給ひけるおろふし五月雨あめして清瀧川きよたきがわの水増りて高雄山たかおのやまのゆき
 止りける勅使則川のほとりにたすみ玉たまひ案あん玄煩えんわづらひ給ひけるを空海くわうかいし
 ろしめして筆に墨をふくませ持たる額かぶに向ふて書給ふに墨霧すみぎりのふる如
 く飛とで額かぶの面に忽ち金剛定寺の四字現ける額書石と石面に窪あり硯石
 とす櫻門の外にあり金堂の本尊薬師如来講堂の五大尊ともに弘法大師
 の作也櫻門の額は仁和寺信覺法親王の御筆納涼坊なつごうぼうには弘法の像を安す
 文覺上人の畫像もあり鐘樓は金堂の良にありて鐘の銘は菅原是善卿序
 の詞ことばは橘廣相筆者は藤原敏行とよゆきなり是を世に三絶と號す本朝の名器にし
 て又ならぶものなし八幡宮は經藏の巽にあり此所はむかしより紅葉の
 名所にて奥の地藏院より下なる溪たにをとるかに見おろし立田の秋の色を
 ひ水にうつろふ紅くはべに峯の夕日かよさあらしに見たるけしき錦をさ
 らすなと詠よみけんも思ひやられ停車くるまをとめていりまをみる看楓林あきのこけ晚ゆふとと杜牧とくぼくが詞なり

◎御室仁和寺みむろにんじは眞言密乘まことむすしの靈地れいぢなりはなめ光孝天皇の御願として仁和四
 年八月にいとなみ給ふ代々法親王の法務にて御門跡と稱し給ふと此寺
 にはなまよりけるとかや御室と号するは宇多天皇御出家の後延喜元年十
 二月に御室を此所に建させ給ふゆへ也又承平の御門も天曆六年御出家
 わりて此所にうつり給へり金堂の本尊は阿彌陀佛觀音勢至脇士とし給
 ふ觀音院には千手觀世音たなせ給ふ祖師堂は弘法大師自作の像臨壇に
 と寛平法皇の震影しんえいを安す五重塔九所明神十二權現經藏きやうざん關伽井せいかい下乘げじやうの立
 石は藤木甲斐ふじのこが筆なりと當山はむかしより櫻多し山嶽さんかく近ければつねに
 あらしはげしく枝葉えはもまれて樹高きたかからず屈曲くつこくすることためたるが如し
 彌生やよひの御影供は猶更花なほさらなの盛さかには都鄙みやこの貴賤きせん春の錦にしきを争あそひ春色しゆんしきの風客
 花にめでし日をおしむと話し論なり

◎鴨瀨なつたせは仁和寺の西にあり此所は砥石とこいしの名産めいさんなり

◎妙光寺なまきやうと鳴瀧なるたきの里の北にあり初は内大臣藤原繼ふじわらの長男右少將忠年追福のため北山の別業べつぎやうを寺となし妙光禪寺と号す開基は法燈國師なり本尊は釋迦佛を安す寶陀閣ほうたかくの額がくは木庵和尚もくあんしやうの筆也紫金臺しきんたいの舊地はうしろの山上のこに遷うつる印金堂いんぎんだうは堂内の四方しやうほう惣印金そういんを押おして當所の莊觀しやうくわんこゝにとゞま

◎泉谷いづみたにの法藏寺ほふざうは黄檗宗派わうはくしゆはにして百拙和尚ひやくせつしやうの開基なり同所西壽寺さいじゆじといふは淨土宗じゆつとしゆにて本尊阿彌陀如來あみだにらは惠心僧都ゑしんしやうの作り給ふなり

◎五臺山ごたいざんには般若寺はんにやじあり開基之觀賢僧正くわんけんしやう本願は大江玉淵朝臣おほえたまふちなり宗旨は眞言古義しんごんこぎにして本尊は文殊菩薩阿彌陀堂もんじふさつあみだどうには彌陀觀音勢至あみだくわんおんせいしの三尊を安んず觀賢僧正くわんけんしやうの座禪石ざぜんせきは北の方なる山にあり關伽井せきあゐは堂のうしろにあ

◎等持院とうぢいんは衣笠山えかさざんの麓ふもとにあり開基は夢窓國師むそうこくしにして足利尊氏あしかがたうぢの建立なり

いにしへは仁和寺の二院といへり本尊の地藏菩薩大聖歡喜おほんがひ天てんの堂どう鎮守ちんしゆ六清明神等今むつしやうめいじんどうに在りこれ皆みなむかしの遺跡いせきなり等持院とうぢいんの額がくは相國義滿さうこくぎまん公の筆足利家累代あしかがたのついでの昭堂せうどうは慈照院じせういん義政公ぎせいこうのいとなみしなり證果しやうこくの額がくは開山夢窓かいざんむそうの筆なり

◎衣笠山えかさざん之等持院とうぢいんのうしろなる山なり仁治年中にんぢなちゆうに内大臣藤原家良公別莊ふじわらけいりやうこうべつしやうを建つ衣笠内大臣えかさうちうぢといふは是なり絹掛山きぬかけざんといふはむかし寛平法皇御室かんへいほふみまに於て水無月の炎天みづなづきのえんてんに深雪ふかゆきの眺ながめを好み給ひ此峯このみねに白しろき絹きぬをかけさせ玄冬げんとうのけしきをうつし給ふといひ傳ふ

◎大雲山龍安寺おほいづみざんりやうあんじは等持院とうぢいんの西にあり開基は義天和尙文明年中ぎてんしやうぶんめいなちゆうに細川右京大夫勝元ほそがわのうけいやうだいふしやうげんいとなみしなり初は左大臣實能公さだねこうの山莊やましやうなり徳大寺公有公とくだいじこうぐの代細川勝元よほそがわのしやうげん此地このちを乞請こひうけられしなり本尊は釋迦佛大元達磨しやうたがはふだげんたつまの像ざうは東西の壇だんにあり惠光禪師ゑくわんぜんじ像ざう細川勝元ほそがわのしやうげんの像ざうを安す堂の内天井だうのうちにやうけいの畫ゑは東福寺とうふくじ兆殿しやうてん

司の筆也方丈は勝元の館書院を以ていとなみ庭前の築山地邊の風色は勝元の好みなり此地北は衣笠の山を負ひ南之遙に闔て温氣めぐる事早し池の面には水鳥むれあつまり玄冬の眺をなす是を龍安寺の鴛鴦とて名に高し

◎真如寺は衣笠の巽松原村の西にあり開基は夢窓國師本尊は釋迦佛佛光國師像壇下に安す遠磨佛國夢窓の三影東の脇壇に安す初は無著尼といふ人こゝに庵を結て正脈庵といふ康永年中に高武藏守師直修造すといへり

◎正法山妙心寺は龍安寺の南木辻の西にあり開山は關山國師信州の人なりとせ京に來り大灯國師によりて衣鉢閣に上り一夕關山雲門の關の字を會得す大燈また雲門大師來れると夢見て關山と號す後醍醐帝の問に答奉りしかも尊旨にかなふ其後花園法皇禪苑をたて關山を住職とな

し給ふ則法皇も方丈の後に一院をいとなみ住せ給ふこれを玉鳳院といふ佛殿の本尊釋迦佛左は迦葉右は阿難達磨臨濟脇壇の左右にあり神牌は花園院、後花園院、後土御門院、後柏原院、後奈良院なり法堂は北にあり經藏は東にあり玉鳳院は正面に唐門あり額は法皇の御震筆なり◎雙岡は妙心寺の西にあり一二三岡相並たり

◎吉田兼好法師の舊跡二の岡の西の麓にありしを近世岡の東長泉寺にうつすなり

◎法金剛院ならびの丘にありひかし清原真人夏野の別莊也其子右大臣瀧雄公もならびの丘のうへに山莊をいとなみて後寺となして雙丘寺となづく已に荒廢せしが大治年中に待賢門院再興ありて號を法金剛院とわらたひ宗旨は四宗兼學中興は圓覺上人なり本尊は阿彌陀如來丈六の像にして春日の作なりといふ